

松川停車場 福島停車場

三百二十八

陸奥の安達ヶ原の黒塚に鬼ともれりときくはまことか
我ためにこれや安達の黒塚に冬草かけて人はいりつゝ

兼 能
行 能

物産は生糸、白袖、羽二重、紋織羽二重、萬古焼、水豆腐等なり
楸の温泉 は安達郡深澤村に在り停車場より二里餘都て皮膚病火傷切疵等に特效あり

松川停車場

松川 は信夫郡に屬し戸數四百人口凡二千一小驛にして他に記すべきものなし

福島停車場

福島町 は同信夫郡に屬し舊と板倉氏の城下にして戸數三千人口殆んど二萬商業繁昌し
街衢廣く近郷の物貨多くは此所に集まり宇都宮以北仙臺以南の最も殷富なる一都邑なり福

島縣廳及び其他諸官衙銀行諸會社等あり當所より米澤へ十一里餘中村へ十四里梁川へ三里
餘保原へ一里半掛田へ凡四里物産は生糸真綿平絹羽二重等とす

信夫山公園 は街の北凡十八町信夫郡御山村に在り四方に連亘し古來著名の山なり山上
松樹鬱茂眺望頗る美なり又文字摺石は信夫郡山口村に在り

陸奥の忍ふもじすりたれゆへに亂れそめにし我ならなくに
里の名も忍ぶとききは山吹の花さへいわぬ色に出ける

日をへつゝ都忍ぶの浦さひて涙より外に音つれもなし

河原左大臣

光 俊

入道關白

家 隆

能因法師

人目のみ忍ぶか原にゆふしての心の内に朽やはてなむ
信夫の渡 は街の東四町許の所に在り今渡り舟場と云ふ

渡限にきりたてとひしから衣そての渡に夜も明にけり

重 之

飯坂温泉并に湯野村 は福島停車場より二里餘道路平坦馬車の往來頗る便なり地は摺上
川に添ふて湯野村と對し温泉所々に湧出し泉質概ね無色透明無臭なり飯坂にあるを鮎湖

透達波古瀧の湯金瀧赤川等とし湯野村にあるを疝氣の湯霧湯狐湯穴原湯等とす風景頗る奇

にして東南は一望廣野西北は兀突たる群山之を圍み摺上川の急湍沫を飛ばして清涼掬すべ

し大鳥城址へ西館山の上に在り保元二年藤原秀衡同族佐藤元治に命じて城かしむる所にし

て源頼朝泰衡を討つや元治之を石那坂に禦ぎ敗死す瀬上城陥る同夜此城も亦尋で陥り佐藤氏

亡ぶ實に文治五年九月十二日なり埋深猶辨すべし元治の墓は井佐野村醫王寺に在り其側に

嗣信忠信の碑あり又同寺に義經辨慶元治等の遺物あり

桑折停車場

桑折驛 は伊達郡に屬し戸數千三百人口七千稍殷富の地なり驛内萬松寺と稱する寺あり

其觀世音は里人の説に因るに東京淺草の觀音の本體なりと云ふ如何にや半田銀山は停車場

より北僅かに二十町餘の所に在り當所より藤田へ一里小坂へ一里餘梁川へ二里半飯坂へ二

桑折停車場

三百二十九

越河停車場 白石停車場

三百三十一

里湯野へ一里餘なり物産は生糸桑苗等とす桑折町東箱崎村に阿武の松原と云ふ古跡あり

みちのくの思ひしのふにありなから心にかゝるあふの松原

昔見し人をそ今の忘れゆく阿武隈山のふもとばかりに

越河停車場

越河 は宮城縣刈田郡に屬し戸數僅かに三百人口二千五百山上に在る一小驛なり貝田へ

一里齋川へ一里耕野へ二里なり

厚樫山又國見峠 は本と下紐の關と稱す昔源賴朝泰衡を討するとき泰衡の將大木戸三郎

なる者此山に壘を築き防戦せし所なりとす空濠今猶存す

立ち歸りまたや隔てん今宵さへ心もとけぬ下紐の關

左大將公名

相見しと思ひかたむる中なれやかくとけかぬる下紐の關

季經朝臣

白石停車場

白石 は同刈田郡に屬し舊と伊達氏の臣片倉小十郎の城下にして戸數一千餘人口七千あり

昔上杉景勝の將甘糟備後守の居城にして伊達政宗之れを攻落し片倉氏に與ふ今猶其城址

を存す宮村へ一里餘鎌先へ一里廿町五邊刈田へ五里小原温泉へ二里餘下戸澤へ四里上戸澤

へ五里富方へ一里餘角田丸森へ各五里なり物産は麵類紙布及び紙等とす

青根温泉 は白石停車場より六里餘日に馬車往復す泉質頗る透明にして無臭無味なり

土地は高燥にして眺望頗る佳なり旅店ハ何れも清潔にして旅情を感むに足れり遠刈田は青根より近きと一里餘是れ亦一個の湯治場にして夏時ハ仙臺地方より來遊する者極めて多し有也無也の關有名なる古跡なり

願みきし人の心も變るやと問ても見は有也無也の關

東路のとや〜鳥のあけほのに時鳥なくむや〜の關

武夫のいつさ入さに契するとや〜鳥のむや〜の關

武隈神祠 は岩沼村にあり毎年舊曆仲春初午祭禮を執行

鼻輪松 は有名なる古跡なり二株なり

武隈や鼻輪に立る松たにも我こと獨ありとかはきく

源重之

うへし時契りやしけん武隈の松を再ひひみへる哉

元警朝臣

武隈の松は此度跡もなし千年をへてや我はきつらん

能因法師

武隈の松は二木を都人いかにと問は二木と答へむ

季通朝臣

名取御湯

ねほ空の雲の通路見てしかをとりのみ行けば跡はかもなし

鹽釜の浦にや蛸や絶へにけんをとすのとりの見ゆる時なき

西行法師

實方中將墓 〇は鹽手村にあり

白石停車場

三百三十一

仙臺停車場

三百三十三

朽もせぬ其名計りを留め置て枯野の薄紀念にそみる

別るへき別れなりせは思ふ共涙の道に咽はまじやは

名取川 仙臺市の西南にあり

能 宣

名取川瀬々の埋木顯れはいかにせんとか相見初けん

陸奥に在と云なる名取川うき名取ては苦じかりけり

仙臺停車場

仙臺市

は本伊達政宗の居城にして往時千躰と稱せり城は廣瀬川を帯びて青葉山下に倚

り城域極めて廣し戸數は一萬三千二百七十餘戸市街の井然たる商估の繁盛なる陸羽地方一

大都會とす鎮臺あり毎年十一月十五日招魂祭を執行し花車烟花等の隘あり甚だ盛大にして

四方より來り觀る者數萬人に及ぶ又近傍青葉山麓岡等名所舊跡妙なからず有名なる多賀

城の碑燕澤蒙古の碑等皆此の近傍なり

青葉山

たつねはや青羽の山の遅櫻花の残るか春のとまるか

立よれば冷しかりけり水鳥の青葉の山の松のゆふ風

太上天皇

式部大輔

鷹岡岡

東路や鷹岡か岡を來て見れば赤もの裾に色を通へる

宮城野

ともしつる宮城か原の下露に信夫文字習乾く夜と無

匡 房

小秋原また花咲ぬ宮城野の鹿や今宵の月に鳴くらん

敦 仲

玉田横野

とりつなげ玉田横野の放駒鷹岡か岡にあせみ花さく

俊 頼

多湖浦島

あまた度君か心を陸奥の多湖の浦島うらみてそふる

多賀城遺碑

陸奥のいはて信夫はえりしらぬかき盡してよ靈の碑

頼 朝

鹽竈停車場

鹽竈

は有名なる鹽竈神社あり安産之神符を出す毎年舊曆正月二十八日同三月十日祭禮

あり市中甚賑ふ又同所より小舟に掉して無數島嶼の間を廻り松島に行くも亦一興あり且つ

石巻金華山の便船あり野田の玉川等此の近傍なり

野田の玉川

陸奥の野田の玉川見渡せば汝風としてこぼる月かげ

順徳院

夕されは汝風あして陸奥の野田の玉川千鳥をくなり

能因法師

鹽竈停車場

三百三十三

三三三十四

途絶圮 是俗に轟橋と云ふ

いかにして途絶の橋に習てか渡らぬ先にかくは危き

遠近の人う通はぬすみ渡る月に途絶の橋をかりけり

十符池 是高森館の南にある小池なり

遊覧するともこの管もさへ能て隣近く千鳥なくなり

ふみ席緒に成まてに懸籠り下朽ぬらしとふの管も

都島 是末松山の東北笠神道の傍にあり音石突出海中青螺の懸出すると一般奥井沖の石

等著名の古跡なり

沖の井の身を憐れも悲しきは都島への別れなり亮

別路に身をやく沖のかすそへて都島邊に飛ぶ聲かな

面和久橋 是留ヶ谷村にある土橋なり昔は楓樹多かりしが今は僅に二株を存す

ふまはをし紅葉の錦ちり敷て人も通わぬ面わくの橋

末の松山

君を置て仇し心をわれもたは末の松山浪もこねなん

契きなかたみに袖を絞りつゝ末の松山浪こさしとは

浦近く降り来る雪は白波の末の松山越ゆかそ見る

未 經 重 家

鎌倉右大臣

小 町 公 頼

西 行

元 輔 奥 風

三三三十五

霞立つ末の松山はのくゝと浪に花さく横くものそら
我袖は名に立つ末の松山の浦より波の越へぬ日も無

家 隆 土 佐

鹽釜

鹽釜の浦ふく風に霞はれて八十島かけてすめる月影

見渡せば霞のうちも霞みけり烟りたあひく鹽釜の浦

我かせこを都にやりて鹽釜の鐘か島のまつそ久しき

千賀浦

腕の千賀の浦かせ音さへて友なし千鳥浪になくなり

松島停車場

松島 是鹽釜又は松島停車場より行くべし松島停車場より廿町餘瑞巖寺、觀瀾亭、富岡觀

世音等皆其勝區たり風光の如何は亦云を要せざるなり

松島や鹽くも海人の秋の袖月は物思ふ習ひのみかは

逢事はいつじかとのみ松島の變らず人を戀わたる哉

小牛田停車場

小牛田 是山神の古社あり土俗子なきもの之を祈れば豊ありと謂ふ毎年舊曆三月十二日

同十月十二日兩度祭禮あり賽詣者頗る多し又石の巻への順路にして馬車の便あり

松島停車場 小牛田停車場

三三三十五

小午田停車場

三百三十六

平泉中尊寺衣川 是藤氏三代の遺跡にして陸中國西磐井郡にあり(一)の關停車場より二里半前澤停車場より一里半許(前)面一帶北上川の急流を擁し連山重疊遠く奥羽の雲を籠む風光頗る佳絶の實あり平泉館は伽羅御所とも稱し善美を盡くし即ち秀衡等三代の居館なりしが滄桑の變今殆んど尋ねべからず高館は源義經の舊墟にして里俗之を判官館と稱す北上川に添て斷岸絶壁松杉蒼鬱たり衣川は水源二派に出で其一は酸川嶽の麓に發し其二は下風山より出づ歴史上頗る有名の河とす古歌數多あり

秋より落るなみたは陸奥の衣川とそいふへかりける

誰袖につくむ螢の衣川たもひあまりて玉ともゆらむ

ころも川汀によりて立浪は岸の松かねあちちふなり鬼

家 隆

西 行

衣川棚 是下衣川村にあり安倍頼時同貞任の居跡なり秋草空しく老ひて綠苔深く封すると殆んど千年殘礎敗瓦往々土中より出づ中尊寺は仁明天皇の嘉祥三年釋圓仁の開基にして時の陸奥守藤原興世資を投じて堂宇を修造す堀川天皇の長治二年藤原清衡に勅し大ひに其規模を擴張せしむ同二年二月工を起し天仁二年に竣る堂塔四十餘宇僧坊三百餘即ち勅願所となる後基衡秀衡相尋て之を増修し堂塔坊舎軒を列ね費を争ひ殿宇樓門光彩赫耀として海内屈指の靈場たり建武四年野火の爲め忽ち烏有となり僅に經藏金色堂(光堂)の二字其全きを存せり金色堂は正應元年鎌倉將軍惟康親王其常に雨露に曝され金装全く剝脱するを惜

み保存の爲め覆堂を造立せらるを以て漸く存するを得たり此堂は三間四面高さ一丈上下四面悉く金箔を貼し内部は銅柱彫梁悉く螺鈿珠玉を飾り壇上には阿彌陀、觀世音、勢至、多門、持國、二天、六地藏等十一軀を安置す皆法橋定朝の作なりと云ふ左右には藤原氏三代の棺を納め遺骸各嚴然なりと傳ふ本堂の傍に石碑あり芭蕉翁の句を勒す

五月雨の降殘してや光堂

經藏 是金色堂に隣り元二階の堂なりしが建武四年の災に上層燬失し其殘る所を修理し三間四面の堂とせり各種經文を藏し佛牀は何れも毘首羯摩の作にして精妙比類なし鳥羽天皇御願に依て下し賜ふ靈佛なりと云ふ其他運慶作千手觀音等あり又義經辨慶等に係る遺跡頗る多し

達谷 是中尊寺より一里半往時田村舊勅命を奉じ惡路王を滅せし地にして其當時の建物今猶存せりと云ふ

五申 是中尊寺より二里半瀑布あり頗る絶景の地とす温泉あり須川と名く來浴者常に多し北上川を隔て東稻山あり往時清衡芳野より櫻樹を移植し數里の間に亘れりと云ふ西行の歌に「聞きもせず東稻山の櫻花吉野の外にかゝる白雲」とあり三四十年前迄は猶其幾分を存せしが今は次第に枯果て其影をだに止めず

盛岡停車場

盛岡停車場

三百三十七

野邊地停車場 池虫停車場 青森停車場

三百三十八

盛岡 是嶽手縣廳所在の地にして人家稠密源頼義勸請の八幡神社ありて毎年九月十四日より三日間祭典執行す四方より來觀する者甚盛なり臨時列車を發す阿部館は貞任の故墟にして今猶茂林を存せり嶽手山は俗に嶽手富士と稱じ平笠村より二里餘其山開きは毎年舊曆五月廿五日にして登山する者多し

野邊地停車場

野邊地 北郡に恐れ山と名くる噴火山あり(一名曾利山)地獄極樂ありとて巡拜の信者甚多し

淺虫停車場

淺虫 是連峭背を擁し海波面に當る風光絶佳温泉あり清澄にして無臭浴客常にあり前面に湯島あり扁舟に棹し魚介を採て以て清遊を試むに足れり又村端に唐豚棧橋あり昔怒濤山根を噛み行旅路なし纒に棧橋を架して往來すと云ふ山上に古城趾あり空壕猶存す土人之れを蝦夷館と稱す往時泰衡の遣臣大河兼任の據て以て天下の兵に抗せし所なりと云ふ
外ヶ濱 是青森灣内上磯より野邊地迄を云ふ平波渺茫砂白く松青し漁舍壑村其間に隱見す風光明媚古來歌人の吟唱する處なり
陸奥はわくわくも思はゆる葦の石ふみ外の瀟風

青森停車場

西 行

青森 是戸數三千七百七十餘戸縣廳所在の地にして頗る繁盛を極む北海道へ來往の船舶常に絶へず又弘前等の順路なり

善知鳥神社 是青森安方町にあり青森は元善知鳥村と云ふ其後港市を開きて青森と稱す善知鳥説甚多し昔時允恭天皇の御代に鳥頭中納言安瀾と云へる人犯せる罪ありて勅勅を蒙り此地に流されけるより其名ありと傳ふ又安部貞任の遣臣鵜藤安方なるもの貞任の遺子を携へ逃れ來り漁師となりしが其靈魂化して鳥となる土人之を祭りて善知鳥神社と稱すとも云ふ

子を思ふ涙の雨を笠の上にかゝるも詫しやす方の鳥

西 行

兩毛鐵道

本鐵道は上下兩野を東西に貫通する五十餘哩の小線路にして野州小山驛に起り栃木、佐野、足利、桐生、大間々、伊勢崎、等凡べて十一の停車場を経て上州前橋町に至る其間各地舊跡の訪ふべきもの尠なからず例に仍つて名驛を叙し併せて二三の案内を附記す

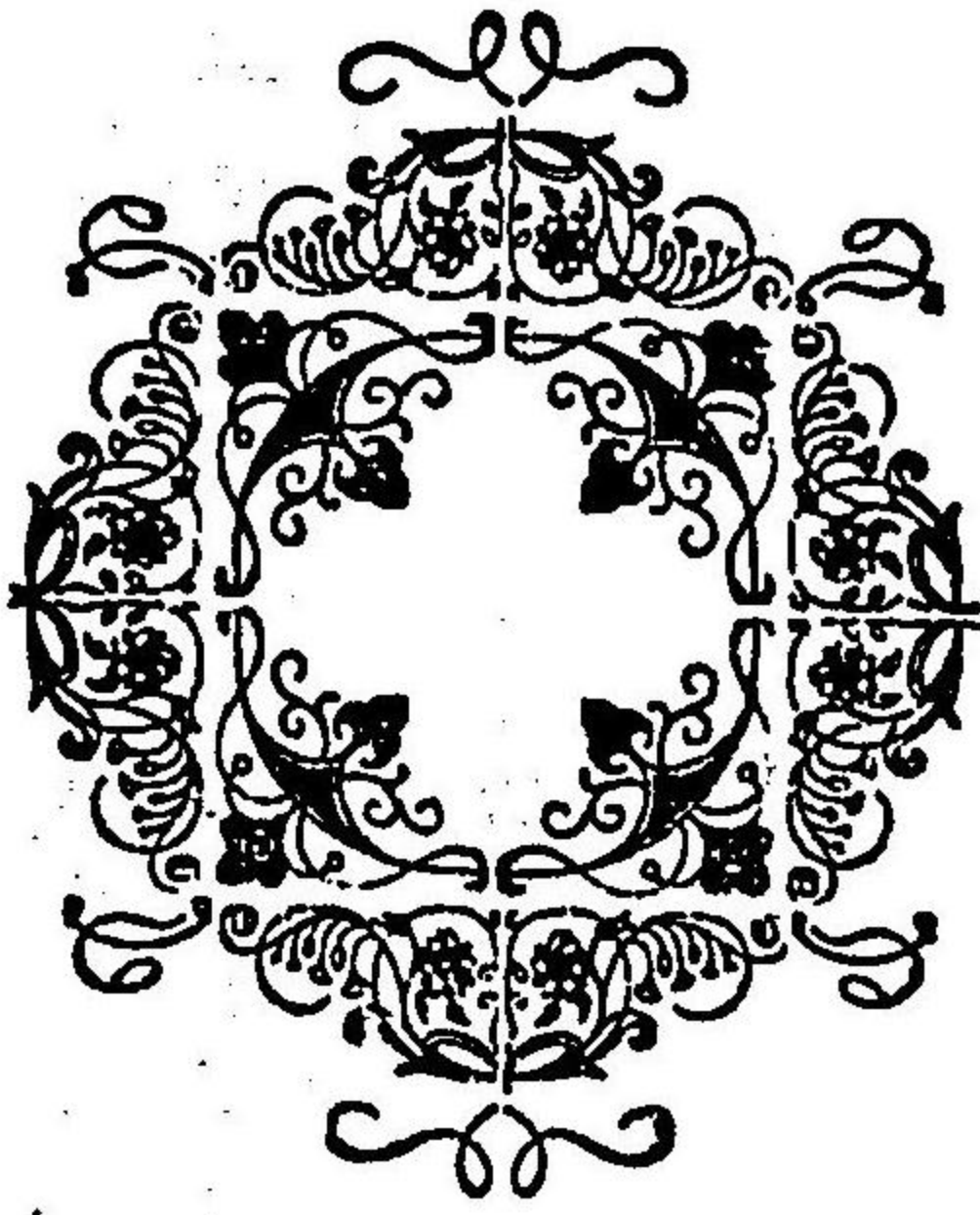
小山停車場

小山驛 は下野國下都賀郡に屬す此地は舊と寂寥たる一村落到過ぎざりしが日本鐵道の興るや其奥羽線の驛路に方り停車場を設けしより尋ねて本鐵道及び水戸線も其發端を此地よりし今や鐵路四通の要衝となり旅客の出入貨物の運輸日に繁榮を加へつゝ大に面目を一新し戸數一千五百餘ありて驛中常に殷賑なり旅店は伊豆倉、角屋等其最たるものなりとす
小山城址 は驛外思川の東岸に在り此地は遠く源平氏の時代に於て始めて小山某の城居せし所にして爾來子孫相襲きて以て足利の世に至りしも遂に亡滅せりと云ふ其後天正十八年豊大關東征の時また慶長年間に徳川家康上杉を征伐する時に當り何れも滞陣せしことありと

栃水停車場

栃水町 に在り此地も同國同郡に屬し舊と足利藩主戸田氏の領邑たりき維新後栃水縣

小山停車場 栃水停車場



を置かれ國中一二の都會にして人口一萬八千餘あり往年縣廳移轉後は稍衰微の狀あれども尙諸官衙、銀行、會社等あり又養蠶の業盛にして繭其他の産出多く常に商業繁榮なり町内旅店の主なるものは笹屋、武澤、半等とす町の西方に公園地あり錦着山といふ好風景の地にして山頂に招魂社あり

太平山 是枋木町を距ること西方一里餘山上に神祠あり三光神社と云ふ慈覺大師の草創にして神殿の額は後小松帝の宸筆なりと此山は尤も眺望に富み殊に山中老樹鬱茂し空氣清淨なるを以て夏季避暑の客多し

室八島 是枋木町より東二里惣社村の内に在り此地は昔時見真大師の暫く幽居せし處なりと

岩舟停車場

岩舟驛 是驛中岩舟と稱する奇山あるを以て村稱となす此地も下都賀郡に屬し石材、木材、及び薪炭等の産出多き處あり

岩舟山 是其山勢恰も船を倒さまにせし如くなりとて此稱あり山上に地藏尊の祠あり古來有名の所にして春秋の彼岸には信徒の參詣甚だ多し

三義山 是驛南半里の處に在り山上眺望絶佳にして山麓には著名なる榎樹あり此地は慈覺大師誕生の處なりとて處々に其古跡あり

佐野停車場

佐野町 在り此地は同國安蘇郡に屬し世に所謂足利織物の産出地にして人口凡そ七千餘郡衙其他諸官衙あり又銀行あり會社ありて町内常に繁華なり

唐澤山 是停車場より一里餘北西ふ方枋木村に在り天慶年間鎮守府將軍倭藤太秀郷の築城せし古跡にして近時開拓して公園を設け又秀郷の靈を祭り唐澤神社を創建せり山中松茸の名産あり

八州園 是佐野古城の址にあり眺望尤も快裕にして關東八州の峯巒を一望の下に收攬す仍て俗に此稱あり此地も近時公園となす園内松杉鬱蒼として殊に夏季の散策に適せり

富田停車場

富田驛 是近年開闢せし處にして旅客貨物等輻輳す此地は梁田郡に屬せり

足利停車場

足利町 是同國足利郡に屬し古へ爲氏勃興の地なり地勢北方山を負ひ渡良瀬川其南を流れ水陸運輸の便ありて商工業盛んに行はれ古來織物を以て有名なる處にして上州の桐生と世に并稱せられ毎年の産出金額二百萬圓餘に上ると依て其盛況を察すべし町内諸役所及び銀行あり會社あり人口は二萬七千餘にして街頭常に繁昌せり初め天保二年織物賣買の市場を開き爾來毎月五、十の日に開市するを定例となし以て今日に至りて益々盛んなり又町内

著名の旅舎は初谷、巴屋、こく屋等とす
足利公園 是町の西端に在り往年此地開園の際古墳を發見して諸種の古寶を得しことあり其物今は足利學校に保存す

足利學校 是町の北方に在り當校は淳和帝の天長年中小野篁の創建にして爾來盛衰榮枯はありしも明治の今日に繼續し依然其跡を存在する我邦稀有の舊蹟にして多く和漢の古畫を藏す聞く近年其筋より篤く保護を與へられ町内の有志をして古跡保存の美譽あらしむと鑲阿寺 是町の北裏に在り金剛山と號す眞言宗にして大日如來を本尊となし足利義兼の創建にかより七堂伽藍等ありて有名なる古刹なり

足利城址 是町の西北城山と稱する山上にあり天喜年間足利成行の創築にして後ち新田義重これを領し尋めて足利義康に屬し子孫相襲き高氏に至る其後長尾氏此に居り徳川氏の末年には戸田氏の有に屬せりと云

金山城址 是當町より二里餘太田町の北方金山の陽に在り此地は新田氏累代の居城たりし處にして義貞本城を經營し土功未だ成らずして王事に斃れ後ち其孫貞氏之を修築せりと現今新田神社あり明治八年の創建にして縣社たり境内老松鬱蒼として一トたひ此境に歩を入るれば轉た往事を思はしむ山中松茸の名産ありて其名世に聞こゆ此地は上州に屬すれども行路の便宜に依りこゝに附記す

小俣停車場

小俣

是足利、桐生間に在りて雜物の産地たり

桐生停車場

桐生町 是上野國山田郡に屬し人口二萬餘古來著名の雜物地にして其業の盛大なること關東第一に位せり依之て旅客の出入常に多く商業繁榮市街殷賑を極めたり此地も諸役所銀行會社悉く備はりて會社にハ壯大なる日本雜物株式會社、桐生縮緬會社等あり毎月三、八の日市を開き此日は殊に雜關了町内に鹽酸泉あり大に諸病に効ありといふ又町内旅舎の重なるものは角屋、金木屋等數軒あり

此地は古へ桐生氏の居城ありし處にして初め其祖綱元なるもの源右府に仕へ治承中富士川の戦ひに功ありて此地を授けられしより天正元年に至るまで子孫相襲て領有せりと阿角樓 是桐生町より二里餘勢多郡新川村某農家の庭内に在る有名なる老櫻にして其幹圍三丈餘垂枝三十條に餘り其花時の光景は眞に名狀すべからざる快絶の風趣ありて雅俗の來り賞するもの多し

大間々停車場

大間々町 是同國新田郡に屬し足尾、日光、庚申山に通ずるの要地にして繁榮なる小都會なり町内諸役所會社等あり人口凡六千餘にして此地も養蠶の業盛んに繭生糸の産出多し

旅店は鶴屋、豊田屋等あり。高津戸は停車場より行程一里餘古へ山田某の居城ありし處にして幽邃雅媚の勝地たり殊に紅葉の名所として晚秋曳杖の客たふし

羽根瀧は高津戸より四町餘渡良瀬河道の一部にして兩岸樹木鬱蒼たる幽暗の間急湍狂

奔岩に觸れ岸を撰ち恰も玉を碎くが如く真に快哉の壯觀あり

國定停車場

は同郡に屬す此地も繭業盛んにして繭生系の産出多し往時は世に長脇差と唱へたる徒類の多く住せし地にして即ち彼社會に有名なる俠客忠次も此地の産なり

伊勢崎停車場

伊勢崎町は同國佐位郡に屬す郡中の一都會にして人口凡六千餘郡役所あり警察署あり亦有名なる伊勢崎太織會社あり此地も桐生、足利等と共に織物の産地にして商賈常に繁昌す毎月一、六の日に市を爲す此日は殊に賑かなり旅舎は新井屋、錢屋等とす又此地は其昔三浦義澄の采地にして大永、元龜の頃は赤石某の領となり當時赤石郷の稱ありしを元龜元年今の稱に改め徳川氏の世に至り酒井氏世襲の封地たりき

駒形停車場

駒形驛は那波郡に屬す此地も亦た養蠶盛んに行はれ居民多くは製糸を以て其常業と爲せりと云ふ

赤城及び湯の澤温泉は此驛より行程二里餘共に著名の温泉なり

前橋停車場

前橋市は舊と厩橋とも書せり松平氏の舊城市にして群馬縣廳所在の地なり此地は本鐵道の西極端に位し小山驛より五十二哩國中第一の都會にして人口凡三萬二千餘市中裁判所其他諸官衙あり商業繁榮盛んに生糸の輸出をせし又毎月四、九の當日には市を開きて取引し常に殷賑を極めたり高崎へは五十三哩日本鐵道の線路ありて兩地の間を連絡す市内旅店の主なるものは鐵線、臨泉の兩亭及び藤の屋、油屋、白井屋等なり

前橋城は文明年中太田道灌始めてこれを築くと云抑も此地は關東の要衝に方るを以て足利の末年我邦の所謂戰國時代には群雄交々割據して戰鬪の止む時なかりしと徳川氏の世に至り松平氏これを領し子孫相承け居城せり

直江津線

飯塚停車場

飯塚村 是一小郷にして停車場設置以來稍繁昌ふ巷くの傾あり板鼻及福島宿等へ行かん
とするものは當所に下車するを可とす

安中停車場

安中 是中仙道に當る一驛にして本板倉氏の城下なり人家多く旅舎、酒樓など立並び稍
繁昌す富岡、七日市、一ノ宮宿への順路なり

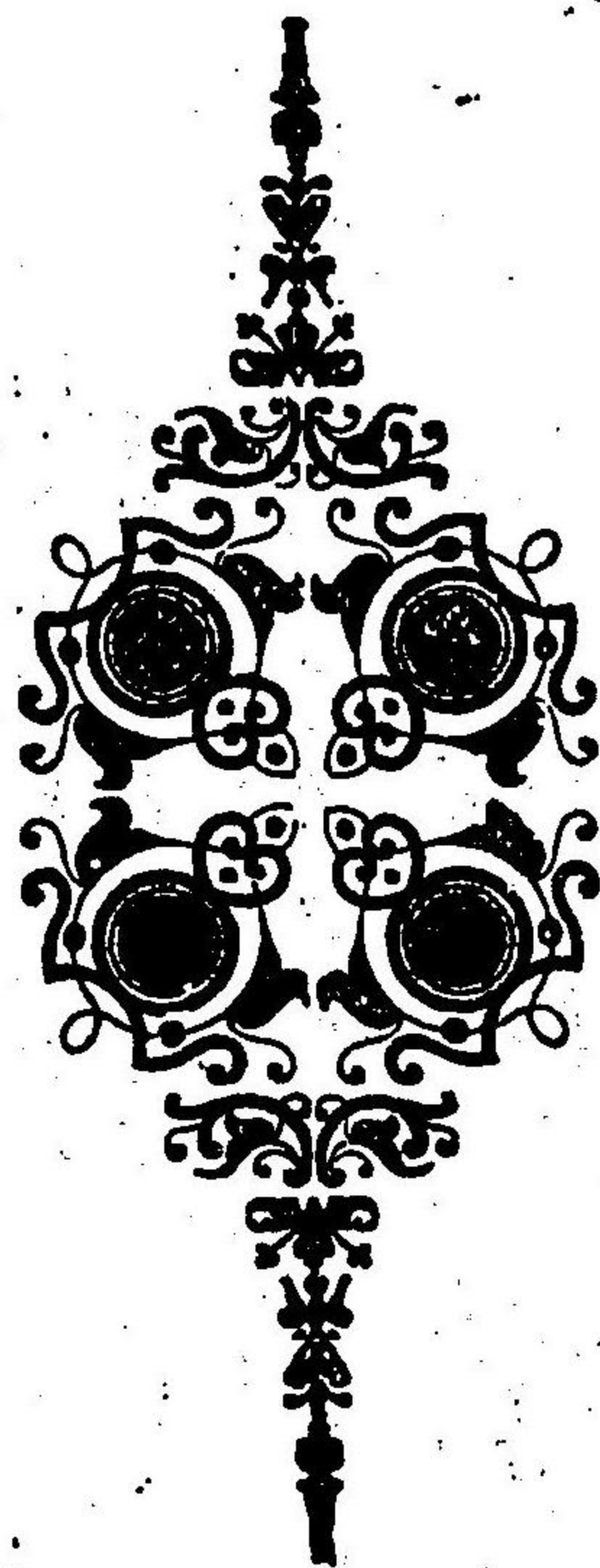
磯部停車場

磯部村 是鐵道開通以前は寥々たる村落なりしか停車場の設置以來所々に別荘族亭等出
來加ふるに此の地田圃の中央より鹽類泉を湧出するを以て温浴場の設けあり瘧疾質斯病等
に特効あるを以て一時は非常の世評を博し來浴者盛んをりしか今は稍減じたるものゝ如し
此地昔は佐々木盛綱の居城にして盛綱の墓今猶存せり一ノ宮宿、下仁田、妙義山、本宿、
南野、牧宿等へ行かんとするものは此所に下車すへし

松井田停車場

松井田 是中仙道に當る一驛にして人家稍多く農商相半ばす此驛より三倉宿、榛名山

飯塚停車場 安中停車場 磯部停車場 松井田停車場



横川停車場
 (前橋より) 大戸宿及び妙義山に行く道あり、
 妙義山は上野國諸戸村にあり松井田停車場より一里以内又磯部停車場よりは一里にして道路平坦なれば山下送人方車を通す全山巖石より成立ち秀峯多く其中央巍然天空を摩する者之中の嶽と稱せしに金洞山と呼ぶ山上一祠あり日本武尊を祀る其次に登ゆる者を金鶏山と名く奇岩怪石鱗岫崔嵬として千態萬狀造化の妙を極む自然橋、天柱峯、天燭峯、鬼の跽踏、大日燈、鬼面石、大黒石、地藏石及び四箇の石門鬼室、天狗窟、地藏谷、血池谷等あり此山樹多紅葉を賞する者毎秋少からず

横川停車場

磯水峠は碓氷峠より遙か麓にあり一小村にして鐵道は此所より舊街道の右即ち碓氷峠の北部を回くり「アノ式」を用ひ深淵深車は軌道を噛み列車の後部より推進す名に負ふ嶽山の脈續きなれば僅々哩の間隧道を穿つこと十三の多きに至る以て工事の困難なりしを想像すべし線路は輕井澤に至り再び街道の右に出つ

碓氷嶽は上野信濃兩國の境に跨り中仙道最も險峻なる峠なり一方を仰げは野空を摩するの高嶽にして一方を臨めば深き幾千尋の谿谷なり古より天嶽の稱あり此峠の頂上に熊野權現社あり祠前茶店あり武蔵野の諸州を望む風景甚佳なり此邊樹多として十月中旬より紅葉し滿山錦繡を織か如く都人の遊賞するもの少なからず山中鹿積多くして秋の頃は

掉鹿の聲時々聞ゆ此地寒氣強く近畿熟らす又野菜少なし
 輕井澤の麓にして昔は三四町許りの小驛たりしが近年外人等避暑の爲め來寓するもの多くして戸數も増加し白盆紅欄の高樓旅舍酒店等所々に出て來り山間一の小繁華をなす阪本宿迄二里八町なり

輕井澤停車場

沓掛は輕井澤より凡そ一里許り驛の長三四町商家相對して驛端に淺間嶽に行く道あり即ち此地及び追分輕井澤の三驛は淺間山の麓にありて峠迄二里二十町許道路概平坦なり

淺間山は埴科郡に屬し有名なる噴火山にして日本紀に白鳳十四年三月初めて噴火し爲めに草木皆枯る云々とあり其後暫らく止み治暦の頃再び熾かに烟を吐き天治大永正徳享保八年同十四年に噴火し後ち中絶天明三年春の頃再び復烟を發し六月に至り大に噴火して石土を飛ばし灰を降し當時其害十里四方に波及せりといふ沓掛の輕井澤より頂上まで僅かに一里餘頂上に巖窟ありて虚空藏の石佛を安置す山常に鳴動し試に地に耳すれば其音甚猛烈にして人をして疎恐毛を起せしむ四邊草木なく皆積石なり

春はまた淺間のたけに空さへてくもり煙の雪けなりける。
 後京極攝政
 俊成

御代田停車場 小諸停車場

いつとなく懸にあかるく我身より立や濃間の煙をりけり

いつとて小我懸やまむ千早振濃間のたけのけむりたゆとも

信濃なる濃間の縁にたつけふり遠近人のみやはとわかぬ

雲はれぬあさま山のあさましやひとの心をみてこりやまめ

いたつらに立や濃間の夕けむり里とひかぬる遠近のさど

追分 是東北陸の分岐する地にして昔は北國諸侯の往還頻繁たりしを以て旅舎酒樓

等々繁昌なる土地なりしか明治維新以來次第に衰へ加ふるに御代田に停車場設置以來

一層の榮廢を來し今は只一寒驛に過ぎず

追分原 是俗に雲揚野と云ふ追分香掛懸井澤三驛の驛原を稱す

御代田停車場

御代田村 追分より木曾路に入るの道にある一寒村なりしか停車場設置以來人家頗に

増加し追分の繁昌を茲に移したるの思ひあらしむ追分(御代田の手前)岩村田、鹽名田、野

澤、香坂、下中込等へ行く路あり

岩村田町 御代田より一里餘此邊の都會なり昔より商家多き所にして今尙商業盛なり

町の東端に住吉祠と稱する一小社あり

小諸停車場

小諸町 是牧野侯城下たりし所にして小室とも云ひて一都會たり町の長さ凡う二十町餘

道の中間に水道あり此邊は淺間山の麓を巡る街道にして上田邊より次第に地形高く街道の

後は千曲川の急流なり此驛より八幡、望月、藏田井、蘆田、長窪、上諏訪、高遠へ行く順

路あり

小諸城趾 是大井伊賀守といふ者初めて此城を築き後武田信玄の爲めに滅され武田氏の

屬城となり勝頼亡びて後徳川氏の有となり大久保仙石等城代たり後駿河大納言忠長の居城

となり寛文二年松平良之れに代り後ち牧野氏又之れに代はり明治維新に至り廢す

牧野家菩提所 是泰安寺と稱して城内にあり

牛頭天王宮 小諸町にあり例祭は六月十三日より十五日まで三日間にして神輿を出し

て兒女の手踊等ありて甚賑ふ

布引山 小諸と田中との中間望月御馬城の北にあり千曲川其麓を流れ斷崖峭立し岩上

白筋ありて白布を引か如し又布目ありて之れを削るも其痕滅せず山の中腹に寺あり觀音を

安置す行基の開基にして西行塔閣魔王姥ヶ石等本堂の周圍に散在す本堂より南方の山に村

上義清の巨樂殿寺某の城趾あり山下に布下といふ小里あり之れより谷を躡り地獄谷といふ

所あり坂路峻險加ふるに嶮巖累々として頭上を覆ひ今にも落來らん計りなり眞に地獄谷の

名に負かず

田中停車場

田中停車場

三百五十四

田中驛 小諸より道程凡二里半筑摩川に面して左は布引の山を望み右は淺間嶽に列りて一巷を爲す驛端に昔し頼朝の臣根津某の城趾あり諏訪明神を祭る長瀬、丸子、腰越、平井、西田宿等へ往く人は此處に下車すべし

海野 田中より十八町計りにある小驛にして往古木曾義仲の臣宇野小太郎の居城せし地なり驛中に白鳥大明神あり日本武尊を祭る清和帝の御宇貞元親王の御子本州の守に托し造營せらる後應仁の亂に廢頽せしか驛中の有志者協力して復舊せりといふ

海野小太郎城趾 海野驛より右方數町に在り又海野平と稱する處あり其傍に源助塚媒地蔵化粧水などいふあり天正十二年長尾景虎村上義清の爲めに武田信玄と戦ひし所にして今は一帯の田畠となり老松數株僅かに古の名残を留む

姨捨山 筑摩川を渡り八幡村より凡半里本冠山といふ昔州の俗老女を此山に捨たりと云傳ふ故に此名あり此山は觀月の名所として世に名高く西行法師行脚の時山中の風景を愛し爲めに十三景を定めたりといふ

君か行く所とききは月見つゝればすて山を戀しかるへき
異にやおはすて山の月は見るよもさらしなと思ふあたりを
あらはさぬ我心を恨むへき月やはうとき姥捨の山
買之 赤染衛門 西行

田中停車場

三百五十五

更級やはすて山に旅寝して今夕の月を昔見しかを

能因

更級やはすて山の有明のつきすものをおもふ頃かな

伊勢

姥石、姥石 小袋石、寶ヶ池、田毎月、榎木十三景の内此六は姥捨山の近傍五六町の間に散在す冠着嶽は姥捨山より東南一里許に聳ゆる秀峰なり

雪あらはふしとやいはん信濃なるを捨近き冠着か嶽
筑摩川 源を金峰山に發し此流れ平野に出て西に折れ小諸上田を經姥捨山鏡臺山の間に横きり松代を過ぎて犀川に合す奔流滔々として其長百餘里本邦第一の大河なり

ちくま川春行水は澄にけりきへて幾日のみねのしら雪

順徳院

君か代はちくまの川の細石のこけむす岩となりつくすまで

式子内親王

水増るちくまの川は我ならすきりもふかく立渡りける

顯仲

一重山 姥捨山の東北一里餘り埴科の矢代村にあり千曲川に臨み昔矢代氏の城を築きたる所といふ

花は猶名のみなりけり一重山八重にかさなる峰の白雲

中務

花の色のこるも更じき一重山猶しら雲はかたみなれとも

家隆

有明山 埴科郡森村にあり姥捨山をさる事東二里程昔矢代氏の物見とて山上に方三十分間平地あり觀月には最も妙なりといふ

田中停車場

三百五十六

かたしきの衣手寒く時雨つゝ有明山にかゝるむら雲

後鳥羽院

夏ふかきみねの松か枝風こへて月影すゝしあり明の山

慈 鎮

照かわる紅葉をみねの光にてまづ月をそき有明の山

定 家

花の色は三月の末に移ろひて月そつれなき有明の山

後京極

散り曇る峰の木葉の風の上に月は時雨れぬ有明の山

爲 相

鏡臺山 是れ姥捨山より東三里餘なり十五夜に満月隈なく照す時は姥捨山より之れを眺むれば其形恰も鏡を臺に置きたるか如し

更級の里 是れ河中島のあたりを概して更級といふ今ハ更科と書す姥捨山の麓に郡村といふあり此村に女峠といふ坂路ありて今も猶更級の里といふ

我心なくさめかねつさらしなやあはすて山にてる月をみて

讀人しらす

月影はあかす見るとも更級のやまのふもとに長むすな君

貫 之

あちきなくさめかねつ更科やかくらぬ山も月は澄らむ

後鳥羽院

更科やよわたる月の里人もなくさめかねて衣うつなり

順徳院

秋の月又もあひ見ん我こゝろ盡しな果を更科の里

俊 成

はるかなる月のみやこに契ありて秋の夜あかす更科の里

定 家

月すまん夕の空のけしきにて鶉鳴なり更科の里

家 盛

上田停車場

上田町

は本松平氏の城下にして町の長さ凡一里人口一萬八千餘養蠶紡績の業年を逐ふて盛にして商業繁昌し當國屈指の都會なり多く縮袖白袖等を産出し上田袖と稱へ世に名

高し小泉、浦野、保福寺、岡田、松本等へ行かんとする人は此所より下車するを可とす

大宮大明神 是れ諏訪明神を祭る所にして其創建は知る由なきも慶長年中舊城主眞田氏崇

敬深く社殿壯麗年々修理を加へし眞田氏十代に移りて以來次第に荒廢せり元禄年中仙石

氏上田を治むるに及んで之を惜しみ假ふ雨覆を作り寶永の頃松平氏封を此に移して悉く之

れを改築せりとす

上田城 是有名の城にして千曲川其の南を流れ城下に到つて瀝て深淵となり尼ヶ淵と名

つく故に昔は尼ヶ淵城とも呼ぶ平城にして堅牢なり永禄年中長尾政景居城となれり是より

先き眞田彈正此近郷を領せしか村上義清の爲めに亡され流落して武田氏に寄り岩尾城に居

る子昌幸に至つて上田城に移る武田氏滅びてより大に兵備を嚴にし屢兵を上野に出し北條

氏の領地を奪ひ威四近に震ふ北條氏基之れを愛ふ徳川家康北條氏の爲めに昌幸に命じて其

侵地を復さしむ昌幸應せり天正十三年家康其の臣鳥居元忠柴田重政大久保忠世井伊直政等

を遣し上田を攻めしむ城堅くして抜けず秀吉天下を統一するに及んで昌幸遂に秀吉に屬す

秀吉薨じ豊臣氏の政權徳川氏に歸せんとするを憤り竊かに上杉景勝石田三成等と計を通じ

上田停車場

三百五十七

其書を除かんとす關原の役昌幸及次子幸村は三成に應じ嫡子信幸は家康に従ひ小山に在り家康軍を旋し西上秀忠をして一軍を卒ひ中仙道を詢へし昌幸上田城に在り秀忠諸軍に令じて之を圍む城兵能拒き徳川氏の兵大ひに苦しむ爲めに家康に會するの期を誤る關ヶ原一敗後昌幸幸村は高野山に請せられ上田城は信幸に賜ふ然れども徳川氏眞田を憚るゝ甚む遂に元和八年松代城に移され仙石忠政をして之に代らしむ仙石氏封を但馬出石に移さるに及んで松平忠榮其跡を襲ひ代々城主たり因にいふ幕府の眞田氏を思むや甚し事に托し國を除かんとす眞田氏之れを察し自ら封土を幕府に納む昌幸以來其善積する所の軍資を散し多く京畿の間に土地を購ひ郷士たらんとすと流言せしむ幕府之れを憂々封を松代に移し且つ江戸城の工を助けしめ牛込門外の濠渠(俗に眞田の泣堀といふ)を開鑿せしめ以つて其資財を盡くし又能く爲すなからしめ爾來常に思む者の如し以是後年松平樂翁侯の次子出て眞田氏を嗣く時までは家臣等故らに常に優柔を裝ひたりといふ徳川氏統一已來豊公の舊臣宿將徳川氏に勳勞あるものと雖も事に托し其國を除かれしもの枚舉に暇あらす眞田氏の如きは大阪の役幸村復豊臣家に與し屢々家康を苦しむ而徳川氏の世を終るまで能く社稷を全ふしたるは眞に異數なり

淨瑠璃山國分寺 是上田より一里聖武帝の御宇天平九年僧正行基の開基にして自作の薬師如来を安置せり其後頼朝卿の命に依り修理を加へ堂塔伽藍善美を盡したりしか慶長年

中兵燹に罹り烏有に歸し薬師の像と三重の塔は幸に其災を免れたりといふ
 加賀川 是深山幾多の溪流合して千曲川に入る慶長の頃上田合戦に眞田勢此川に柵を築き徳川の軍を防きたりといふ
 七久里温泉 是山田村の奥山田川の南岸より湧出す其湧出の地七ヶ所あるを以て名づく
 山田宿新町より千曲川の柵を渡りて加島千梅八木澤等の諸村を経て達す道路平坦運行自在なり
 沓掛温泉 是青木村沓掛にあり東に男神岳南に女神岳聳立し底温泉は男神岳の中腹より湧出し浴湯十餘戸あり氣候は極寒二十五度極暑は八十二度を越へず土地高燥にして且つ幽靜なるを以て炎暑の候來客多し

坂水停車場

坂水村 是小驛にして上田より三里餘音し葛尾城ありし所にして南條戸倉宿に行かんとする人は此停車場より下車すべし

坂城々跡 是榑驛より十數町の所にあり天元二年工を起し正曆十四年に至り落成す其間年を積む十五年地形頗る峻にして東は五里ヶ嶽を負ひ西南は千曲川の急流を擁し飯綱山横吹山其間に横はり岩石巖々として最も堅固の山城なり村上義清天文六年之れに據り以て武田信玄と上田原に戦ふ利あらす會々反するものありて此城に火を放つ義清敗北越後赤澤の

城に退き此城遂に陥り今は僅かに斷礎を存するのみ

村上山満泉寺 是同所にあり永正年中村上顯國の開基にして即ち村本尊は釋迦石像を安置す御丈五寸諸摩の灰を以て製したる五寸許の辨才天あり弘法大師の作なりといふ其背に弘法の判を認む寺内に村上國清の塚あり其近傍に村上義清の墓村上顯國の塚等あり

屋代停車場

屋代町 是地利郡に屬し町の長さ數町間商家櫛比は皆諸所に散在す此地方昔より養蠶業盛んにして今尙營業とする者多し此宿一重山の麓にして千隈川其の西を環流す稻荷山、桑原、麻績、青柳等に行く順路なり

一重山 是驛の後にある山にして甚た高からざれとも觀月の名所といふ

花は猶名のみなりけりひとへ山青葉涼しき風のいろかな

花の色は衣がへしき一重山猶まら雲のかたみなれども

此山の巔に鼻取地獄といへるあり又屋代安藝守義綱嘗て此城を築きたりといふ

松代停車場

松代町 是本蕃田氏の城下にして戸數二千餘人口凡七千長野松本等と並稱せらるる都會にして商業繁昌なり鑛臺山地蔵岳釜平山の山脈其東西南の三方を包み北方を開き千曲川に

接し土地平坦なり

松代城 是初め海津城又は待城と稱す筑摩川の東に沿へる平城にして武田氏の臣小山田備中守之れを守り後織田氏の有となり又上杉登臣氏の器城となり終に眞田信房居城して名を松代と改め安國寺は松代町の中央にあり初め武田氏の宿將高坂彈正松代城を築くに當り城下に寺院なきを憂ひ會ま日蓮宗の僧甲州より此地に來る者あり彈正即ち之れを留めて以て當寺を建立せしむといふ

山本勘助塚 是松代の北數町芝村といへる處阿彌陀堂の境内にあり昔其戰死せし八幡原會合の橋畔にありしか千曲川洪水の時土地崩壞し依つて今の地に移せしといふ

高坂彈正塚 是松代より東一里關屋村明德寺裏手の山腹にあり彈正は甲越和睦の後松代城にて病死す

篠の井停車場 是道分道にして巷の中央に辻あり右は善光寺左は松本に適し驛端は千曲の急流に接す

川中島 是篠の井停車場より丹波島に至る間の右方即ち犀川と千曲川と合する間を總稱す地勢漸平坦にして土壤豊饒なり永祿四年信玄謙信の兩雄旗鼓相見へ快絶壯絶の劇戰を試みたる有名なる古戰場にして人此地を過ぐるも徘徊願望當年を追想し轉た懷古の情を生ぜん

篠の井停車場

川中島

高坂彈正塚

山本勘助塚

松代城

松代町

屋代町

村上山満泉寺

弘法の判を認む

村上國清の塚

村上顯國の塚

桑原、麻績、青柳等

千隈川

稻荷山

養蠶業

辨才天

弘法大師

永祿四年

信玄謙信

長野停車場

三百六十二

茶臼山 是篠の井驛の左方岡田川原にあり川中島の役信玄本陣とせし處なり
西條山 是屋代より千曲川に沿ひ赤坂の右方にある山にして謙信が本陣とせし處なり其
右は松代城にして山下に雨宮といふ一小社あり

長野停車場

長野町 是管國の北部にあり人口凡二萬六千餘市況甚盛にして加ふるに善光寺への繁詣
の旅客非常に夥しく爲めに一層の繁昌を増し國內唯一の都會となる縣廳諸官衙銀行會社等
皆此所にあり川田、保科、新町、笹平、中條、竹生、山穂町、小根山等へ行かんとする人
は此所に下車すべし

善光寺

善光寺 是長野村にあり皇極帝の薨に依り之れを創立し元祿十三年に至るまで火災に罹
る事五度屢長年中秀吉命して此如來を大佛殿に遷せしか幾もなくして之を本へ還す昔は七
堂伽藍五百有餘の堂塔八百餘の叢祠ありて寺内凡八町四方と稱せしか今は其半にも及ばず
三門内の左右には鉄燈籠二百數十臺併列し門前には六地藏大佛釋迦堂あり二王門の左右よ
り奥に向ひて僧坊數多あり又本堂の左右に鐘樓經藏山王塚諸神塚又兄弟塚と稱する在り
本堂は南面にして東西七間南北十七間本堂の西方に本尊を安置す東西に阿彌陀地藏の木像
あり各丈餘の丈なり
釋迦堂は本堂の東にあり長五尺許の臥像なり此佛も例に據り越後濱より拾ひ上げし金佛な

り天下に凶事あらんとする時必ず満身に汗を濕すと云傳ふ親鸞上人舊蹟栗田刑部城跡横山
信濃城跡等あり

戸隠神社

戸隠神社 是長野町西北數里飯綱山西ヶ岳の中間にあり奥院に手力雄命中院に思兼命
を祭る所にして縣下著名の神社なり善光寺に參詣する者は多く立寄るを例とし山の高さ二
千餘尺西は越中の山岳に連り古木蒼鬱として畫楹昏く山徑苔滑にして猪鹿の跡多く秋末に
至れば早く雪を帯ひ滿山白曉として參詣する者は積雪の爲め鳥居の上を踏み越え行きしと
いふ鳥居より大凡二十町餘大久保村に至り男鹿澤の橋を渡り社前に達す殿宇壯麗坊舎數十
末社十數あり其佗朱の鳥居經藏神樂殿鐘樓等あり什寶諸神の太刀弘法の唐鈴其佗珍奇なる
書畫刀劍等あり

九頭龍權現

九頭龍權現 是奥の院の右に並ひて祀る所にして三十三の巖窟あり

豊野停車場

豊野 是長野より飯山に行く街道に當れる宿にして従來民家所々に散亂せし一寒村たり
しか停車場の設置ありてより以來人家漸次聯絡して繁榮ならんとする傾向あり鐵道線路は
長野より街道の右即ち東方に出て此地に至る須坂、小布施、錦内、二禮、手出宿に行く順
路なり此地千曲川に近ければ土地平坦にして甚肥なり

牟禮停車場

豊野停車場 牟禮停車場

三百六十三

柏原停車場 田口停車場

三百六十四

車籠 飯綱山の麓にある一小驛にして千曲川の支流鳥居川は驛の右端に至り二派に分れ一は直行して柏原へ流れ一は左に曲りて黒川夏川となる
飯綱山 は車籠の左の方に高く聳ひゆる高山にして黒綱山五地蔵嶽高妻山等を皆其山脈を連ぬ其高一千三百四十尺なり山の麓西ヶ岳中間に戸隠神社と稱するあり之より數町寶光社といふあり

柏原停車場

柏原驛 は長野より越後高田へ行く街道にして商業繁昌し地勢平坦四面山岳を以て之を圍む

野の尻湖 一に芙蓉湖と稱す信州第二の湖水にして柏原より十數町野尻村斑尾山の麓に在り島中辨財天祠あり斑尾山袴ヶ岳の山脈遷出艇として東北に走り湖水は清澄み其深さ幾多なるを知らず風景甚美なり此處納涼弄月に宜しとす

田口停車場

田口村 は妙光山の麓にある一寒村なり鐵道線路は是より越後地に入る即ち關川とて信越の境を分つ川あり昔此所に關を設け往來人を改めたりといふ
苗名の飛瀑 は妙光山と黒姫山の中間を瀑洩する溪流落ちて瀑布となる銚子様の巖端より奔流し下層の巖石に觸れて二段に分れ其長さ各四五丈幅一丈餘白練を懸けたるか如く當

國第一の大瀑なり瀑を隔て四五町の所に瀧見岩と稱するあり其廣さ四五席許石上に坐して瀑布を仰ぎ見るべし黒姫山は高さ六千八百五十尺其右に聳へ高妻山は高八千尺淺間嶽と殆んど伯仲する高嶺なり

關山停車場

關山村 は茶臼山の麓にある小村落にして村内に關山權現祠あり建武の頃新田義顯越後守に任じ此所に居城せしといふ

新井停車場

新井町 は越後國中頸城郡に屬し小出雲に接し高田へ二里半許あり戸數五百餘荒川町の南方を流る鐵路此所を通してより近來漸次昌盛に趣く

宮内殿ヶ井の古城 は新井村より一里半東北東葉群峯の麓籠町にあり要害堅固の地に於て新田義治此所に籠城せし事あり天正年間上杉氏の屬城となり其臣片貝能連なるもの城廓を修理し殿ヶ井城と改む

姫河原古城址 は新井村の右新川と片貝川との間にあり上中村を右折し凡十數町雜木茂生ずるの一小山なり昔鎮守府將軍平維茂此所に居城したりといふ

高田停車場

高田町 は本榊原氏の城下にして新潟に亞く一都會なり人口二萬餘人家櫛比し商業繁昌

關山停車場 新井停車場 高田停車場

三百六十五

高田停車場

三百六十六

寺院佛閣多く町内江野神社常寂寺善導寺等あり其境内に靈蛇の井を唱ふる井あり一滴の水をし物を此井中に投ずるときは不思議の怪ありとて昔より堅く蓋を以て鎖せり

高田城址 高田町の外に在り關の城又は餓ヶ城と稱す慶長十五年家康諸侯に命じて江戸城及び高田城を築かしむ此城初め福島の海濱に在りしを新城主松平忠輝請ふて善堤ヶ原即ち今の高田に移す寛保元年に至り榊原政永之れに代はり累世相續ひて明治維新に至り廢城す

華苑寺 往古直江津にありしを後此に移し濱の觀音と稱す源義家の建立にして義經奥州へ下る時此に突す辨慶笈錫杖螺貝等を藏せりといふ然れとも右は直江津にありしものと

毘沙門堂 高田町にあり本尊毘沙門天は最も上古の作にして上杉家春日山在城の時此は城内に堂宇を建て之れを安置し謙信自から國家安全の護摩を修せしものなりといふ

金谷薬師堂 高田町を離る十町餘大貫村枝金谷牙の山にあり本尊薬師佛を安置す此佛像は古代の作にして有名なる靈佛なりとて謙信の深く信仰せしものといふ堂の扁額は小野道風の書なり境内老杉蒼鬱として又眺望に富み遠く佐渡の海上を望み四時來遊者絶へず近來此所に掛茶屋等を設け遊覽に便ならしむ毎月八日の縁日なり近村老若の參詣するもの多し

日枝神社 高田町に在り大山昨命を祭る慶長十二年福島城を築くに當り廊内となり故に福島神社といふ同十八年高田城を移したる時今の地に遷坐す高田町内三十七ヶ町の鎮守にして大祭は舊曆五月十五日なり

春日山 高田町を去る凡三里關之莊中屋敷地内にありて一名府内の城とも呼ぶ彌山齋著として甚幽雅の地なり應永年中上杉房忠此所に居城せしより代々上杉家の本城となり慶長三年景勝の世に至り封を會津に移さるゝに及んで堀秀治之れに代はりしか同十二年山城は一撤廢すへしとの令出て城遂に毀たる今権謙信の井戸と稱するものあり又山土に料理店及温泉を設け來遊の便に供す

直江津停車場

直江津 國中の要津にして運輸回漕の業盛んにして戸數千餘戸往來頻繁是より西方越中に至るの道は妙光高燒の兩山南北に馳せ有名の親不知の嶮あり東方は出雲崎に接し西南は海に面して佐渡及能登の綠岡岬の燈臺を眺む黒井、瀨町、柿崎、川浦、六日市、鉢崎、青海川、鯨波、柏崎、出雲崎、寺泊、新瀨等へ行く人は當驛より下車すべし

佐多神社 一小神社なり祭神未詳 俗に天王と稱す永祿年中上杉謙信資財を寄附せし事舊記に見ゆ例祭は六月十五日にして當日は神輿を高田町まで往復し大に賑ふ

直江津古城跡 當所にあり昔直江家代々の居城なりしか天文年中上杉の重臣直江大和

直江津停車場

三百六十七

直江津停車場

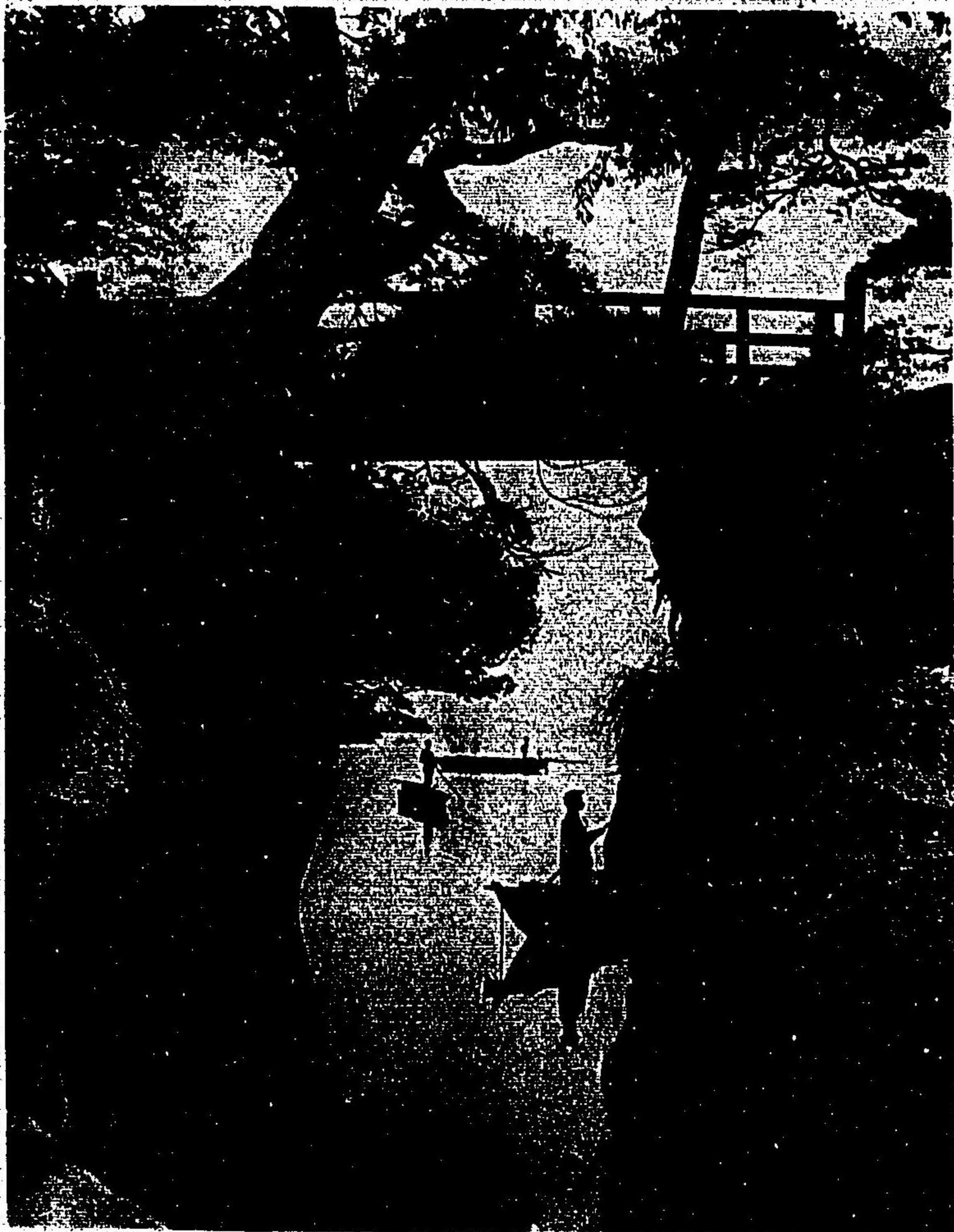
三百六十八

守實綱に至り與板城に移り番城となせり後山城守兼綱之れを領す兼綱才文武を兼ね當年の策士として世に重せらる祿三十萬石を食む慶長二年主家上杉氏出羽米澤に移さるゝに及んで與板城を破却し併せて直江城も亦毀たる

泉藏院 直江山と號す眞言宗なり大同年中和泉藏人の草創にして本尊地藏尊は弘法大師の作にして日本三鉢の一なりと云ひ傳へ有名なり

燈臺 は關川の入口にあり

國分寺 は直江津より十七町餘國分寺村に在り安國山と號す聖武帝の天平二年建立せし諸國に置きたる國分寺の一なり本尊は丈六の五箇如來にして永祿二年上杉謙信堂宇を再建す元祿元年天災の爲め堂塔悉く灰燼となりしが翌三年に至り僧快雄再建を企て數年にして落成す俗に五智如來と稱す直江津町旅舎の著名なるものいかに屋松葉館等にしてこれより沿海諸港に漁船便あり



小川一景

松島五大大堂之圖

畿山三體印語

作文錦囊

定價 卅五錢
郵稅 八錢

所謂三體之支那文學を本邦雅俗の両層を云ふものとして此三體の相待つて方今行はるゝ所の書簡體を組成する経緯と著者其初學の爲る類例の少なきを思ひ且諸書を精閲するの便方を省くしめんが爲る三體對照文例を求め得るの便方を設く題して錦囊と云ふも敢て誇張の言はあらざるなり

朝鮮朴泳孝題字 ●日本桃水痴史書

胡砂吹く風

前編 ●定價 卅五錢
後編 ●定價 卅五錢
●郵稅 八錢
●郵稅 八錢
今や朝鮮の危機切迫し紛亂の飛報を巡らして至る日本國民たる者此場合於て朝鮮の事情を知得するの目下の急務なりと信ずる本邦の朝鮮の地理人情風俗を詳記し過去現在未來の三段を區別し一の小説を編成せし者あり就中痴史が未來を豫言したる條項に至りては今日の變亂と毫末も變る事なく一々適合して誤まる事なき朝鮮未來の形勢を知らんと欲する者の速に本書を讀め

訂正 曾 卅

通俗男女造化機論

生殖器の構造を究るるとして子孫を繁殖し快樂を極むるの人間大要の勤務なり本書の男女生殖器の組織を説明し完全なる目的を達する方法并に淫事を依りて起る諸害を詳記し加ふるに細密なる圖書を挿入したれば尤も有益なる良書なり
三正堂 發行

後開榛名梅香

實價 卅五錢
郵稅 六錢

即童子孝作の甚難十利の内オキを全るゝ一本編にして義侠安中草三郎ある者親の爲に賊を爲し一度悔悟し再び主難を救はんを欲して大賊とある其間幾多の變遷或は險を犯して危人を助け或は白刃を踏んで不幸を救ふ等義賊の赤心痛く悲しむべきあり翁が尤も得意の書冊あり

發兌 賣捌

東京日本橋區通 三丁目十三番地 金櫻堂
大坂東區淡路町 二丁目 金川書店

探偵文庫

菊形美行本
每月一回發
定價金貳拾五錢
郵稅金八錢
紙數三百ページ前後

- 目次
- 第一編 死人の掌
 - 第二編 其囚人
 - 第三編 多湖の廉平
 - 第四編 三生人
 - 第五編 獄中人
 - 第六編 鬼探偵
 - 第七編 三人の探偵
 - 第八編 鬼美人
 - 第九編 林中罪
 - 第十編 林中罪

最近小説流行の風潮に俄然其体面を一變して文明國に於ける至妙ある探偵の伎倆を露せし者尤も讀者の嗜好に適す宜あるか否彼探偵小説に能く人情の表裏を穿ち物理を窮め本邦古來の架空的小説の比に非ず一讀凄然として知覺神經を刺戟し讀者をして五里霧中より彷徨せしむる所以あり今や弊堂本文庫を發行するに當つて廣く種子を英米佛獨よ求め徒筆自在ある丸亭先生を聘し其尤も傑作と稱する者を選んで讀者に紹介せんとす讀者よ探偵小説の妙味を知り其因源を探らんとする者ハ本文庫を讀め本文庫ハ實に探偵小説の羅針なり請ふ愛覽を垂れよ

發行所 東京市日本橋區 通三丁目 金川書店
賣捌所 大坂東區淡路町 二丁目 金川書店

名作卅六淨瑠璃全書 各一册 定價十錢

本邦文學の粹ハ淨瑠璃本にあり人情の微を探り風俗の態を知らんと欲する者ハ淨瑠璃本を讀むよ如かず弊堂嘗て此名手筆の只に婦女子の醜弄物となり三絃を練つる具たるを憐み名作卅六佳撰を題して義太夫丸本を發行せしよ幸よ江湖の喝采を聞し遂よ三十六種の丸本を發行して三十六佳撰を完成するを得たり然るよ金句玉章尤も見るべき者よして撰よ漏るゝ者多し依て更に淨瑠璃全書と題して續發せんとすよ卅六佳撰と共に愛讀の榮を賜はんことを

- 第一輯 源平布引瀧
- 第二輯 近江源氏
- 第三輯 碁太平記白石噺
- 第四輯 楠賢女鑑

翻譯文庫 定價卅郵稅八錢

本文庫ハ英米獨佛何れの國を問はず又ハ其種類の何たるを論せず奇偉絶妙ある小説にして全歐州よて社會の喝采を得たる傑作を撰み翻譯發行する者あれハ一ツとして面白からざるハなし故よ歐州の文華と相併んで文明の示導者たらん事を期し毎月一回之を續發するものあり

- 第一編 革命血痕 錄前編
- 第二編 革命史 血痕 錄後編
- 第三編 人情小説 嫉妬の果
- 第四編 理學小説 空飛ぶ人

發賣所 東京日本橋區 通三丁目 金川書店
賣捌所 大坂東區淡路町 二丁目 金川書店

松林伯知講談

合戦一 徳川 豊臣 小牧山合戦全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

本書は家康四代大戦の一にして奮闘烈戦の状語者をして快然たりしむ筆を幾川借雄が秀吉を妬んで謀殺せんとするに起し家康に依て借雄が精進し思烈決死の旗を以て當時旭日將軍秀吉が目に餘る大軍に抵抗し小牧の要害を守つて應援大軍を備へ志の謀計より池田勝入藤武藏守の諸勇士の討死等起伏極まり無く千變万化激烈勇憤の情態を寫し出し遂に和議成るに至るまでを尤も面白く尤も活潑に講談したる者なれば一讀以て活劇を見るの思あらしむ

松林伯知講談

合戦二 徳川 味方ヶ原合戦全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

本書は本邦戦記中有名なる事は世人の悉知する處にして家康軍兵を以て豪強無双當時旭將軍情芝が上洛を阻留め遂に遠州湯原の城に退かざる所末より大久保三左衛門が三十六段の物見酒井左衛門が太鼓を打つて敵の追撃を退りけり馬場義遠守等ハ己れが氣血に負けて敵の笑ひを取るの件に至るまで詳細に演述したるものなれば之を讀むれば讀者悉して戦地に彷彿せしむる如く勇壯活潑にして士氣自から勃興する快活なる歴史譚なり

松林伯知講談

合戦三 上杉 武田 川中島合戦全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

世ハ麻の如く亂れ英雄豪傑諸方に割據し弱肉強食の勢を逞ふせし我が國元龍天正の頃當つては常陸攻戰の術大に煉成し有名なる合戦多し就中武田上杉両家の合戦に至りて古今絶無たるハ皆人の知る所なり凡て合戦には已に戦はざる以前に勝敗の定まるハ皆人にして勝つ野望兵の多寡地の利人の和是等の點に至りては如何なる一方は他方に優れると劣れるあり爲めに些細に戦をせ下せば破るガ道理勝つべきが當然なるが如し獨り武田上杉に至りては然るぞ萬般同等の勢を以て戦ふが故に十有八年間勝敗定まる時ハ然る斯は何れの歴史に徴してても類ひ稀なり今や弊堂に於て合戦集を發行するに當つて大戦史を撰す請ふ陸續御購求あらんとす

松林伯知講談

合戦四 徳川 武田 長篠合戦全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

本編ハ徳川四代大戦の一にして有名なる合戦なり武田勝頼亡父信玄の遺言を以て無謀の兵馬を起し私怨を以てせんとして先づ長篠を攻め抜く能はざるを何日遂に徳川徳川の出兵せる件より彼の有名なる水門滑り鳥居強右衛門の忠勇義烈あり跡部長政両好の侯辨知智を逞しし甲陽名代の四老臣馬場山縣土屋内藤等が謀言も用ひられ憤死忠戦の有様より本邦武道の鬼神と稱せられし武田家も遂に滅亡に歸する所末を細大洩れなく詳記したる戦記なり

松林伯知口演

合戦五 徳川 淺井 姉川合戦全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

本編ハ味方長篠小牧と相連んで徳川家康四代大戦の一にして家康が未だ一國の城主に過ぎざるの時此ハ戦の武功に依り參河に家康あり世人の注意を引起したる合戦なり然れども其主たる敵手ハ徳川朝倉にして徳川淺井ハ客戦なり先づ戦を信長上洛の意思を執行せんと欲して姻を淺井に結ぶの點より戦起し越前に亂入し淺井が夾撃を閉ひて退陣の件木下秀吉が拔群の軍忠扱てハ家康が陣騎の難戦より朝倉が戦將眞柄十郎左衛門が奮戦の狀龍飛び尻踊るの狀卷中目覺き奮闘を以て痛たされ遂に淺井朝倉が滅亡に至るまでを詳述せし勇壯快活なる軍談なり

桃川燕林口演

合戦六 成辰 上野合戦全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

本編ハ讀者の既に知る如く有名なる維新の軍記に志す藤林子が現在せる當事者に就て種子を求め殊に自ら名實地目瞭せし始末を編演したる合戦記なり

松林伯知講談

合戦七 柴田 羽柴 賤ヶ嶽合戦全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

合戦の事を談し奮戦の顛末を語る者此軍談に及ばざる事なし賤ヶ嶽七本鎗の名は幼兒も之を知る本編は談を大徳寺燒香場より戦起し秀吉が天下を掌握するに至るまでを演し相谷加藤等七名が奮戦の狀を讀むに至りては勇壯の氣勃々として禁ざる能はざるなり

放牛舎桃林口演

合戦八 朝鮮 蔚山籠城全

菊判形美本●定價金三十錢●郵税金八錢

東京日本橋區新和泉町一番地 發行所 今古堂
東京日本橋區通三丁目十三番地 發賣所 金櫻堂
大阪東區淡路町二丁目 全 金川書店

曲亭南總里見八犬傳

菊判大形映入
絹糸和綴美本
全八冊
定價金貳圓

空前絶後の大手筆として小説部類に特色を有する者ハ本篇八犬傳たる事ハ三尺の童子も知る處なり近年小説流行ヲ隨つて往昔の傑作を翻刻して發售する者無數全種の書籍を甲乙二ヶ所にて翻刻するに至りてハ相互競賣の弊品質を粗にして價格を低廉ならしむる事を是れ務むゆへに品質の粗ハ層一層して讀者をして厭惡を來さしめたり弊堂常は是を憾み昔日乃美を恢復せんとして本篇を發刊するに至る校正を嚴にし印刷を鮮明にし製本を堅牢にし務めて價格を下廉にす請ふ大方の諸君よ優美にして高尚ある本篇を購ふて以て座右の好友となすに至れ幸甚

發行所 東京日本橋區新和泉町一番地 今古堂書店
賣 大坂東區淡路町二丁目 金川書店

義典九本名作三十六佳撰完成廣告

義典九本名作三十六佳撰完成廣告 一册ニ付郵稅共 正價金十二錢

- | | | | | | |
|-----|----------|------|----------|------|----------|
| 第一 | ●繪本太閤記 | 第十三 | ●彦山權現警助劔 | 第二十五 | ●義經腰越狀 |
| 第二 | ●生寫朝顔日記 | 第十四 | ●伊賀越道中雙六 | 第二十六 | ●義經千本櫻 |
| 第三 | ●假名手本忠臣藏 | 第十五 | ●三日太平記 | 第二十七 | ●鎌倉三代記 |
| 第四 | ●伽羅先代萩 | 第十六 | ●太平記忠臣講釋 | 第二十八 | ●御所櫻堀川夜討 |
| 第五 | ●本朝廿四孝 | 第十七 | ●花上野櫻石碑 | 第二十九 | ●傾城阿波鳴門 |
| 第六 | ●菅原傳授手習鑑 | 第十八 | ●北條時頼記 | 第三十 | ●花邊佐倉曙 |
| 第七 | ●妹脊山婦女庭訓 | 第十九 | ●國姓爺合戰 | 第三十一 | ●關取千兩幟 |
| 第八 | ●平かゝ盛衰記 | 第二十 | ●神靈矢口渡 | 第三十二 | ●三十三問堂 |
| 第九 | ●奥州安達原 | 第二十一 | ●小野道風青柳硯 | 第三十三 | ●新版歌祭文 |
| 第十 | ●一の谷嫩軍記 | 第二十二 | ●箱根靈驗壁仇討 | 第三十四 | ●蘆屋道滿大内鑑 |
| 第十一 | ●壇浦兜軍記 | 第二十三 | ●太平記菊水の巻 | 第三十五 | ●加賀見山故郷錦 |
| 第十二 | ●蝶花形名歌鳥臺 | 第二十四 | ●玉藻前職袂 | 第三十六 | ●祇園祭禮信仰記 |

發行所 東京市日本橋區通 三丁目十三番地 金川書店
大坂東區淡路町二丁目 金川書店

俳諧叢書出版目録

花の本月の本兩宗匠校正

●**芭蕉翁一代集** ●正價三拾五錢
●**五老并許六選** ●正價三拾二錢

●**風俗文選** ●正價三拾二錢

●**鶉** ●正價三拾二錢

●**俳諧一葉集** ●正價七拾錢

●**俳家奇人談** ●正價三拾二錢

●**俳諧七部集大鏡** ●正價五拾錢

●**歌俳百人傳** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

東京案内

東京市

は我日本帝國の首府にして武藏國豐島郡に在り舊江戸と稱す東は葛飾郡に跨り南は荏原郡に亘り北は足立郡に連る東西三里南北四里市街を分ちて十五區となす麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川即ち之なり而して更に小別して町數一千三百餘戸數大凡三十萬人口一百廿三萬七千六百有餘と稱す

地勢は古への所謂武藏野の東南隅に位して東京灣に瀕し西は丘陵相連りて北に荒川を帯ぶ皇城其中央の高臺にありて其臺南北に延亘し高低兩地の經界をなせり市俗高地を概稱して高臺又山の手といふ低地は一般に下町と稱ふ

抑も當市の沿革を温ぬるに沿革年間源賴朝の興るに際し江戸重長なる者既に此地に居りしと云ふ後足利氏の末世に至り康正年中鎌倉の管領上杉定政の老臣太田道灌此地を相し千代田實田祝田の諸地に相跨りて城郭を構へ江戸城と名つけてこれに居る之より江戸の名世に著はる後文開十八年道灌の讒害せらるゝや一とたひ上杉定政に屬し大永四年北條氏綱に略

せらる後又天正十八年豐臣秀吉北條を滅ぼし關東八州を擧げて徳川家康に賜ふ同年八月家康此に移住し慶長年中其征夷大將軍に任せられ天下の政權を執るに及び道灌の舊構に就き

春秋巷白雄選拙堂補綴

●**俳諧寂葉** ●正價三拾二錢

●**俳諧七部集大鏡** ●正價五拾錢

●**歌俳百人傳** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

●**俳諧七部集** ●正價金拾五錢

發行所 東京日本橋區新和泉町一番地 今古堂書店 大坂東區淡路町三丁目 金川書店

賣捌

東京案内

東京市 我日本帝國の首府にして武藏國豐島郡に在り舊江戸と稱す東は葛飾郡に跨り
 南は荏原郡に亘り北は足立郡に連る東西三里南北四里市街を分ちて十五區となす麹町、神
 田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深
 川即ち之をり而して更に小別して町數一千三百餘戸數大凡三十萬人口二百廿三萬七千六百
 有餘と稱す
 地勢は古への所謂武藏野の東南隅に位して東京灣に瀕じ西は丘陵相連りて北に荒川を帶
 ぶ皇城其中央の高臺にありて其臺南北に延亘し高低兩地の經界をなせり市俗高地を概稱
 して高臺又山の手といふ低地は一般に下町と稱ぶ
 抑も營市の沿革を温ぬるに治承年間源賴朝の興るに際し江戸重長なる者既に此地に居りし
 と云ふ後足利氏の末世に至り康正年中鎌倉の管領上杉定政の老臣太田道灌此地を相し千代
 田資田祝田の諸地に相跨りて城郭を構へ江戸城と名つけてこれに居る之より江戸の名世に
 著はる後文明十八年道灌の讒害せらるゝや一とたひ上杉定政に屬し大永四年北條氏綱に贈
 せらる後又天正十八年豊臣秀吉北條を滅ぼし關東八州を擧げて徳川家康に賜ふ同年八月家
 康此に移住し慶長年中其征夷大將軍に任せられ天下の政權を執るに及び道灌の舊構に就き

新たに土木の工を起し幕府をこゝに開きしより高阜を夷らけ海沼を埋め後衛の區劃を定め
て大に都市の基を立つ之れより三代家光に至り六十餘州の侯伯をして皆邸第を築かしめ參
勤交代せしむるに當り高門巨館を列ね頗る壯觀を極め従つて商估繁殖し百事隆盛に赴
けり爾來子孫相襲きて十五代二百六十餘年を経て慶應三年に至り時の將軍徳川慶喜軍職を
辭し政權を奉還す此に於て朝廷詔して鎮將府を置き明年七月江戸を改めて東京と稱し帝
都と定め尋ひて 聖駕車幸す實に明治元年十月なり爾來世態一變して頻りに泰西の文物を
輸入し政治を改め教育を奨め商工技術都へて彼開明の風に則り市區水道を改良し瓦斯電
燈の設けありて暗夜も尙白晝の如く且街頭鐵路を布きて往來に便にし電信電話は四通八達
宛も蛛網を張るに異ならず坐ながら里外の客と對話し瞬間にして用を辨するの利あり其他
百般の事物日に面目を更新し以て今日の盛況を呈す眞に東洋の大都會なり

武藏野 是南は多摩川北は荒川東は隅田川西は大嶽秩父嶺を限として入間、多摩、豊島、
荏原等總べて十郡に跨り所謂武藏野の月は草より出て草に入ると詠し又草の秋に旅寮の
日敷を忘れ問ふへき里の遙をりなど古の歌人が秋をしばりし茫漠たる曠野をりき古歌にも
行末は空もひとつの武藏野の草の原より出る月かけ
旅人の行かたくにふみわけて道あまたあるむさしの原
むさしのは月の入るへき山もなし尾花が末にかゝる白雲

獨政太政大臣
右大臣
通方

春もまた色には出すむさしのや若紫の雪の下草
むらさきのゆかりの色も問ひわぬ見ながら霞む武藏野の原
花の色も籠りし妻やこれならん一本菊のむさしの原
若葉つむゆかりに見ればむさしの草はみなから春雨そふる
むさしのは猶行末も秋萩の花摺衣かきりしられす
むさしのは木蔭も見へず時鳥幾日を草の原に鳴らん
むさし野といつくをさして分入らん行もかへるも果しなれば
山透し有明のこるひろ野かな

家 隆
定 家
爲 實
雅 經
讀人不知
直 朝
氏 康
道 興

紫草 是武藏野特有の名物なり古歌にゆるしの色また位の色などいへり女に比してはゆ
かりの色杯ともいへり其草の根を碎きて染る故に紫の根染又紫の根摺ともいへり古來江戸
紫といひて其紫染は他邦に類ひなき絶品と賞美するものなり

古今集
九條右大臣
武藏野の野中をわけてつみそめし若紫の色は限りか
武藏野に生ふとしきけは紫の花の色ならぬ草もむつまじ
へたつなよ我世の中の人なればしるもしらぬも草の一本
皇城 是麴町區の中央に在り城地は 後花園帝の康正年間太田道灌の創めて區劃經營す

小 町
氏 康

三百七十一

る所にして其後慶長年中徳川家康大に土木の工を起し幕府を此に開きしより累世の居城たりしが慶應三年幕府政權奉還の後 鳳輦東幸して萬世無窮の皇居となる明治六年五月炎上烏有に歸す同十七年新に土木を起し同廿一年十月皇居落成同廿二年一月十一日新殿に御移轉在らせられたり皇城の正門は大手御門と稱し大手町にあり其南は桔梗門北は平河御門と稱し昔は庶人の通行を禁せり城外は濠洲敷重郭の内外を分ち要處に數門を設置せり其東南に在るものは和田倉馬場先櫻田の三門にして竹橋田安清水半藏の四門其西北を環り常盤橋は内郭の東門に方り以南の三門は吳服橋、鍛冶橋、數寄屋橋と稱し以北の三門を神田橋、雉子橋、一橋御門と云其他虎門、幸橋、山下門等相連りて正南の外郭を擁せり

二重橋 は皇城正門の前に在り其構造鐵石の二橋に分ち甚だ壯麗にして且つ橋邊の光景絶佳なり又其橋邊に我邦古今の忠臣楠 正成の銅像を設立するの準備あり

吹上禁苑 は皇城内の御苑にして舊名を局澤と稱し皇城の背後にあり苑内の結構ハ善を盡し美を極め今は庶人の拜覽を禁せらる

内閣 は坂下御門の内に在り即ち天下萬機の出る所にして各省大臣を以て閣員を組織す樞密院も亦同所に在り 至尊の最高顧問府にして明治の元老諸氏を擧げ以て其顧問官となす

近衛師團 は城内に在り兵營亦郭内各所に散在す親兵屯在の處にして今其都督たるもの

は陸軍大將二品大勳位小松宮彰仁親王なり

赤阪離宮 は赤阪區元赤阪町紀伊國坂の上にあり舊紀州和歌山侯の藩邸なりしを明治維新後離宮となす明治六年皇城炎上後廿二年に至るまで十七年間假皇居たりし處にして今皇太子殿下の宮殿あり花御殿と稱す

青山御所 は赤阪區青山南町にありて 皇太后の宮居なり

演離宮 は芝區芝浦にあり往時徳川幕府遊獵の處にして舊演御殿と稱す風光明媚苑内花卉多く毎春觀櫻の御宴あり又外國貴賓の接待所たり

其他親王家の邸第は麴町區永田町二丁目に有橋川宮同區紀尾井町に北白川宮と伏見宮神田區駿河臺に小松宮等何れも建築壯麗なり

是より市内外の遊覽すべき各部につき其案内を略叙せん市街要區の大跡より漸次局處に及ぶべし

日本橋 は日本橋區の中央に在りて城壕の下流に架す其長さ二十八間江戸開府の初め即ち慶長末年の創製にして古來全都の中心と定め全國各地に道程を起算するの基となす橋南は通一丁目といひ橋北を室町一丁目と云ふ都下最も繁榮の要地にして來往の人織るが如く車馬絡繹として晝夜間斷なく其名汎く世人に知られ亦た都人の誇稱する所なり橋下の河岸は有名なる魚市場にして毎朝夕の般賑雜沓實に非常の盛況を極め以て都下繁華の一斑を知

三百七十四
るに足る古來此地の光景を吟詠する諸大家の詩歌一二を摘録して以て其記事に代ゆ

自是大平無事客、東關行盡幾山川、武江城上慶雲靜、日本橋頭人氣煽、翠帶紅衣常絡繹、玉鞍金輿每駢闐、相知題柱知何意、富貴從來元在天、

鎌倉を生て出けんはつかつ波

帆をかふる鯛のえはきや薫る風

其 角

新橋 是大通筋芝口一丁目と京橋區出雲町との間に架する小橋なり然れども樞要の地に在るを以て其名は普ねく人の知る所にして東海鐵道より入京する旅客は新橋停車場を下りて先づ此橋を渡るを常とす此地は正徳年間朝鮮の使臣來聘の前即ち寶永七年に新に門を造築し芝口御門と唱へたりしと橋名も當時芝口橋と稱へたり橋北は所謂銀座街にして都下第一繁盛の區たり

大通 是京橋區新橋より京橋日本橋を経て神田區萬世橋に至るの間を概稱しりれより下谷區上野廣小路までを御成道と云ひ即ち一等道路にして其幅廣く商估軒を並へ車馬絡繹最も繁盛なる街衢なり就中新橋京橋の間は所謂銀座通にして建築壯麗和洋雜貨の小賣店各新聞社旅店等多くは此區域内に在りて最も雜沓を極む而して日本橋區内は其外見銀座通に及はざるも商賈の壯大富有なるは此區を以て第一とす即ち東京の中心豪商の集る所なり此通には馬車鐵道の複線あり往來織るが如し而して該馬車鐵道線路は大通の内日本橋區本町三

丁目より支線を分ち右折して本町通大傳馬町通横山町を過ぎ兩國に出で淺草橋を越へて淺草區に入り藏前通を貫き淺草廣小路に至り觀世音雷門前に於て上野廣小路よりの線路と相連結す
小川町 通は神田區萬世橋より同區神保町通を経て麹町區九段に通ずるの要路にして亦繁榮なる街衢なり書肆雜貨舖最も多し其他麹町芝本郷の各區次いで殷賑なる處とす又小部分についてこれを云へは神田區内田町の青物市場柳原通の古着店日本橋區内にて東中通の骨董店及古着店本町通の藥種問屋日本橋河岸の魚市場京橋區内にては築地の居留地豊岸島南北新川に酒類問屋芝區内にて日蔭町通の古着店等は市内著名の所なり

神社佛閣公園舊跡

日枝神社 是麹町區永田町二丁目山王山に在り俗に山王社と云ふ官幣中社にして大山咋

命を祀る淳和帝の天長七年慈覺大師勅を奉して當國入間郡に勸請せしを文明年中江戸城主太田道灌梅林阪の邊に遷し後徳川幕府の時今の地に社殿を營みて茲に遷座す時に承應三年なり建築莊嚴都下第一の大社にして即ち市の大半を奉じて産土神となす祭禮は六月十五日にして隔年に大祭を執行し其儀式の盛大にして市中の殷賑なると神田祭と共に都下の二大觀となす社地は小丘をなし一に星ヶ岡と稱す都下公園の一にして老樹鬱蒼甚だ幽靜の勝地たり夏季市井の紅塵を避くるに殊に妙なり又境内に有名の茶寮あり星ヶ岡茶寮と云ふ貴顯

紳士の集會遊宴常に絶へず其他茶店あり丘上に列る眺望甚佳なり
 平河天神 是同區平河町二丁目にあり菅公を祭る文明年中太田道灌の勸請する處にして
 參拜の人常に多く境内梅及び櫻樹を植へ花時遊覽者少ならず祭日は毎月二十五日とす此
 處毎年二期兩國回向院大相撲の後花角力を興行し殆んど定例とするが如し
 清水谷 是同區紀尾井町噴邊の内に在り(即ち紀尾井坂と清水坂の間の谷を云)明治十
 一年大久保内務卿の兇害に罹りし處にして今其哀悼の碑あり同所の井を柳の井といひて古
 來有名なり
 霞ヶ關 外務省の邊にして往時は奥州街道に方り關門のありし處なりとて古來著名の
 勝地なり

空にたつ春の霞の關もかな雲井の鷹をしはしととめん
 立とまる春の霞の朝朝花も幾重の匂ひそふらん
 徒に名花のみとめてあつま路の霞の關も春そくれぬる
 つかれ行く春の霞の關守も過る月日をととめやはする
 あつまには霞を關の名に立て春來る事を人に告らむ
 つけそむる關路の名のみ霞にて末は霧なるむさしの秋
 心めてにうれかり見る櫻花霞の關の春の夕暮

爲世
 龜山院
 讀人不知
 宣子
 慈鎮
 爲守
 光隆

空にたつ春の霞の關もりや睡月夜の名をととむらん
 くれぬとも春の名残を忍べとや關に霞の名をととむらん
 あまつ路の霞の關に年越て我も都に立やかへらん
 都にといそく我をはよとめし霞の關も春を待らん
 櫻田 是皇城の西南部城濠の邊一帶を總稱す此邊尤も風景に富みて即ち櫻田御門所在の
 地なり文久元年三月水戸藩の浪士等時の閻老伊井直弼を要撃せし處にして世之れを櫻田の
 變と云ふ
 靖國神社 是麹町區富士見町三丁目九段坂の上に在り別格官幣社にして俗に九段の招魂
 社と云ふ本社は明治維新の前後に於て國事に斃たる諸士の忠魂を合祀する處にして明治二
 年の創建なり毎歲五月十一月の二期六七の兩日間大祭を執行す此日は勅使の奉幣又陸海軍
 將校の參拜ありて競馬相撲及び花火擊劍等種々奉納の催しあり諸人群集雜沓を極む境内は
 頗る廣潤にして社前に高燈あり所謂九段の常夜燈なり又一碑あり軍人の龜鑑と云ふ故陸軍
 伍長谷村計介の爲めに軍人社會相謀り建設する處の物なり競馬場は社前の廣場に設けて中
 央に賽路を通じ其兩側には數十の石燈並列す又境内に故大村兵部大輔の銅像あり大村氏益
 次郎と稱す長州の藩士にして維新の元勳中薩の西郷南州翁と共に拔群の士なり
 社殿の正面には唐銅製の一大華表あり又社側に一大館あり遊就館と名づく館内には内外古

爲氏
 顯氏
 道興
 同

今の兵器圖書及び武將の肖像等を陳列し大祭日及毎日曜日に来庶の觀覽を許す又社邊の庭園には梅櫻桃李の花弁を植へ後方には假山を爲り池を掘り池中又噴水を設け四時清水を溢へ大に幽趣あり加之ならず地高臺にあるを以て夏季の納涼秋は觀月冬は雪中市街の銀世界を一目の下に望み其眺望取て愛宕上野に劣らず故に曳杖の客四時跡を絶つことなし

神田神社 は神田區宮本町に在り府社にして俗に神田明神と稱す本社は聖武帝の天平二年僧眞教の勸請する處にして後慶長十八年一たひ駿河臺に遷し元和二年再び今地に復せりと祭神は初め大己貴命少彥名命及平將門を合祀せるを明治七年將門を斥けて攝社に下だし上二座を主神とす其氏子甚だ多く殆んど日枝神社と伯仲す祭禮は九月十五日にして隔年大祭を執行すること山王祭と一般なり境内は甚だ廣濶ならざるも高阜にあるを以て眺望に富み古木鬱蒼として納涼觀月に最も宜し丘上酒樓茶店及揚子店等あり

鳴つれて聲より聲とまますらふの心にかへる夜半の鴈

道 灌

兩國橋 は日本橋區兩國廣小路より本所區元町に架す其長さ九十六間萬治二年の創築なり往時は隅田川を以て武總の境界となせしに依り此橋號ありと云ふ又當時は此橋都下第一の大橋なりとて一に大橋と稱へたり下總街道の要路に當り六大橋中最も來往頻繁にして日本橋に亞きて其名世に著るし殊に古來納涼の名所として夏季に至れば其雜沓實に名狀すべ

からず又毎年七月河開きと稱し橋下に花火の備しあり此日は看客雲霞の如く橋邊の屋内且つ水陸共に立錫の餘地もなく發一發相和して玉屋、毬屋の贊聲は殆んど天地を震動し盛況禿筆に盡し難し此日より涼船を出だすを以て例となす古人句あり今其一二を録して光景を寫す

はせ 炭

其 角

おなじ人

このあたり目にみゆるものみなすこし
この人數舟なればこそすこみかな
千人か手を欄干やはしすこみ
水天宮 は日本橋區堀船町二丁目舊筑後久留米の藩主有馬家の邸内に在り祭神は安徳帝及建禮門院にして此本社は福岡縣筑後國久留米市瀬下町にあり古來其靈驗著るしとて都鄙信仰者甚だ多く參詣する者常に絶へず殊に毎月五日神符を出たすを以て諸人雲集雜沓名狀すへからずまた毎月五日は縁日と稱し社邊の街衢に諸商人露店を張りて市をなし甚賑ふ
新大橋 は全區濱町河岸より深川六間堀に架す其長さ百八間元祿六年の創築なり當時今の兩國橋を大橋と稱へしに依り相對して本稱を命ず即ち六大橋の一にして橋上眺望絶佳なり橋南の中洲町は古への三又の地にして近年一市街を構成し酒樓あり劇場あり繁華なる勝區となれり

風羅禮日記元祿五申年の冬深川大橋半ばかりりけるとき過ぎりて

初雪やかほりたるはしのうへ
また橋の成就せしとき

はせ東

ありかたやいたとひて踏むはしの志を

岡

永代橋 は隅田川六六橋中第一の長橋にして其長さ百二十間餘全區新永代町より深川區佐賀町に架す元祿九年の創設なり橋下は船舶の出入まげく橋上は眺望快給東南茫々たる大海に臨み房總の翠巒を雲烟模糊の間に見る東北は筑波の遠嶺其青岱を墨水に影じ西は皇城を隔てて遙に芙蓉の白峯を望む尙上流の光景より市内外の盛況を一目の中に收攬し恰も畫中に在るが如し

東望天邊海氣高、三又口上接滔々、布帆一片懸秋色、欲破長風萬里濤、南 郭
西本願寺別院 は京橋區築地四丁目にあり俗に築地の門跡と稱ふ本尊は阿彌陀如來にして聖德太子の作なりと云ふ延寶八年之を創建す始め日本橋區横山町二丁目に在り明歴大火の後今の地に移す毎年七月七日立花會あり十一月廿八日報恩講と名づけ七晝夜の法會修行あり信徒の參拜殊に多し

琴比羅神社 は芝區琴平町にあり俗に虎の門の琴平と云府社にして太物主命并崇徳帝を合祀す都人の信仰甚だ篤く參詣者常に絶へず殊に毎月十日の例祭には商估社邊數丁の間露店を張り其雜沓云はんかたなく水天宮と并び稱せらる

愛宕山 ハ全區愛宕町にあり高丘にして眺望に富み都下公園の二に居り丘上に愛宕神社あり又茶亭あり日夕來遊する者跡を絶たず

芝公園 は同區内に在り即ち増上寺の境内にして地域廣闊大凡十三萬五千坪上野に亞くの大公園なり園内は老樹鬱蒼天日を蔽ひ幽靜にして遊覽すへき個所多し左に之を列記す

増上寺 は園内に在り三緣山廣度院と號す關東淨土宗の總本山にして後小松帝の勅願所として大蓮社西譽上人の開基なり本尊は阿彌陀如來を安置す徳川幕府入國の後其菩提所として堂塔伽藍壯麗を極めしが明治六年火災に罹り堂宇盡く烏有に歸し近年再建せり然れどもまた舊時の盛觀なし

東照宮 は本堂の北に在り元と安國殿と號す結構華麗を極め金色燦然として眩目せしむ徳川家歴代の廟 是安國殿の背後に方り南北一帯に駢立ち各廟建築善美を盡し廟前には數十基の燈籠羅列す就中二代將軍の廟は頗る壯麗にして日光に於ける家康公の廟社と殆んと同一なり

團山 ハ國の南隅に在る一小丘にして眺望快調なり此山は太古の墓陵なること本年之れを發見し近傍より種々の考證物を獲たりと云ふ

辨才天祠 は團山の後蓮池の中央にあり池畔に茶店あり佳景の地なり

五重塔

は團山と辨才天祠の間に聳立し大いに風致を添へり

紅葉館

は園の西方宇紅葉山にあり紳士の宴會場にして品川灣を望み風景甚美なり

東京府勤工場

は園の東南隅にあり都下第一の勤工場にして館内百貨を陳列し縦覽及

需要に應ず

芝太神宮

は同區宮本町にあり府社にして天照太神豐受太神を祭る本社は一條帝の寛弘

二年初めて増上寺境内に鎮座し後今地に遷せりと云祭禮は九月十六日にして毎年同月十一

日より廿一日に至るの間生美市と稱し生美を賣るの舊慣あり境内に料理店楊弓店等相並ひ

甚繁華なり又社前南北に通する一帯の街衢は俗に神明前と稱し店舗櫛比して常に繁昌せり

善福寺

は麻布區山本町に在り麻布山と號す弘法大師の草創にして一千有余年の古刹なり

本尊は阿彌陀如來を安置し貞永元年中興の開山了海上人の時親上人の教に歸し一向宗

となる境内に靈泉あり楊柳水又た鹿鳴清水と呼ぶ又た杖銀杏なるものあり親鸞上人の杖を

りと云傳ふ

沼池

は赤坂區赤坂門外より山王臺の麓を東南に繞り虎門に出る迄の處を云往昔此池水

を上水に用ひたりと今は曠野となり中に一條の川路を通せり

四谷大木戸

は四谷區新宿に在り徳川氏開府の頃までは此地の左右谷にして一筋道なり

と云ふ甲州及青梅街道の要路に當り古へ旭の關と稱へ關門ありし處なり

護國寺

は小石川區音羽町に在り神龜山悉地院と號す眞言宗にして如意輪觀音を安置す

其佛像は瑪瑙石の天然物なりと云亮賢僧正の開基にして天祿年中創建に係り都下屈指の巨

刹なり境内は古木蒼鬱として甚だ幽邃なり藥師堂七面堂及び大日堂等あり近時故三條相國

山田伯等其他貴紳の墳墓寺内に在り

傳通院

は全區表町に在り無量山壽經寺と號す開山は了譽上人にして明徳年中の創建なり

本尊は阿彌陀如來にして惠心僧都の作なりと云境内東照公の母堂傳通院殿の墓あるを以

て寺號となす

後樂園

全區小石川町砲兵本廠の構内に在り此地は舊水戸侯の藩邸なり園は即ち其遺物

にして規模廣濶築造巧妙善美を盡し都下第一の名園なり

聖堂

は今の高等師範學校に隣り大成殿といふ本郷區湯島二丁目昌平坂の上老樹蒼鬱た

る中にありて神田川に臨む孔夫子を祭る本堂は初め寛永十年徳川義直(尾張侯)上野山王臺

舊林家別荘の所に經營されしものにして後元祿四年幕府今地に遷せしものなりと

から人のむかしのかけをうつし來てあふけは高き秋の夜の月

湯島神社

は全區湯島梅園町にあり俗に湯島天神と云ふ菅原道實公の靈を祭る康正年間

江戸城主太田道灌靈夢に感じ茲に勧請せりと云社地は湯島臺の東端に位し不忍池を隔て

上野と相對し眺望に富み境内には梅及び櫻樹を栽へ又料理店等ありて參詣絶ゆるとなし例

祭は毎月廿五日にして隔年十月九、十兩日を以て大祭を執行す

三百八十四

北國紀行に云忍ヶ岡のならひに湯島といふ所あり古松はるかにくり注連のうちに武藏野の遠望を懸たるに寒村の道すから野梅盛に薫すこれは北野の御神と聞へければ

忘れずは東風吹むすへ都まで遠くしめのう袖の梅か香

斐 惠

天澤山禪院 是全區龍岡町にあり俗にからたち寺と云ふ舊親恩山天澤寺といひ本尊は釋迦佛にして開山は滑川劉和尚なり寛永元年二代將軍の命に依て春日局の菩提所に賜ふ仍つて後世寺號を改め局の法號を取りて禪院と稱すと云春日局は其父は明智光秀の重臣藤利三にして稻葉正成の室を以て嫁に賢婦の聞へあり召されて三代將軍の保母となるや教養大に其宜しきを得て内外に畏敬せらる寛永五年將軍疾あり甚危かりしむば局大に之を思ひ神に祈り身を以て代はらんことを請ふ將軍疾癒ゆ其局病あるも曾て藥餌を用ひず死に至るまで其慈を渝ざりしと云今六年上洛参内す勅して局號を賜ひ且つ親しく天盃を賜はる此時長尙親王并に光廣卿等より和歌を贈らる

春日山其名を四方にあらはして萬代よはふ松の風かも

親 王

いや高き君か守りの春日山四方に旭の光そへつ

實 條

後又上洛し從二位に叙せられ全十八年九月十四日病んで死す天澤山に葬る爾來全月全日を

光 廣

以て毎年大法會を執行し近年毎月四の日縁日を稱し参詣する者甚だ多し

園子坂

是全區駒込千駄木町にあり菊花の名所にして毎年秋季御菊の男女雜踏を極む又

此邊植木屋多く且つ有名なる観音堂あり夏時には人造瀧などの設けあり

上野公園

は下谷區上野に在り一に忍ヶ岡と稱す市の西北に位し北は道灌山飛鳥山等へ

連互したる高丘にして西に不忍池を擁し東南は淺草日本橋及東京灣を望み園内甚廣く凡そ

廿餘萬坪を有す古木鬱蒼として緑陰地を蔽ひ又櫻樹多く開花の候風景殊に愛すべく滿都の

士女競ふて來觀する者甚盛なり園中觀るべきもの極めて多し其要を記せば園の入口右傍處

に臨みて觀音堂あり清水舞臺と云ふ京都清水觀音堂に倣ひしものなり堂後井の側に一株の

老櫻あり秋色櫻と名く昔商家の少女秋色なるもの之を見て

井のはたの櫻あふなし酒の酔

と詠みしより此名あり觀音堂の側五六十歩を距て彰義隊の墓あり成辰の役徳川氏旗下の士等上野宮を擁し普山に據て官軍に抗し戦没せし者の爲めに建てたる碑なり此邊櫻樹最多し故に櫻ヶ岡と稱す此所に一館あり美術品展覽會場とす常に繪畫彫刻等の美術品を出品す館の門前に一丘あり摺鉢山と名く丘上休憩所あり園内を下瞰す丘の下に廣地あり舊と寛永寺中堂の在りし跡なり内國勸業大博覽會及び諸種の共進會等を開設するに當り其建築所と爲す現今は商品陳列所たり其左傍華表を過ぎ進めば東照宮の廟あり廟は公園西屋の上深

林の中に立ち不忍池に臨み金鴨池として構造壯麗を極め廟前路の左右に諸侯より寄贈の石燈籠列せり此所に五重塔あり深林を穿ち北に進めは動物園あり珍禽奇獸を畜ふ之れに隣り美術學圖書館パノラマ音學校等あり而して美術學校の門前より北數十歩にして帝國博物館あり宏壯堅固なる建築にして館内古今の名物絶品を蒐集し以て衆庶の觀覽に供す此他五代將軍の廟兩大師等各所に散在す細かに之れを遊覽せんとせば三四日を要すべし又公園内各所に茶亭あり而して日本料理には櫻ヶ岡に八百善樓あり丘の東崖に臨み西洋食には精養軒あり東照廟の左丘の西崖に登へ共に眺望明美なり

寛永寺 是全區上野櫻木町に在り舊と上野公園地にありて東叡山と號し後水尾帝の寛永年間徳川氏江戸城の鬼門鎮護の爲め天海僧正に命じて山城叡山に據して創建する所なり爾來明治維新に至るまで長く親王を申下し其座主と爲し徳川家代々の香華院として宏壯大伽藍なりしも戊辰の兵燹に罹りて悉く焦土に歸せり後今地に再建す

慈眼大師の略傳 慈眼大師諱は天海南光坊と號す奥州會津郡高田郷の人なり姓は三浦氏幼にして聰敏年甫めて十一僧となる天文年中叡山に登り修行兼て神道儒學を脩す後諸山に轉住し篤く家康に信任せらる慶長年中權僧正と爲り元和二年大僧正に進み其後寛永二年徳川二代將軍の命を受け東叡山寛永寺を草創し同廿年十月遷化す

東本願寺 是淺草區松清町に在る巨刹なり舊時神田に在りしを明曆年中大火の後此地に移せるものなりと俗に淺草門跡と稱し即ち京都大谷派本願寺の輪番所たり教如上人の開基にして信徒の參拜常に絶へず境内支院亦多し立花會報恩講等の事西本願寺に全じく往時朝鮮人來朝の時常に此等を以て其旅館となせり又明治維新後始めて地方官會議を開くや此寺を以て其議場となせり

淺草寺 是全區淺草公園に在り天台宗にして本尊は一寸八分の觀世音なりと云實に一千二百有餘年來の古刹にして現今の本堂は寛永年間回祿の後慶安三年徳川氏の建立する處にして其建築宏壯雄麗日夜香華の燦なるを都下其右に出るものなし正面に山門あり俗に仁王門と云該門の樓上には文殊菩薩の像を安置し又樓下の左方には金剛力士の像を安んず五重の塔は山門を入りて右方に登へ塔中五智如來を安置す本堂の後方に一社あり淺草神社にして俗に三社と稱す本社は觀音を獲たる漁夫三人の靈を祀る淺草の總鎮守なり毎年五月大祭を執行す所謂三社祭にして其賑ひ云はん方なし其他護國殿、念佛堂、閻魔堂及び錢瓶、辨才天等の堂宇境内に散在す

淺草公園 是即ち觀音の寺内にして壇域凡そ七萬四千坪を有しこれを七區に分劃す都下各公園中尤も繁華なる勝區とす園内には花木を栽へ庭園の風致愛すべし園外には雜貨舖藏場及雜技諸曲の興行等軒を列ね其他揚弓店飲食店等凡そ娛樂に關する事物一切此園内に網

羅して洩さず

待乳山 是全區聖天町に在り一に眞土或は信土と書す隅田川に臨める小阜にして上に聖天宮あり大同年中の勸請をり参拜者常に多し此地は古著名の勝地なりしか數年前火災に罹り大ひに風致を損せり

今宵また誰宿からん庵崎の隅田川原の秋の夜の月

月影のさすや庵崎すみた川越てまつち山のかひより

まつち山夕越行きて庵崎の角田川原に獨かもねん

誰にかも宿りはとはむまつち山夕越行はあふ人もなし

まつち山夕越行は風寒みすみた河原に千鳥なくなり

日本堤 是聖天町より築輪に通ずる長堤にして荒川の汎濫に備ふ元和六年幕命により築造したる者にして俗に八丁土手と云

山谷堀 是全區内日本堤に沿ふたる溝渠にして又單に堀と呼ぶ昔は堀に臨みて船宿多く猪牙舟等を置きて吉原通客の送迎に供し大に繁昌せしと云維新後其趣を異にして今や甚た寂寥となれり

石濱古戦場 是今の淺草橋場町の邊を云ふ正平七年新田義貞一族義宗義治等を率ひて大に尊氏と戦ひこれを敗る

順徳院
家 隆
辨 基
定 實
季

淺茅ヶ原 是同區同町總泉寺大門の邊を云ふ

淺茅ヶ原といへる所にて
人めさへかれて淋しき夕まくれ淺茅ヶ原の霜を分けつ

眞先稻荷 是同區同町にあり倉稻魂神を祭る隅田川に臨みて向島と相對し風光極めて佳なり

驚神社 是同區龍泉町俗に所謂淺草田甫にあり驚大明神と稱す毎年十一月酉の日を例祭日となす酉の市といひ此日参拜人の群集雜踏すること實に驚くに堪へたり社邊及通路には露店櫛比し熊手及芋の子を此日の賣物の主なるものとす

千住大橋 是隅田川六大橋中最も上流に在りて千住南組より中組に架し其長さ六十四間餘堅固なる木橋なり橋南は即ち市俗小塚原と稱する處にして殷賑なる一區域とす此地は奥羽街道の官道に當り古へ寂寥たる荒原にして鼻首場の設けありしと今尙は無縁の墳墓町端の路傍にあり亦た橋本左内の碑等あり

吾妻橋 是淺草區花川戸町より本所區仲の郷竹町に架す其長さ八十一間鐵製の釣橋にして其壯麗なる六大橋中の第一に位す明治廿年の改築なり此橋は向島への通路に當り人車の往來常に絶へず殊と花時橋上の眺望は實に得難きの美觀なり

願橋 是同區三好町より本所區外手町に架す其長さ凡八十間六大橋の一にして明治廿六

願橋

願橋

願橋

願橋

願橋

願橋

願橋

願橋

年改築し香妻橋と同製にして共に都下の美橋をり橋西の地舊と幕府の御廩ありし處にして
 當時御廩の渡と稱へ渡船場ありき仍て架橋後も其稱を變用す
 浩養園 は本所區仲の郷瓦町に在り舊佐竹邸の趾にして園内廣瀾假山あり泉池あり奇樹
 を栽へ怪石を排し庭園の築造善美を極め實に稀敷の名園にして當時縱覽を許るす又園の北
 隅茂林陰翳たる其中に鷲神社あり毎年十一月酉の日に參詣の人群を成す
 杖橋 は中の郷瓦町より新小梅町に架する木製の小橋にして此橋以北を向島と總稱し直
 に隅田の堤に到る橋を渡れば左方隅田川に臨み一樓あり八百松と云ふ有名なる割烹店なり
 其樓と相對して道の右側に茂林あり古へ嬉の森と稱へし處即ち此邊りをいふとがや
 向島 は本所區の北部隅田川の東岸に在る小梅須崎地寺島隅田等の各町村を總稱した
 る處にして都下第一の勝地たり今各名勝を小別し序を追ふて列記せん
 隅田川 は一に大川とてふ荒川の下流にして千住町の北境を東流し鐘ヶ淵に至りて綾瀬
 川を合じそれより南流して待乳山の下より淺草川、宮戸川等の稱あり河東は即ち本所深川
 の二區にしてこれより下流は市街兩岸を夾みて淺草御藏前下を通き忍川を受け兩國に至り
 て神田川と合し中洲に至り水流分岐し遂に品川灣に注ぐ河口に佃島石川島相並ひて東は越
 中島と相對し西は難岸島磯洲と河口の兩岸を夾む水勢緩漫にして舟楫の利甚た多く架す
 るに六大橋を以てす千住大橋、吾妻橋、厩橋、兩國橋、新大橋、永代橋とす

隅田堤 は又墨田とも書し單に墨堤とも稱す隅田川の東岸本母寺より三圍の邊に至る間
 をいふ天正二年小田原北條の築く處にして熊谷堤の一部分なり享保年間徳川幕府堤上に櫻
 桃柳の三種を植へ爾來其名殊に著はる明治十年有志相謀りて又櫻樹千五百株を増植せり此
 地は古來櫻花の名所として上野と並び稱せられ陽春花時之盛況は禿筆の能く盡す可らず加
 之納涼 觀月雪景も亦都下の各地に冠たり
 我れもふ人にみせはやもろともは角田河原のゆふくれの空
 まつち山夕越暮て庵崎のすみた河原にひとりかもねむ
 事とへはこたへぬ月のすみた川都の友とみるかひもなし
 すみた川古里思ふ夕くれに景色をそふるみやことりかな
 限なく遠く來にけりすみた川ことふ鳥の名をしたひつゝ
 此世にはよし事とはし隅田川すみへぬ方の鳥の名もうち
 むさし野ははや行過て隅田川遠きわたりにみやこ戀つゝ
 渡の上の昔をとへはすみた川霞や白き鳥のなみたに
 秋の水すみた川原にさすらひて舟こそりても月を見る哉
 都鳥すみた河原に舟あれとた其人は名のみありたら
 名にしたふそのいにしへの都鳥今はとふにもありやなしたと

俊 成
 辨 基
 二條院典内侍
 俊 成
 御 製
 爲 家
 堯 應
 道 興
 氏 康
 信 尹

都鳥何ことかはむるもわするはかりのけふの舟路に
 隅田川よにけふこし都鳥ありしためじもとひてこそしれ
 初花もけふこそみつれめつらしきすみた河原の春をどひきて
 ゆたかなる世々をかさねてすみた川原の波もさはず
 聞しにも越てよそみれすみた川汀の波も花に匂ひて
 筑波根の嶺吹れるす春風にすみた河原の花をほころぶ
 隅田川都のつとにまねふとも言の葉たらしめかぬなめは
 隅田川にこりてくたる水の面に清くもうつる花のかげ哉
 さくら花匂ふ墨院のつとみかけ心も もとまるなりけり
 隅田川水のけふりやたちぬらん花かけくらし馳つきよに
 隅田川長さつとみのなからひて千代も花みんいのちとも哉
 隅田川つとみの櫻見わたせば富士よりつとく花のしら雪
 都鳥 は即ち鷗の別稱にして其色白く嘴と足とは赤くして其形甚だ幽雅なり故に此稱
 あるものならん此鳥は處處にあればも在五中將の詠歌より専ら隅田川の景物となれり
 伊勢物語 なをゆきくして武藏國とじもふさの國とのなかにいとねほきなる河あり夫
 をすみた川といふうのかたのほとりにむれぬてれもひやれば限なくとほくも來にけるか

照 爲 久
 同 爲 胤
 同 爲 胤
 爲 村
 有栖川幸仁親王
 安 房
 美 静
 正 風
 弘 綱

あどわひあへるに渡守はや舟にのれ日も暮ぬといふにのりてわたらんとするにみな人物
 わひしくて京にもふ人なきにしもあらず然時しも白き鳥の嘴と足と赤鴨のおほきさを
 る水の上にあそひつとくいをくふ京には見へぬ鳥なれのみ人見しらず渡守に問ければ
 これなんみやこどりといふをききて
 名にしねはよいさことくはん都鳥我思ふ人はありやなしやと
 とよみければ舟こそりてなきにけり云々
 業 平
 回国雜記 かくて隅田川のはとりにいたりて(中略)猶ゆきくして川上にいたりにはへり
 て都鳥尋ねみむと人々さそひけるほとにまかりてよめる
 事とはむ鳥たにみよ隅田川都懸しとれもふ夕に
 道與准后
 おもふ人なき身なれともすみた川名もむつまじき都鳥哉
 同
 三圍神社 は小梅村の田の中にあり俗に三圍稻荷と稱す本社は始め弘法大師の勸請に
 て其祭神の像も同大師の作なりと云文和年間三井寺の源慶僧都再興す内陣に 英一螺の畫
 きたる牛若、辨慶半身の圖あり境内は廣からざるも種々の碑石甚だ多し昔この祠前にて雨
 乞の時其角翁の俳句あり「夕立や田を三圍の神ならは」碑に刻して存在す
 牛島神社 は三圍の北須崎村にあり俗に牛の御前と稱す祭神は素盞鳴尊にして又清和帝
 第七の皇子を合祀す傳云 清和帝の貞觀二年慈覺大師弘法の爲め東國巡遊の其禰靈夢に感

と一社を建て佛弟良本阿闍梨をして留つてこれを守らしむ其後陽成帝の時 清和帝の第七皇子當國に流されて終に薨じ玉ひしを阿闍梨此に奉葬し以て合祭せしとなり又本社は源朝篤く崇敬し養和元年神殿を經營し時の國主千葉介常胤多く神領を寄附し且尊信尤も篤く其後小田原北條氏も大に本社を保護せりと或舊記に傳へたり境内老松櫻樹多く花時殊に佳景なり

長命寺

は牛島神社に隣し寶壽山遍照院と號す天台宗なり本尊は等身の釋迦如來を安置す當寺は往古常泉寺と稱へて小庵なりしを寛永年間時の將軍家光此地に遊獵して微恙あり仍て寺内に休憩し庭前の井水を以て服藥す須臾にして病癒ゆされより此井水に長名水の名を與へ今尙堂後に存在す又寺號をも改めて長命寺と稱せしむと境内尤も碑石多く明治の操觚者として尤も有名なりし墨上源史の碑石も此内にあり又自在庵の舊址、はせを翁の雪見堂及び同翁雪見の俳句の碑あり

はせを
S 雪見は雪見に轉ぶところまで
此寺邊觀雪の好適地にて冬時杖を曳の雅人多く又此地名物の一として櫻餅を賣る家あり又言問園子とて同じき名物あり即ち當時の裏門を出て向側隅田河畔の茅屋に隣ぐ又同所の堤上に一碑あり即ち墨堤櫻植の碑なり

秋葉神社

は諸地にあり遠州秋葉權現の分社にして俗に秋葉權現と云ふ境内林泉幽棲に

して四時の遊覽に適し殊に楓樹多くして晩秋の杖最も宜し社前に神泉の松あり其處より神泉湧出す此邊輕便の酒樓多く隅田川名産の鯉魚を料理す就中有馬温泉等尤も消閑に適す

鹿崎

は秋葉權現の邊りを云ふ亦一説に木母寺の北の方ともいへり

順徳院

尙 長

今宵また誰宿からんいほさきのすみた川原の秋の月かけ

白鬘神社

は隅田堤の東にあり祭神は猿田彦命にして慈惠大師關東下向の頃靈夢に依て勸請すと云境内老樹叢生して風致頗る幽靜なり

百花園

は一に花屋敷といふ隅田堤を下りて少しく奥に入りたる處に在り梅と秋草とを以て著はる花時杖の雅客多し

木母寺

は隅田村墨堤の西方に在り梅柳山隅田院と號す天台宗にして本尊は五智如來なり貞元年間忠國阿闍梨の創建とす當寺始め梅若寺と稱せしを慶長十二年關白近衛信尹公來つて此邊を逍遙し當寺に休憩して木母寺の號を與ふ當時公の書したる眞蹟今に存して寺寶とす慶安己後徳川幕府の保護ありと云ふ

雪降れば水毎に花う咲にけるいつれを梅とわきてたらまじ
春の夜は吹まふ風のうつり香に木毎に梅とれもひけるかな

友 助

崇徳院

年の内の雪を水毎の花を見て春を遷しと來ぬる筈

木母寺に歌の會ありけふの月

境内に梅若塚あり塚上に祠ありて梅若丸の靈を祭る後世柳を植へてあれをしるしの柳と名づく

古塚のかけゆく水のすみた川 わたりてもぬる袖哉

來て見ればうへし柳のしるしのみ春風渡る隅田川原に

うき事を思ひ出てよや古塚に都の便りまつ風の聲

しるしにさうへし柳も朽はてよあわれはかりはのさる古塚

傳云梅若丸は京都北白川少將惟房卿の一子にして五歳の時父に別れ七歳の年比叡山の月

林寺に入り只管習學に餘念なかりしが故ありて或日潜かに寺をのがれ出で我家に歸らん

として道に迷ひ遂に大津の浦に至る會々陸奥の人買信夫藤太なる思ものに出會ひ欺かれ

て此地に來たり途上病にかゝりて終に死せり時に出羽の國羽黒山の忠圓阿闍梨此地にあり

り土人とはかりて此に葬り塚を築きてこれを吊ふ後其母尋ね來たり尼となりて妙繼と稱

し跡ねむころに吊ひしと丸今はのきわに詠みたりし歌に

尋ね來てとはこたへよ都鳥すみた川原の露ときへぬと

于時貞元元年三月なり

將軍家

其角

道興

康道

信尹

長尚

水神の社 は木母寺の向なる田の中に在る古松叢生の森を云ふ堤及ひ墨田河流を見下

して遙かに待乳山頭を望み花時雪景の眺め佳く最も閑靜の勝地なり此地に二戸の料理店あり

り一を八百松の支店とし一は奥の植半と稱す共に都下に有名なり又奥の植半は旅籠屋を兼

業す四時消閑の仙窟にして水陸共に往來の便あり

關屋の里 は牛田の邊をいへりと

歸るさの道に關屋の里もあれな隅田川原のあかぬなかめに

庵崎のすみた川原に日は暮れぬ關屋の里に宿やからまじ

鐘か淵 は隅田川、綾瀬川合流の處にして傳云此地昔或る寺の鐘を此淵に沈没し爾來此

名ありと云ふ現今紡績會社あり盛んに其業を營む

大略上記の如くにして尙隅田川に臨み植半樓の蜆汁を以て名あるあり舊八州園と稱したる

小野菜の別邸ありて其庭園見るに足る其他茶亭小料理店數多く須崎村には歌女ありて酒間

船輿の敏腕ありと此地遊覽の順路は多くは吾妻よりし又待乳山の下より竹屋の渡しを舟に

て三谷の堤に直行するもあり

堀切村 は南葛飾郡南綾瀬村に屬す即ち向島の東部にして木母寺より東方に田甫の間を

直行して凡廿町の處に在り花菖蒲の名所にして花時都人の來遊する者夥し小高、武藏屋等

の庭園最も著名なるものとす

道晃王

光俊

龜戸神社 是同區龜戸町にあり府社にして菅公を祭る俗に龜戸天神といふ本社は正保二年僧信林なる者筑前國太宰府に在りし時靈夢に感し飛梅の一枝を以て神像を彫み奉じ來りてこの處に勧請せりと境内に池あり太鼓橋を渡りて社前に達す池畔藤架あり花時甚だ奇觀なり例祭は二月八月の廿五日にして此日は參詣する者殊に多し境内又梅樹多く花候芳香馥郁たり

臥龍梅 本社より東方一二町にあり清香庵と稱す園内老梅數百株開花の候都人士の節を曳くもの多くして最も著名なり

吾孀社 是龜戸十間川の邊りに在り祭神は弟橘媛命にして承久元年北條泰時之臣鈴木、神尾、井手等の諸士初めて小祠を造營し神領を付し其後永祿年中小田原北條の臣遠山某之を再興せりと云此地は吾孀森又浮洲森といふ傳云日本武尊東夷を征せんとして相摸より上總國へ渡らんとし海上暴風に逢ふ時に妃弟橘媛身を海神に捧けて祈り以て危難を免かれたり後妃の御裳此邊の海上に浮ぶ餘群臣に命じて此處に收めしめ壇を築き瑞籬を巡らし而して御廟となす云々本社の側に胞衣埋納の所あり都下の人士多くは此に委託すと云ふ

秋寺 是龜戸神社の裏門通の川端にあり慈雲山龍眼寺と云寺内聖德太子自刻の佛像を安置す依つて聖德太子堂の稱あり境内多く秋を裁む中秋の候杖の雅客多く都下秋の名所として尤も開推幽清の境なり

柳島妙見 是同所の河邊にあり

回向院 是同區兩國元町にあり國聖山と號す傳云明曆三年大火の時或は溺れ或は燒け死するもの十萬餘悉く遺骸を合葬し其靈魂追福のため徳川幕府の命に依り基屋大和尚一寺を建立す即ちこの回向院あり毎年七月七日大施餓鬼の法會あり平常香華絶ゆることなし此地は古來相撲の本場所にして例年一月五月の二期晴天十日を限り大相撲を興行すこれ即ち出世角力にして競技格闘の熾なる實に壯觀極りなし現今横綱西の海東大關小錦西大關大戸平關協朝汐、達の矢等此社會の尤物なり

富岡神社 是深川區富岡門前町に在り府社にして應神帝を祀る俗に深川八幡と云創建の年月は詳かならず元砂村の海濱にありしを寛文四年今の地に遷し新に社殿を造營せりと例祭は八月十五日隔年大祭を執行す境内は樹木林を成し又近年梅櫻を増植し太々幽靜雅致にして都下公園の其一なり又茶亭あり料理屋あり尤も閑遊をなすに適す

洲崎辨天 是同區洲崎町の海岸にあり本社は元祿年間徳川幕府の命に依り大僧正隆光の創建する所にして其辨天の像は弘法大師の作なりと云此邊は一帶海に瀕し其眺望の爽快なる實に筆紙に盡し難し又邊海潮干の遊びをなすに宜しく春日長閑なる時を以て一遊を試むべし

都下官衙、學校、銀行、會社、諸商店等の數は何れも枚舉するに遑あらず一々これを録せ

んとすれば以て一部の書冊と成すべきも然れども本書は大に是を省略し専ら遊覽者の爲めに必要と認むる最も著名なる者二三を各個左に類集して以て便覽に供せんと欲す

東 京 案 内

- 内閣 皇城内
- 樞密院 全所
- 宮内省 全所
- 近衛師團 全所
- 以上再出
- 外務省 麹町區霞ヶ關
- 内務省 全區大手町
- 大藏省 全所
- 印刷局 全區全町
- 陸軍省 全區永田町
- 參謀本部 麹町區霞ヶ關
- 第一師團 赤坂區榎坂町
- 砲兵工廠 小石川區水道橋
- 海軍省 赤坂區溜池焚町
- 司法省 麹町區永樂町
- 行政裁判所 全
- 大審院 全區八重洲町
- 東京控訴院 全區永樂町
- 全地方裁判所 全區八重洲町
- 文部省 全區竹平町
- 農商務省 京橋區木挽町
- 遞信省 全區全町
- 鐵道局 全所
- 東京郵便電信局 日本橋區本材木町
- 電話 麹町區道三町
- 貴族院 全區内幸町新橋内

東 京 案 内

- 衆議院 全所
- 會計検査院 全區大手町
- 審判廳 全區八重洲町
- 各國公使館
- 合衆國公使館 赤坂區榎坂町
- 英吉利全 麹町區元園町
- 佛蘭西全 全區飯田町
- 魯西亞全 全區裏霞ヶ關
- 伊太利全 全所
- 獨逸全 全區永田町
- 澳太利全 全區上二番町
- 官、私立學校
- 陸軍大學校 麹町區霞ヶ關參謀本部内
- 海軍大學校 京橋區築地
- 陸軍士官學校 牛込區市ヶ谷本村町
- 帝國大學 本郷區元富士町
- 東京府廳 全所
- 憲兵司令部 全區大手町
- 支那全 全區永田町
- 朝鮮全 全區中六番町
- 墨西哥全 全區帝國ホテル内
- 葡萄牙全 芝區芝茸手町
- 和蘭全 全區榮町
- 布哇全 全區榮町
- 本校内に法、文、醫、理、工科の五大學を設
置し農科大學は荏原郡駒場野に在り
- 第一高等中學校 全區向ヶ岡彌生町
- 高等師範學校 全區湯島二丁目

東京案內

高等女子師範學校 本郷湯島二丁目
 附屬幼稚園 全所
 高等商業學校 神田區一ツ橋通
 東京職工學校 淺草區藏前
 全商船學校 京橋區靈岸島銀町
 學 習 院 四谷區傳馬町
 華族女學校 麴町區永田町
 公、私立病院并に各科の大家
 赤十字病院 南豊島郡澁谷村
 慈惠病院 芝區愛宕町二丁目
 東京病院 全所
 醫科大學附屬第一醫院 本郷區帝國大學構内
 全 第二醫院 神田區和泉町
 全 癪狂院 小石川區巢鴨町
 順天堂病院 本郷區湯島五丁目
 杏雲堂病院 神田區駿河臺西紅梅町
 水産傳習所 芝區三田四國町
 慶應義塾 全區三田二丁目
 濟生學舎 本郷區湯島四丁目
 盲啞學校 小石川區北町
 立教大學校 京橋區築地居留地
 跡見女學校 小石川區柳町
 山龍堂病院 全區小川町
 告成堂病院 日本橋區鰻壳町二
 眼科 井上 神田區駿河臺
 全 須田 小石川區春日町
 婦人科 櫻井 日本橋區兩國矢の倉
 全 浦島 京橋區采女町
 齒科 高山 全區銀座三丁目
 全 渡邊 神田區駿河臺

東京案內

銀行
 日本銀行 日本橋區新永代町
 第一國立銀行 全區兜町
 第三全 全區小舟町
 諸會社
 日本鐵道會社 下谷區上野山下
 日本郵船會社 日本橋區南茅場町
 東京海上保險會社 全區全町
 明治生命保險會社 全區坂本町
 明治火災保險會社 全所
 東京電燈會社 京橋區新有町
 櫻田麥酒釀造會社 麴町區紀尾井町
 大日本製藥會社 京橋區木挽町
 三井物產會社 日本橋區兜町
 東京品物配達所 全區
 東京株式取引所 全區兜町
 第十五全 京橋區木挽町
 第百全 日本橋區萬町
 三井銀行 全區駿河町
 東京米穀取引所 全區鰻壳町
 內國通運會社 全區佐內町
 大日本圖書株式會社 京橋區銀座一丁目
 東京馬車鐵道會社 芝區汐留町
 東京瓦斯會社 全區濱崎町
 三 菱 社 神田區駿河臺
 印刷業秀英舎 京橋區西紺屋町
 全 築地活版所 全區築地二丁目
 全 國文社 全區總十郎町
 全 東京製紙分社 日本橋區兜町

東京業内

新聞社
 都新 新聞 麴町區内幸町一丁目
 明治新聞 神田區一ツ橋通町
 日本 全區雉子町
 二六新報 全區通新石町
 改進新聞 京橋區南鞘町
 讀賣新聞 全區銀座一丁目
 新朝野新聞 全區銀座四丁目
 中央新聞 全區全町
 自由新聞 全區尾張町新地
 每日新聞 全區全町
 北島書林 日本橋區通一丁目
 丸善書店 全區全三丁目
 有隣堂 全區南傳馬町
 金港堂 全區本町三丁目

東京日々新聞 全區尾張町一丁目
 時事新報 全區南鞘町二丁目
 國會 全區瀧山町
 東京朝日新聞 全所
 國民新聞 全區日吉町
 萬朝報 全區三十間堀二丁目
 やまもと新聞 全區全町
 郵便報知新聞 全區全三丁目
 めざまし新聞 全區山下町
 中外商業新報 日本橋區三代町一番地
 博文館 全區全町
 英蘭堂 全區馬喰町二丁目
 牧野書房 神田區小川町
 八尾書店 全區表神保町

東京業内

三省堂 全區真神保町
 華紙墨店
 古梅園 日本橋區通一丁目
 高木 全區大傳馬町
 寫真屋
 鈴木 水 麹町區九段坂
 小川 全區飯田町
 九木 芝區新ノ橋角
 醫療器械藥種賣藥舖
 松本 日本橋區本町二丁目
 岩本 全區全町三丁目
 全萬木 本郷區本郷三丁目
 全透州屋 淺草區龜前通
 時計屋
 吉沼 日本橋區兜町
 京屋 神田區御成道角

南江堂 本郷區切通坂町
 棟原紙店 全區萬町
 細川商店 京橋區銀座三丁目
 江木 京橋區丸屋町
 二見 全區銀座通
 江崎 淺草區公園地内
 賣藥資生堂 日本橋區室町三丁目
 全大木 全區兩國米澤町
 全岸田 京橋區銀座二丁目
 全守田 下谷區池の端仲町
 玉屋 京橋區銀座三丁目
 天賞堂 全區尾張町二丁目

東 京 案 内

呉服類并に洋服店
 呉服店大丸 日本橋區大傳馬町
 全兼洋服店越後屋 全區駿河町
 全 白木 全區通一丁目
 呉服店松坂屋 下谷區上野廣小路
 袋物 煙管類
 澤 田 日本橋區人形町
 宮 川 全區照降町
 竹 屋 全區本材木町一
 熊 谷 全區兩國藥研堀
 村 田 煙管店 全區村松町
 小間物 化粧品店
 白 丹 京橋區尾張町
 柳 屋 日本橋區通二丁目
 下 全區兩換町
 よ 全區霞町

洋服店大倉組 京橋區銀座三丁目
 全 森村 全區銀座四丁目
 全 大民 全區尾張町二丁目
 全 大金 芝區芝口二丁目
 村 田 分店 市内各所に在り
 梅 屋 下谷區池の端仲町
 玉 寶 堂 全區全町
 住 吉 煙管店 全區全町
 大 和 屋 全區全町
 守 田 下谷區車坂町
 百 助 淺草區駒形町
 紅 全區諏訪町

東 京 案 内

服物店 △印 靴屋
 伊 勢 日本橋區
 大 塚 芝區日蔭町
 村 上 神田區運雀町
 東京勤工場 芝區芝公園地内
 九段勤工場 麹町區九段坂下
 東 明 館 神田區小川町通
 麻 貨
 鹿 鳴 館 麹町區内山下町
 館内に華族會館あり東京クラブあり
 帝國ホテル 全區全町
 紅 葉 館 芝區芝公園地内
 彌 生 館 全所
 厚 生 館 京橋區木挽町二丁目

各種あり茲に掲ぐるものは大宴會及び演説會、大集會等に用ゆる最も著名なる者のみなり

香 取 屋 △ 淺草區茅町
 萬 屋 △ 全區公園地内
 △ 下谷區池の端仲町
 京橋勤業場 京橋區銀座二丁目
 商品陳列所 下谷區上野公園内
 錦 煙 館 神田區錦町二丁目
 上 廣 亭 下谷區上野廣小路
 中 遊 館 淺草區須賀町
 井 生 村 樓 本所區向兩國
 井 生 村 樓 全所

東 京 案 内

菓子屋
 風月堂本店 日本橋區中橋
 支店 市内各所に在り
 榮太樓 日本橋區西河岸
 しほ 瀬 京橋區元數寄屋町
 以上の内藤村、風月堂を尤も著名なるものとす
 料理屋 ○印日本料理 △印西洋料理 □印支那料理
 鹿鳴館 △ 麹町區内山下町
 帝國ホテル △ 全區全町
 富士見軒 △ 全區富士見町
 柏木 ○ 日本橋區萬町
 萬千 ○ 全區新大橋際
 紅葉館 ○ 芝區芝公園地内
 糊月樓 ○ 全區烏森町
 伊勢源 ○ 全區芝口一丁目
 八百勘 ○ 赤坂區田町六丁目
 松源 ○ 下谷區上野廣小路
 八百膳 ○ 全區上野公園地内
 精養軒 △ 全地内
 花月 ○ 京橋區竹川町
 借樂園 □ 全區龜島町
 精養軒 △ 全區築地采女町
 千とせ(即席) 全區新橋際
 松田(全) 全區京橋際
 八百善 ○ 淺草區山谷吉野町

東 京 案 内

川長 ○ 全區大代地
 龜清 ○ 全區柳橋際
 八百松 ○ 本所區向島
 以上の内淺草八百善を以て第一とし本所これに亞ぐ舊家をり
 雜飲食店
 觀屋和田平 日本橋區田所町
 全 大黒屋 京橋區豊津島
 全 竹葉 全新宿町
 全 松金 芝區芝橋
 全 神田川 神田區神田明神下
 鳥鍋島安 日本橋區兩國米澤町
 全 かん鍋 下谷區上野廣小路
 全 大金 淺草區馬道
 全 支店 全區公園地
 半 鍋いろは本店 芝區三田四國町
 全 支店 市内各所に在り
 中川 半 ○ 全地
 中村樓 ○ 全區向兩國
 年清 ○ 深川區仲町
 全 中川 神田區夜路町
 全 江知勝 本郷區湯島五丁目
 全 豐國 全區臨岡町
 全 天ぶら 金 京橋區銀座四丁目
 全 金ぶら 日本橋區木原店
 全 梅月 神田區御成道通
 全 蕎麥屋 更科 麻布區永坂
 全 藪 本郷區込團子坂
 全 蓮玉 下谷區池の端
 全 やぶ 深川區森下町
 全 龜屋 奧平 日本橋區兩國
 全 毛拔 全區ヘッツイ河岸

東京案内

全 齋 鮎 神田區田町
 全 松の館 淺草區大六天
 寄席 是都下到處に多く毎區平均四五ヶ所あり諸淨瑠璃、講談、說話等其他あらゆる遊藝の演技場にして年中間斷なく興行し殊に夜席を多しとす而して此に遊はんには水戸錢其他一切の費用を合せて金拾錢を有すれば一宵の娛樂を買ふを得べし今席亭及び藝人の著名なるものを舉ぐれば左の如し

春風館 日本橋區麩町三丁目
 宮松亭 全區茅場町藥師内
 伊勢本亭 全區瀬戸物町
 立花亭 全區兩國橋町
 水原亭 同區木原店
 諸藝人

全 太夫 竹本綾瀬太夫
 全 津賀太夫
 全 綾の助
 全 越子
 全 住の助
 全 賀若長

全 汁粉岡 野 下谷區根岸
 全 氷 月 全區池の端
 全 鶴仙亭 京橋區南銅町
 全 玉の井 芝區
 全 白梅亭 神田區連雀町
 全 若竹亭 本郷區西竹町
 全 東橋亭 淺草區花川戸町

東京案内

手品師 歸天齋正一
 曲獨樂 松井源水
 人情 三遊亭圓朝
 全 談洲樓 燕枝
 全 春風亭 柳櫻
 全 五明樓 玉輔
 全 三遊亭 圓生
 全 春風亭 柳枝
 落語 桂文治
 演劇 都下の芝居は京阪二都に亞き遠く寛永の昔に始まり當時中村座先つ興り市村、守田これに次ぎ中村、市村の兩座は今の日本橋區葺屋町に在り守田座は木挽町にありて共に盛んなりしと云而して明暦の大火後は三座共に淺草に移り猿若町といひて一、二、三丁に鼎峙し爾來繼續して此地にあり其他後年二三所各地に起りしも市俗此地を芝居町と稱し以て演劇の本地とし他を問はざるもの、如くなり然るに明治五年守田座始めて新富町に轉し新富座と改め尋いで中村座西鳥越に移り鳥越座と稱し現今新富座は復た深野座と改稱

全 食語樓 小さん
 全 三遊亭 圓遊
 全 古今亭 今輔
 全 松林 伯圓
 全 放牛舍 桃林
 全 邑井 一
 全 桃川 如燕
 全 小金井 蘆洲
 全 伊東 燕尾
 全 神田 伯山

し鳥越座は屬々火災に罹りて終に絶せり唯り市村座の一座のみ依然舊地に止まりしが廿四年下谷二長町に移轉し一トたひ火けて今復た工事に着手せり斯道の沿革大略已上の如くにして即ち二百年來の舊説を變用し大劇場の位置を保つもの此市村一座のみ然れとも近年に至りては大小の劇場續々興起し既ふ其數二十ヶ所餘今茲に其尤も著名なる大劇場及び俳優並に關係諸藝人の繁々たるものを舉ぐれば

歌舞伎座	京橋區木挽町	春木座	本郷區春木町
新富座	全區新富町	市村座	下谷區二長町
明治座	日本橋區久松町	人形座	新聲館 神田區神保町
健優	市川團十郎	全老名優	中村壽三郎
全	尾上菊五郎	全	市川九藏
全	市川左團次	全	中村芝翫
全	市川權十郎	全	花柳壽輔
全	中村福助	全	藤間勘右衛門
全	尾上松助	全	延壽太夫
全	市川八百藏	全	榮壽太夫

全三味線 齊兵衛 全 文六字 兵衛
 常盤津大夫 小文字 木夫 全 長順 木夫 松永 和楓
 全 都太夫 全三味線 全 杵屋 六左衛門
 全三味線 式 佐全 杵屋 六三郎
 遊里は都下對る處に多く殆んど枚舉に遑らざる中有名なは柳橋、新橋、新吉原、洲崎にして柳、新三橋は藝妓の淵藪吉原、洲崎は娼妓の巢窟たり其他霞町、日本橋、數寄屋町等の藝者町あり今各所に就いて其概略を記す

柳橋は日本橋、淺草兩區に亘る橋名にして神田川の下流に架す市俗此橋邊を概稱して柳橋と云ふ即ち元柳町、新柳町、吉川町、米澤町等に散在する多くの歌妓を二括じて柳橋藝妓といふなり此地の妓は箱江戸の妓の眞面目を保つといひて通客は都下の第一に稱すと云有名なる龜澤、川長等の料理店即ち此邊りに在り

霞町は日本橋區内に在りて元大坂町、住吉町等に散在する藝者と合せて霞町藝妓の稱あり又同區内品川町、駿河町、大工町邊に在るものを總稱して日本橋藝者と云ひ共に新柳三橋に亞ぐの地なりと云ふ

新橋は京橋、芝原區の間汐留川に架する橋名にして恰も柳橋に於けるが如く橋邊一帶

の地の橋とせり橋北を金春と云ひ橋南を鳥森と稱し所謂新橋藝者の淵藪たり此地は美人に富むを以て名あり其勢、殆んど柳橋を凌ぐと云ふ花月、伊勢勘、湖月、伊勢源の各料理店即ち此地に在りと知るべし

數寄屋町 是下谷區に在り本郷區天神下、同朋町等にある歌妓を併せて數寄屋町藝者の稱あり前各地に亞つての樂土なり松源、八百膳、伊豫紋等の料理店此邊りに散在す

新吉原 是都下の北部日本堤下の田甫の間に一廓を成し淺草區に屬せり明曆二年の草創にして舊地吉原に對し此稱あり(吉原は元和三年庄司某官に請ふて舊屋町に華街を創し名づけたる稱なり)廓内區劃端正にして中央に大路を通じ仲の町と名づけ之れより左右に數町あり即ち伏見町、江戸町、揚屋町、角町、京町等にして江戸町、京町は二丁に分つ仲の町の東端を水道尻と稱し近年遊苑を開く苑内に新吉原病院あり又廓の要所に數門を設け以て非常に備へ當時これを閉鎖せり廓外には小溝を築らし名つけて鑼聲溝といふ衣紋坂は日本堤より五十軒町に下る數歩の小坂にして、願、柳坂下の左側に在り五十軒町は衣紋坂より大門に至るの間を稱し町内道の右側に吉原神社及び女人の井等あり

大門は即ち廓の出入口にして門を入れば仲の町の兩側引手茶屋軒を並べて相對し町の中央に電燈敷基を建青樓は其數一百廿餘戸大中小の三等に區分し小樓は又た數等の階級あり而して其大體と稱するものは稻本、角海老、大文字、尾彦、品川、野村の六樓にして中店は

萬華、蓬萊、中米、相泉の諸樓とす以上は茶屋受と稱し此に遊はんには引手茶屋の紹介を要す其他百餘戸盡く小樓にして就中八幡、河内の二樓を推す

此地古來三節と稱し春の花夏の燈籠歌の俄舞共に卅日の催しにて遊覽の人群集し般賑雜鬧當時に俗稱す實に俗人界の仙境たり

洲崎遊廓 是深川區洲崎遊廓天町に在り舊と本郷區根津に在りしを明治廿一年此地に移す地は洲崎辨天の東京東京灣に突出せる砂洲を埋築せし處にして眺望最も快絶なり廓内の規模は吉原に比すれば稍大なるも然れども百事吉原の整頓せるに如かず娼樓は凡そ百戸にして大八幡樓を第一とす其他新八幡、甲子、本金村、本鶴の諸樓るれに次ぎ大中小の分格猶ほ吉原に於けると一般にして引手茶屋は仲の町の兩側に在り洲崎病院は仲の町の南極海岸に在り

- 東京市内旅人宿二覽
- 帝國ホテル 麹町區山下町一丁目
 - 東京ホテル 同 有樂町三丁目
 - 相模屋 同 麹町五丁目
 - 丸 三 同 平河町四丁目
 - 飯 館 同 飯田町五丁目

- 國 旗 屋 神田區淡路町二丁目
- 萬 葉 屋 同 山本町
- 高 島 屋 日本橋區西河岸町
- 島 屋 同 數寄屋町
- 山 本 屋 同 上

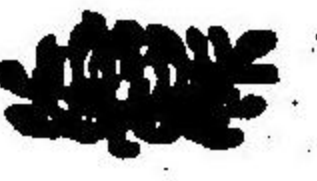
内 業 京 東

加賀	氷	桃	山	精	和	和	羽	山	鏡	伏	宋	洲	津	建
賀	期	李	城	養	德	德	前	城	見	見	松	豆	為	葉
屋	館	館	軒	軒	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	軒	屋
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
築地一丁目	水挽町二丁目	加賀町	山城町	京橋區采女町	上	上	上	上	馬喰町二丁目	上	上	馬喰町二丁目	濱町三丁目	日本橋區三丁目
相	和	川	藤	聚	筑	香	佐	山	綿	常	茂	成	對	對
模	模	崎	家	星	波	妻	下	下	房	盛	林	勢	鶴	山
水	屋	屋	屋	館	館	屋	館	館	館	館	館	館	館	館
同	同	同	同	同	同	芝區烏森町	九屋町	山城町	尾張町二丁目	卅間堀三丁目	南鯉治町	數寄屋町三丁目	元數寄屋町二丁目	山下町
柴井町	櫻田本郷町	上	上	芝口一丁目	上									

四百十六

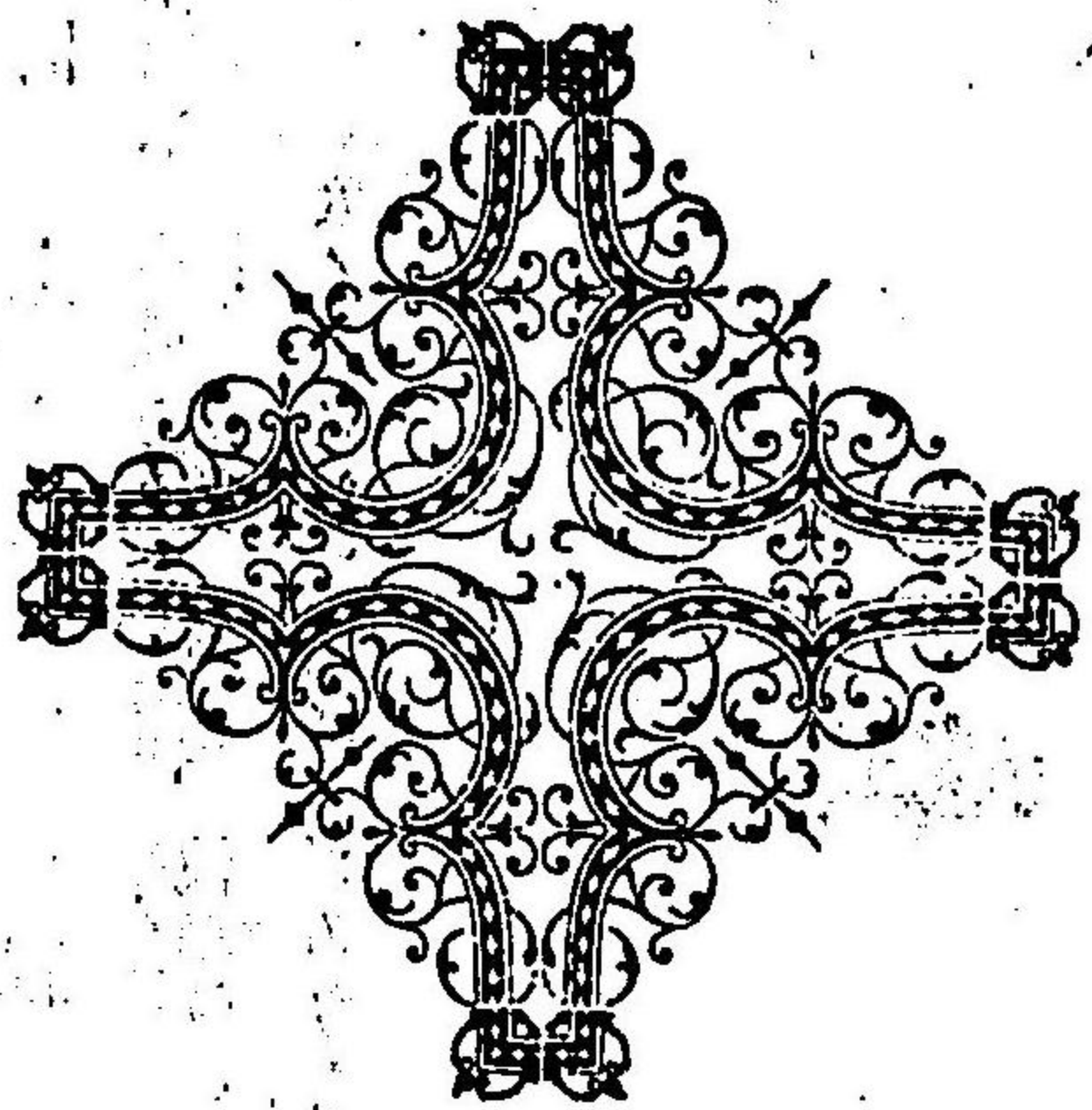
内 業 京 東

見	神	山	名	群	東	工
晴	泉	下	倉	玉	京	の
亭	亭	館	屋	館	名	物
同	本	下	同	同	産	と
新	郷	谷	車	上	は	し
濱	區	區	阪		紫	て
町	根	御	町		染	ら
	津	徒	同		袋	ら
	須	士	同		物	ら
	賀	町	同		煙	ら
	町	三	同		管	ら
		丁	同		錦	ら
		目	同		繪	ら
					淺	ら
					草	ら
					海	ら
					苔	ら
					等	ら
					此	ら
					地	ら
					の	ら
					特	ら
					有	ら
					名	ら
					産	ら
					に	ら
					し	ら
					て	ら
					其	ら
					他	ら
					天	ら
					産	ら
					、	ら
					人	ら



京都案内

京都市 山城國愛宕郡に在り古へ平安城と稱し東京遷都以來相對して又西京と稱す
 人皇五十代桓武帝の延暦三年和氣清盛の建議に因り奈良の都を初め當國長岡に移し後十二年正月更らに今の地に遷し詔して平安城と名けらる爾來七十一世一千〇七十四年間の帝都にして山城の中央に位し東北西の三面は翠樹圍繞し南面の一部のみ開けて平野と相通す鴨河は源を北方に發し市の東部を横きりて河西を浴中と唱へ河東を浴外又浴東と呼ぶ桂川も同じく北より來り市の西部を劃きりて天然の城廓をなす東西凡そ一里南北一里廿餘丁當時は中央の正北に方り大内裏を建てて二官八省を置き十二の城門を開きて朱雀大路を正南に通し其東を左京といひ西を右京と名けたり兩京共に九條に分ち東西の隅を京極といひ周圍に外部を環して正南に羅城門を建つ而して中世已來兵亂屢々起りて南北朝已後は常に兵馬の場となり天正の初め織田信長足利氏の亂を平らけ官闕を修補し尋て豐臣秀吉徳川家康の世と成り天下漸く靜定せしも右京は既に郊墟となりて一條二條の間僅かに數坊を存して西の京と呼び左京は八條九條を失ふも南北は一條より七條に至る一里餘東は寺町通を超へて鴨河の東に亘り西は千本通に至る即ち寺町は舊の京極にして千本通は朱雀大路とす其間一里餘是れ現今の京都市也市街は道路端正にして恰も棋盤の目の如く今三條通を經界となし



上下の兩區に分ちて其北を上京區南を下京區と稱す市中最も繁盛の地は三條四條五條通及
錦小路新京極等にして且つ東山西山近傍は山水明媚海内無比の勝地たり加之大社巨刹の多
きと美術工藝品産出の夥しき亦他邦に冠絶す市坊の数は一千五百餘戸數大凡七萬にして人
口三十萬餘と稱す實に我邦第三の大都市なり

京都離宮 是舊の禁裏御所にして上京區一條の北隅に在明治維新東京遷都の後離宮とな
る其規模は悉く延暦の舊制に基き宮殿宏壯四方總て御苑地と稱し到處に山あり池あり又林
泉ありて風光最佳麗にして郭内又大宮仙洞の兩御所宗像、白雲の兩神社あり其他久遠宮、桂
宮主殿寮支廳氣象及び博覽會場等あり此博覽會は毎年春季開場し御苑の拜觀をも許さる

二條離宮 是舊の二條城にして同區堀川通二條に在り初め永祿十二年織田信長之を築き
據つて以て禁裏を守護す其後慶長七年に至り徳川家康再築し禁裏守護職又所司代を置き明
治維新後大政官とし遷都の後は一時京都府廳となり終に離宮となる

京都府廳 是同區下立賣釜座に在り山城一圓及び丹波丹後を管轄す
京都府裁判所 是同區九太町富小路西に入る處に在り
第三高等中學校 是愛宕郡吉田村吉田神社の山下にあり
京都府師範學校 是上京區寺町荒神にあり

全中學校 是同區新町下立賣上る所にあり
同醫學校 是同區河原町荒神に上る所にあり
同病院 是全所
同高等女學校 是同區土手町丸太町下る所にあり
同盲啞院 是同區釜座榎木町にあり
同志社英學校 是同區今出川鳥丸東にあり
京都郵便電信局 是同區三條通東洞院にあり

鴨河 は一に加茂川と書す上流は鞍馬岩屋の兩川相合して上下加茂の社前を流れ紅の杜
に至りて比叡山より出る所の高野川に會し市の東部を過ぎ鳥羽に至りて桂川に入る河幅廣
く其水極めて清冷なり

飛鮎の底に雲行く流れかき

鬼 貫

三條大橋 鴨河に架する三大橋の一にして諸方里程の基とする所なり此橋の欄干には
紫銅の擬寶珠十有八個ありて其銘曰洛陽三條之橋至後代一化度一往還人一磐石之礎入地五
尋切石之柱六十三本蓋於日城二石柱遷鶴乎天正十八年庚寅正月日豐臣初之御代奉行増田左
衛門尉長盛造之」と而して橋東の大路を粟田口と云日岡途坂を経て大津に至る三里これを
東北三道の門となす又橋東より直に南に至るものを大和大路とす俗に繩手と呼び二里半に

して伏見に達し南は奈良西は大阪に至るべし橋西に小橋あり即三條小橋なり是より西方の大通は所謂三條通にして上下兩區の境界となす此兩橋の北に方る一帶の市街を木屋町と云旅店貸席料理屋多く南方は先斗町と稱し有名なる遊里にして共に鴨河に臨て勝景の處とす三條大橋より東北に當る名勝の部

南禪寺 是三條大橋の東北に方り洛東南禪寺町に在り瑞龍山と號し禪宗にして五山の一なり開山は大明國師にして正應四年の創建に係り舊と龜山法皇の宮殿なりしを國師に賜りて佛殿となさしむ釋迦佛を本尊とし其他文殊普賢金剛力士達摩百丈臨濟の諸佛像あり院に龜山法皇の御影を安置す山門は五鳳樓と稱し寛永年間藤堂高虎の再建なり門の内外に二株の白檀樹及び二丈餘の大石燈あり共に世に稱するものなり

綾戸明神 是當寺の鎮守にして舉龍池の乾に在り境内松柏鬱蒼として甚た幽靜なり東方の獨秀峯に飛泉あり駒ヶ瀧と稱す藏春峽壑雷橋等皆近傍にありて奇觀なり

インクライン 是南禪寺の境内に在り舟を上下する機械場なり此地疏水運河の通路に當り地勢高燥なるを以て往來の舟を機械力にて運行せしめ所載の貨物を共に俱に運搬す此疏水運河は近江の琵琶湖水を當市へ疏通し其水利を市の共用となすべきため起工したるものにして湖水の沿岸大津三保崎より開鑿し三井寺下を過ぎ日岡に至り分岐して一は西北に至り鴨河に入り一は南禪寺の橋橋を通り以北の諸村を経て御苑内に入る抑も此大工事は明治

十八年五月の創業にして其工費實に一百餘萬圓の巨額を要せりと時の府知事たるもの北垣國道氏其人なり

永觀堂 是來迎山禪林寺と號す南禪寺の北に隣り舊と天台宗にして修驗道を兼職し聖護院に屬寺は舊と 清和帝の勅願所として眞紹僧都の草創なり中興の開基を永觀律師とす祖師堂には善導圓光兩大師及び西山上人の三影像を安置し聖衆來迎の松は堂前にありて由緒あり堂下の小池を鶯の池と稱し池邊楓樹多し

若王寺 是正東山と號す永觀堂の北に隣り舊と天台宗にして修驗道を兼職し聖護院に屬せり本社熊野三所權現の 後白河法皇の勸請にして傍に若一王子を鎮座す觀音堂には紀州那智山の十一面觀音を安置す南方の山下に瀧あり那智の瀧を模造するものなりと當處往古は殿堂壯麗にして殊に櫻花の名所なりしが應仁の兵亂後大に衰頽せりと云現今有名の牧師故新島襄の墳墓此境内に在り

鹿ヶ谷 是若王子の北に當る光雲寺の北東に方る處にして寺あり法然寺と號す此寺は淨土律宗を兼ね萬無和尚の開基にして諸方より施餓鬼を頼むもの多しと云ふ其東に談合谷あり此地は往古俊寛僧都の山莊ありし處にして僧都新大納言成親平判官康頼等と平氏を滅ぼさんと密謀を語らひし所なり鹿ヶ谷より東方八町許の處に樓門瀧あり巾一丈餘にして長五丈餘ありと云ふ此邊は比叡の山嶺にして山高く谷深く常に人跡稀なる地なり

黒谷光明寺 是紫雲山と號す浴東岡崎村にあり浄土鎮西四ヶの一本寺なり此地圓光大師の舊蹟にして銀山西塔の黒谷を移し新黒谷と稱し即ち宗祖の開基なり本尊は宗祖圓光大師并に親鸞上人の像を安置す勢至堂は宗祖大師の廟にして熊谷堂は蓮生法師自作の像并に教盛の畫像を安置す三重塔の文珠菩薩は日本三文珠の一なりと云ふ(三文珠とは本堂并に大和しんじんの安徳丹後の切戸とす)紫雲石は三重塔の北方に在りて宗祖大師一宗開創の時此石より紫雲たなびき異香蒸じけるより此名あり且つ山號も是に起因すると云ふ銀池及鏡掛松は熊谷直實法然上人の教に歸依し着せし銀を此池水にて洗ひ其松に掛けし古蹟なりと云傳ふ

一枚起願 是當寺第一の什寶にして宗祖大師加茂太神の神勅に依り浄土安心の要文を書きたるものにして毎年舊六月廿五日出干の日に是を出して拜觀せしむ

眞如堂 是黒谷の北浄土寺村にあり鈴聲山眞正極樂寺と號す天台宗にして開基は戒算上人なり本尊には阿彌陀佛を安置す當寺は初め正暦三年の秋勅命に依り眞如堂の地に創建し爾來各所に移轉して元祿五年の冬終に今の地に移せりと云

銀閣寺 是同村に在りて鹿ヶ谷の北眞如堂の東に方る一名を慈照寺と號す禪宗にして開祖は夢窓圓師なり此地原と足利八代の將軍義政の別荘にして當時東山殿と稱せり延徳十二年正月義政薨去の後其遺命に依り寺となし且其法號を用ひて慈照寺と名づくと云ふ

東求堂 是義政の持佛堂にして觀世音を本尊とし又義政の像を安置す本堂の西方上楹に

掲ぐる水引は濃紫の印金をなり古渡にして稀世の物なり堂前に二橋あり一を仙袖橋と云ひ一を仙桂橋と云ふ四疊半の茶室あり義政の設計に係る今尙茶室に四疊半の制を用ゆるは之に基くと云ふ

護國廟 是當寺の鎮守にして八幡宮を奉祀す

銀閣 是二重の高塔にして北山鹿苑寺の金閣に對し此名あり上層を心空閣下層を潮音閣と稱す閣前に數橋あり分界、迎仙、濯錦、臥雲等と號す後岡飛に泉あり洗月泉と名け下流の橋を龍脊橋と云ふ落照岡には躑躅を植へ向月臺及び銀河灘には白砂を布き一は夕陽を留め一は落月を惜む山名細川富山の諸石は各管領の獻品にして其名共に後世に朽す浮石座禪石は池中に在りて淡路島山の倂あり其他奇岩怪石十數種個々形状若くは故事に因りて名を命す臺壇亦少なからず月まつ山は庭園の東方に位す以上庭中の略記にして山水の美至り盡して四時の觀甚多し抑も此庭園は義政の好みに依り茶道相阿彌の造る所にして園藝家の模範とすべきもの也と云ふ

我庵は月まつ山の麓にてかたふく庭のかけをしと思ふ

如意ヶ嶽 是銀閣寺の後方に峙たち毎年舊曆七月十六日の夕大文字の火を點するを例とす今其原由を温ぬるに

往昔此嶽麓に天台宗の伽藍あり浄土寺と號す會々回祿の災あり本尊彌陀佛去つて此嶽に

上り光明を放つ信者これを追慕し奉じて故の地に安置す爾來千闍盆會に當り其光明の形を作り點火せしを始めとし後弘法大師大の字に改めたりしが物變り星移り文字の痕跡殆んど滅絶せんとするに至る然るを足利義政相國寺の横川和尚に命じて元形に復せしめて今に至る嚴冬積雪の旦には純白の大文字を現出し其眺望清絶なり文字の大きさは初書の一際にて長き九十二間ありと云ふ以て其大なるを知るべし

北白川 是銀閣寺の北に方る小流にして民家の間を横き名所三白川の其一なり

東路の人とはやしら河の關にもかくや花は匂ふと

長 家

白川の春の梢を見渡せば松こそ花の絶間なりけれ

俊 頼

秋の夜の月も猶こり澄まされ世々にかはらぬ白川の水

爲 教

此里は古來京都より近江の滋賀坂本への往還にして志賀山越と云ふ素性法師が君が代までの名こそありけりとつらねし白川の瀧は道の傍にあり川の中央に橋ありてはじめは右手に見し流もいつとなく月手になり谷の水音漸源として深山かくれの花を見つ岩ははじる流清くすみて皎潔たる月の影關はしく橋の邊りに牛石といふありて其形牛の臥したるに似たり是より東に山中の里あり比叡の無動寺へは此村外れの細道より北に入る實に幽靜なる勝地なり

志賀の山越にて人に別れけるに

むすぶての翠にとる山の井のありても人に別れぬるかな

貫 之

山川に風のかけたるしからみは流もあへぬ紅葉をりけり

春 道

吉田神社

は洛東吉田村神樂岡に在り官幣中社にして武甕槌神經津主神天兒屋根命を祭り又日本神祇三千一百三十二座を鎮座すと云ふ本社は 清和帝の貞觀二年山陰中納言の勸

請なりと云ひ亦一説には卜部兼延なる者の創建なりとも云ふ社前櫻門の額には日本最上兩大神宮中門の額には日本最上神祇齋場と書す共に清水谷實秋の書なり神殿を大元宮と號す嵯峨帝宸筆の大額を掲ぐ小額は 後土御門帝の宸筆にまて其他ハ盡く實秋の書なり八神殿には八州守護の神を祭り内外大神宮は本殿の左右に在り其他全國の神祇は本殿の兩脇に并びて各々國名を誌るま神社の敷を明らかたす當殿の額も 後土御門帝の宸筆あり春日社は岡の西麓に在り其他攝社甚だ多き此地は古來臨關紅葉の名所にして春秋遊賞の雅客其跡を絶えず岡下に第三高等中學あり洋風の建築にまて甚だ宏壯美麗なり

百萬遍 是吉田社の北田中村に在り長徳山智恩寺と號す本尊には釋迦佛を安置ま慈覺大師の草創なり抑百萬遍と稱するは 後醍醐帝の御宇國內疫病大に流行まて死する者其數を知らず帝おれを憐み當寺の八世善阿上人に勅まて祈禱せしむ善阿參内まて更に餘行なく一七日の間念佛すると二百萬遍疫病忽ち消滅まて天下大に安堵せりまて於て叡感斜めをらず百萬遍の寺號を賜ふと云ふ當時上人の用ひたる大珠數今尙存在まて寺寶となせり

下加茂神社 是洛北下鴨村に在りて鴨河に臨む即ち此河の東岸に沿ふて北行し本社境内に達す官幣大社に於て祭神は玉依姫命大山咋神を合祀す 天武帝白鳳五年の創建なり神殿壯麗古雅に於て境内廣瀾老樹蒼鬱其間に櫻樹參差とて幽靜なる雅境なり

千早振かものやしろの姫小松よろつ代ふるとも色はかはらし

敏 行

きくたひに頼むころそすみさる加茂の社のみたらしの聲

定 家

境内に河合社柗木社等あり此柗木社の邊りに生茂する樹木は元來何木を問はず悉く柗木に化すると云又本社東方に勝地あり此地の杜といふ此地ハ清泉湧出し流に沿ふて二三の料理店あり夏季避暑の客多志

上加茂神社 是上加茂村に鎮座す別當命を祭る加茂別當神社とも號し同じく官幣大社にして 欽明帝の御宇の創建なり神殿壯麗清肅なると下加茂と一殿なる靈場域とす社前に一小清流あり御手洗川と稱す勝地なり石川瀬見の小川鴨の羽川等の別名あり

降雪はみたらし川の影見へて空にそすめらうと濱の聲

定 家

君か代も我世もつきえ石川や瀬見の小川の絶むと思へは

鎌倉右大臣

さかのほる鴨の羽川の上を思へは久し世々のみつかき

前大政大臣

鏡にもかけみたらしの水の面にうつる計りの心とをじれ

讀人老らす

以上兩大社の祭典は葵祭と稱し著名なるものにして毎年四月中の酉日を以て執行す其式は

欽明帝の御宇に始まり以て今日に至る此日ハ勅使參拜奉幣あり神幸の行粧壯麗に於て儀式の嚴肅なる事は實に我邦無雙の盛觀なり又舊四月十五日五月五日に競馬式六月卅日七月一日に能舞を奏すこれも古來の定例なり

修學院 是下加茂社の東北修學院村に在り俗に御茶屋といふ往古寺院あり古が中古已來廢頽して村名に残れり 後水尾帝の時離宮を置かせ給ひし處なりとて林泉の風致甚だ佳なり

比叡山延曆寺 是國の東北に聳へ近江國に跨る本朝五岳の其一にして皇城の鬼門に方をを以て一に良峯とも號す此山初め日枝山と書せしを桓武帝の延暦年間開山傳教大師の上奏を容れ給ひ帝都鎮護として根本中堂を創建し給ふより比叡山と改むと云ふ

おほけなくうきよの民におほふ哉我立杣に墨染の袖

慈 圓

我戀のあらはにみゆる物ならは都のふじといはれなまじを

讀人老らす

山中三塔あり東塔西塔横川これなり

東塔は 止觀院と號す其東谷に十一坊西谷に十一坊南谷に十二坊北谷に十二坊あり

根本中堂 是東塔の中に在りて藥師如來を本尊と志開山傳教大師の作なりと云ふ

西塔 是寶幢院と號す其東谷に九坊南谷に十坊北谷に十二坊あり淨土院を下りて谷川を界とす

法華堂 西塔の中にありて普賢菩薩を本尊とす横川は楞嚴院と號す十四坊あり中堂に
は聖觀音を本尊とす慈覺大師の作なり

無動寺 是或は無幢寺に作る此處に坊舎十三あり大乘院此中に在り慈續和尚の居住せし
處にして親鸞上人も亦此に在りて天台宗を學ひ志所とす山中第一好風景の地なり

鷲の山有明の月はめぐりきて我立袖の麓にそすむ

慈 續

以上寺院の大略にきて尙當山の名勝とまで數ふべきもの甚だ多志今其名稱を左に記す

四明岳(當山第一の高峯)滿土混論辻(傳教大師在世の時大黒天出現の地)登天石(傳云昔公
此石を踏んで登天すと)常光坊(最も絶景の地にして觀月紅葉の名所なり)三ツ子坂(青龍石、
三尊石、五百羅漢石、阿字休息峯、釋迦多寶佛、波母山、寒風岳、華表岡、阿彌陀峯、蟻塚、龍池、
護法石、如法水、獨鈷水、衣掛石、五男三女降石、樺生石、戒心谷、定家墓、奈良坂、蛇の池、水
飲、音羽谷等これなり

山高み見つゝ我こし櫻花風はこころにまかすへうなり

貫 之

世を祈るわが立袖の零晴て心よりすむ秋の夜の月

同

大岳のすゝ吹風に務晴てかゝ見の山に月もくもらぬ

慈 圓

三の峯二の道をならへ置て我立袖に名こそ高けれ

慈 續

日吉山王社

は當山の守護神にして東坂本に在り本社七座攝社十四社にして例祭は舊四

月中申日

やはらくる光はへたてあらしかし西の雪井の秋の夜の月

良 仙

古への鶴の林に散花の匂ひをよする志かのうら風

後京極攝政

大原郷

は比叡山の西北に方り若狭街道なり郷内名所舊蹟多し

尊 圓

日敷ふる雪けにまさる炭竈の煙もさひし大原の里

式子内親王

大原はひらの高ねの近ければ雪ふる程を思ひこそやれ

西 行

世をそむくかたはいつことも有ぬべし大原山は住よかりきや

泉 式部

思ふ事大原山のすみかまはいとこなけきの敷をこそつめ

少将井尼

音無籠

は郷内小野山に在り飛泉二丈餘にして翠岩に沿ひ南に落つ兩岸茶樹鬱蒼として

西 行

一見悚然たらしむるの觀あり

西 行

小野山

の上より落る籠の名の音をしにのみぬるゝ袖かな

實 家

芹生里

はむかしより多く和歌に詠する所なり

大原や

芹生の里の月はみついつか我身も住へからなん

寂光院

は文治の頃建禮門院の開居されし所にして今に至るまで依然尼寺たり本尊は地

藏菩薩にして聖徳太子の作なり而して本院の開基は弘法大師なりと云ふ庭内にみきはの池

みきはの櫻あり

後白河法皇大原御幸のとき

他水にみきはの櫻ありしきて浪の花こそさかり成けれ

建禮門院の墳墓 是後の山にあり翠黛山と稱す

思ひきや深山の奥にすまぬして雲井の月をよそに見んとは

かまかまし大原の里の轡蟲手綱ひかへて法の聲きけ

月も浮まん大原やとよみ寂然法師は月あそやとす大原の里と詠めしも湛々たり水の面に月影のうつりてさも清らかなるさまを詠せしなるべし

入月の隴の清水いかにしてつめに澄へき影をとむらん

八重葎まけみる下にむすふてふ隴の清水夏もまられす

我が戀は隴の清水岩越てせきやるかたもなき心かな

まれに來し隴の里に住なれて老は清水そあかしなりける

三條大橋より東南に下り名勝の部

新京極通は明治維新後三條より四條に至る洛中の東端に在る誓願寺誠心院蛸藥師圓福寺錦天神金蓮寺染殿地藏八坂神社御旅所等の境内を開らき一帯の街路を通し總稱したる處

建禮門院

同

順徳院

匡房

俊頼

丹後

にして怡東京の淺草公園大阪の千日前に於けるが如く百殿の遊藝興行場定席見せ物飲食店遊樂所等軒を並べて尺寸の餘地なく招旆翻々として空を覆ひ燈火は燿々として闇夜を照し四季更に間日なく數萬の人衆雜沓し市中第一繁華の地とす

誓願寺 は淨土宗にて初め天智帝の勅に依り惠隱僧都の創建に係る什寶甚多く○誠心院は和泉式部の古跡にして境内に式部の塔及び有名なる軒端の梅あり○蛸藥師は永福寺と號し本尊の藥師如來は石像にして傳教大師の作なりと云○圓福寺ハ淨土宗深草流義の一本寺にして法然上人作の阿彌陀佛を本尊とし○錦天神は菅公を祭り境内の隴庵社は融左大臣の靈を祀る○金蓮寺は時宗にして俗に四條道場といひ境内に古松あり杜鵑の松と稱す又芝居あり辨才天の社あり○染殿地藏は四條の出口にあり○八坂神社御旅所は地を御旅町と稱へ

同神社の祭禮中神輿を此處に移すなり以上いづれも參詣の人常に相群集す

四條大橋 は鴨河三大橋の一にして明治七年四月鐵橋を改む長さ四十八間橋上紅白の硝子燈八本を建列ね三大橋中最も壯麗を極めたり此橋邊尤も繁盛なる處にして橋東を祇園町と云ひ大和大路と十字街をなし其東隅に八坂神社あり社西より大和橋の左右に亘りて劇場酒樓等相列り連山起伏其上方に屏立すこれを東山三十六峯といふ橋西は小橋を渡り即ち四條の通とす而して此橋邊河原の夕涼として毎年七月より始まり東西の青樓より河の畔りに床を設け河原には床几を置き燈火星の如く清流に枕みて宴を張り毎宵曉に徹するに至る實に

盛んなる遊とす左に泊船集の一章を摘録して記事に代ゆ

四條の河原すこみとて夕月夜のころより有明過る頃まで川中に床をならべて夜すがら酒のみものくひめそぶ女は帯のむすびめいかめかしく男は羽織ながう着をして法師老人とも交はり桶屋かぢやの弟子子までときめきてうたひのくじるさすかに都のけしきなるべし

川風や薄ふき着たる夕すこみ

はせを

祇園町 は祇園新地又八阪新地ともいふ四條大橋の東方に在る有名なる遊廓にして青樓軒を並べ絃歌の聲常に絶へず廊内井筒、一方の二樓は古來最も著名にして世人の普ねく知る處なり其他茲に贅せず

演劇場 は俗に四條の芝居と稱し橋東に方り南北兩側ありて共に市中の大劇場とす

今此歌舞伎芝居の起源を尋ねるに元出雲國大社の巫女阿國なる者此地に來り神樂を一變して歌舞と號し演じたるに始まり尋いて永祿年中江州の浪人名古屋山三郎と云ふ者來り此阿國と語りひて歌舞伎と稱して男女混合の狂言を仕組み場所を祇園の南門にひらき後五條橋の角に轉じ其後故ありて遂に四條河原に移せり而るに其後法制に依り暫らくは中絶せしが承應二年に至り村山又兵衛なる者四條中島に於て再興し寛文中に今の地に轉せしより繼續したるものなりと云ふ

八阪神社 は四條の東隅に在り官幣中社にして素盞鳴尊を祭り稻田姫八王子を合祀す本社は初め 聖武帝の頃播州廣峯に在りしを 清和帝の貞觀年中皇城守護の爲め此地に遷す神殿壯麗社域も亦廣潤にして櫻樹多し本社祭禮は祇園會と稱し古來毎年六月七日より一週日の間盛んなる祭典を執行せしが現今は七月十七日より二十四日までと改む此時山鉦を出たすなり其祭式の盛大なる全市舉げて狂するが如く甚だ雑沓を極む境内また末社多し圓山公園地 は八阪神社の東北にあり此地は明治維新の際時の力士等頭取はじめ賊徒擄擄の事に與かりしかば其功勞を賞し角力場として下賜せられ爾來常に舉行せしが現今は公苑地となる

建仁寺 は大和大路四條の南に在り五山の一にして千光國師の開基なり征夷將軍源賴家敷地を寄附し建久三年の創建に係る又 土御門帝勅願所たるの故を以て當時の年號を取て寺號に命す本尊には釋迦佛を安置し脇士は迦葉阿難なり佛殿の北に二字の鐘堂あり東の大鐘を河原院の鐘といふ即元河原院にありしものにして此鐘毎夜子の刻に九十晨には十八合して二百八回撞くと云ふ往昔陀羅尼經を誦讀しつゝ撞たりしに依り陀羅尼の鐘と名く境内に菩提樹あり國師宋より歸朝の時携へ來るものにして今尙繁茂し此樹を以て珠數と號すも南方に小池あり法水池と稱し其南に中門あり矢立門といふ平教盛の館門を移したるものにして常に人の往來を禁じ中門の南より竹垣を以て塙塙に代ゆ所謂建仁寺垣なり又南門内に

摩利支天北に陸子社あり共に参詣の人群集す

祇園館

は花見小路四條東に入る處に在り市中第一の劇場にして其建築は御殿風なり

歌舞練場

は右同所にありて藝妓舞子等の歌舞音曲を練習する處なり毎月三日間温習會と稱して歌舞をなすと又毎春博覽會開場中は都踊と稱して此に興行するを例とす

女紅場

も同所にあり此處は各妓をして裁縫其他女子必要の技藝を教授する處とす製茶場も亦同所にあり同じく製茶の業を教ゆ

五條大橋

は鴨河三大橋の其一にして初め松原通にあり即ち古への五條通なり然るを慶長年中秀吉公今の地に移すと云ふ古來著名の橋にして舊時の製は石橋なりしを正保二年木橋に改め明治十一年今の如く和洋折衷の板橋となす此橋上より東を望めは洛東の諸勝地は水々の間に顯はれて風光得も謂難し橋東は即ち五條阪にして陶器師多く古來有名の處とす

橋西の小橋

は所謂五條小橋にて兩橋の間中洲の地に警察署あり又郵便電信局あり橋下には伏見通の運送船常に輻湊して賑かなり小橋より西方の街路は即ち五條の通とす

御影堂

は五條通寺町西に在り一に新善光寺といふ天長年間檀林皇后の建立にして弘法大師の開基とす中興王和上人の時改めて時宗となす本尊は阿彌陀如來にして安阿彌の作なり信州善光寺の如來を模刻して安置するに依り新善光寺又御影堂の稱あるなり古來坊中に扇を折るを業とする者ありて當堂の名産とす

六波羅館の古蹟

は北は五條南は七條を限とし大和大路を前門として廣大なる館を築き

平家繁盛の時の居館ありし所にして現今六波羅密寺の在る處即ち其一部分なり

智恩院

は洛東華頂山の麓に在り東山第一の巨刹にして華頂山大谷寺と號し淨土宗の總本山なり此地は宗祖圓光大師の入寂せし處にして後代滿譽和尚台命を蒙り嶮岨を夷らけ創りて堂宇を建立す本尊は宗祖圓光大師にして本堂に掲ぐる大谷寺の額は 後奈良帝の宸筆なり又山門には 靈元法皇の宸筆勢至堂には 後柏原帝の宸筆の額を掲ぐ勢至堂は山腹に在りて勢至菩薩を安置す其側に泉あり紫雲水と名づく一心院は其南にありて阿彌陀佛を安置せり又勢至堂の巽に方り山腹に鐘樓あり有名なる巨鐘にして其高さ一丈八尺口徑九尺厚さ九寸五分にして音響三里の遠きに達すと云ふ又後堂に在る廊下の床は燦張と稱し其名世に高し境内は廣潤にして老樹鬱蒼閑靜にして幽趣あり庭園には糸柵淺黃櫻等の珍木あり又山門の側に井あり小鍛冶ヶ井と稱す往古三條小鍛冶宗近刀劔を造る時常に此井水を用ひたりと云當院は毎年一月十七日より一七日間御息と稱へ大法會を執行し参詣人甚だ多し

宗祖圓光大師の略傳

圓光大師は美作國久米南條の人なり父は久米の押領時國母は秦氏長承二年四月に生る幼字勢至と稱す資性英敏年甫めて九才其菩提寺に學ぶ院主其非凡の才あるを知り書を寄せて比叡山西塔の北谷實持坊源光に託す時に久安三年二月なり是に於て源光先づ其才智を

試み亦自ら教ゆるの人に非ざるを知りて功徳院の皇國阿闍梨に托じ大乘戒を受く居ると數年辭して西塔黒谷の慈眼坊寂空に就き名を源空と改め黒谷に醫居して諸論を講究し承安五年盡く餘行を捨て一意専修念佛に歸す建久二年事を以て後鳥羽帝の勅勘を蒙り四國に流さる後承元元年赦されて京に歸り東山大谷に開栖す即ち本山の地なりとす尋めて建曆二年正月廿五日享齡八十にして遷化す

眞葛ヶ原 〇は智恩院の南方をいふ

風さはく眞葛原の夕くれは都にしらぬ秋の山風

慈 鎮

圓山 一名華頂山と稱す智恩院の東南に在り山腹に長樂寺安養寺あり山中屈曲途を作り温泉場あり酒樓あり眺望絶佳にして洛東第一の勝地なり故に杖の雅客常に絶へず

長樂寺、安養寺

は共に傳教大師の開基にして天台宗の別院なりしが今共に時宗に改む

此邊は洛東無比の好風景を占め東山遊覽の人殊に歩を此に駐む

將軍塚 〇は東山の頂に在り延曆十三年丈八尺の鐵製の人像を造り此山頂を塚とせりと登り五町許連山の間に突出して風光最美なり

東大谷 〇は長樂寺の南に在り東本願寺に屬す親鸞上人の廟塔は後方の山腹にありて墳上に虎石あり形の似たるを以てかく名づく元祿年中に造營し甚だ壯麗華麗なり境内樹多し花時觀客群集す

高臺寺 〇は東大谷の南下河原の東に在り寶峯山と號す慶長年中豐太閤の北政所の建立せし菩提所なり神宗にして開基は三江和尚とす本尊は釋迦佛并に迦葉阿難を安置す開山堂には三江和尚常光院殿の像を安す本堂より廊下一面に正角の瓦を敷詰め之れを臥龍と名つけ雪月堂の額ありこれを登れば眺舎あり豐公と政所の木像を安置す長押に三十六歌仙を掲ぐ書は土佐光信にして和歌は八條智仁親王の筆なり當寺の客殿は彫刻彩色等美麗を盡し後の書は土佐光信狩野永徳弘意了溪等の筆とす本尊にハ千手觀音を安置し小方丈には豐太閤の歌十首の額あり山上に小亭あり傘亭と稱すこれは千利休の考案に成るものなりと境内には老櫻十數株春時殊に美景にして又萩花多く秋季の風光も甚だ雅美なり

八坂塔 〇は高臺寺の南にあり聖德太子の建立にして法觀寺と號す上古は樓門伽藍鎮守等ありしも今は既に頽廢して縹かに五重塔のみ残り

靈山 〇は一に圓阿山ともいふ東山の内一堆高陵を成し眺望絶佳の地にして一望以て洛中の全景を收む

雪の朝靈山と申す所にて眺望を人々詠みけるに

たけのほる朝日の影のさすまゝに都の雪は消みきへすみ

西 行

山頂に木戸公の墓あり木戸公名は孝允松菊と號す長州の士なり明治維新三傑の一人にして十年西南の亂起るに際し病んで死す山腹に寺あり靈鷲山正法寺といひ傳教大師の開基なり

り山麓には招魂場あり維新前後王事に死せし諸人士の墳墓多し毎年神祭を執行せらる又一
 大紀念碑あり有栖川大將宮の篆額故三條相國の撰文并書する所にして甚た壯觀なり
 清水寺 へ東山の中音羽山に在り本尊は十一面千手千眼觀世音菩薩にして俗に清水觀音
 と稱し延鎮法師の開基にして其草庵の跡なり延曆廿四年將軍坂上田村麿勅を奉じて堂塔を
 建て勅願所とし其後大同二年紫雲殿を賜り伽藍とあし清水寺と號すと云奥の院に千手觀
 音を安置す阿彌陀堂は瀧山寺と號し阿彌陀佛を安置せり文治四年五月法然上人此寺にて不
 斷常行念佛を開始し今に至るまで絶へずと云朝倉堂は越前國司朝倉氏田村堂には田村將軍
 及び延鎮法師等の木像を安置せり舞臺は本堂の側にあり崖に臨めり成就院へ月性上人の住
 したる處にして上人は勤王の志篤く常に同志の諸名士と交はり且つ緝紳の門に出入し以て
 内外の間を斡旋し末年幕府の追捕を這れ微行して薩摩に至り其親友西郷吉之助と相抱いて
 海に投して死す音羽の瀧は奥の院の南方にあり瀧の流三條あり四季水量の増減なし上方に
 不動明王を安置す
 みるまゝに清水山の瀧つせは心すみますものにさりける
 爲 盛
 慈 鎮
 くりかへし亂れて人を渡す哉清水寺の瀧の志ら糸
 吹上水は瀧の下流に在り其流を以て設けたるものにして夏日來遊の客多し茶亭料理屋等あ
 り

音羽山 へ又牛尾山と稱す追分より東南の山にして音羽里小山村は道のほとりにありて
 一脈の溪流ありこれを音羽川といふ
 高倉院
 音羽山さやかに見する白雪を明ぬと告る鳥の聲かを
 宗尊王
 音羽山花咲ぬらま逢坂の關のこなたに匂ふ春風
 後西園寺入道
 夕されは松吹風の音羽川あたりも涼し山の下かけ
 定 家
 音羽川雪けの波も岩越て關のこなたに春はきにける
 前左大臣
 時雨のみ音羽の里は近けれと都の人のことつてはなし
 讀人不知
 音羽山峰の梢も見へぬまで關のこなたに雪降にけり
 子安觀音 へ清水坂の南にあり光明皇后 孝謙帝を御分焼の時神授の觀音を本尊の腹内
 に納め安置せしものにして産婦の參詣するもの常に絶へず
 鳥邊山 へ或は鳥邊野ともいふ北は清水坂南は小松谷を限る古來墳墓の地にして其名昔
 なく世に知らる
 俊 成
 分きへる袖の雪の鳥邊野の泣く／＼かへる道棠の露
 鳥邊山おもひやるこそかまきれ獨や昔の下に朽をん
 成 範
 西大谷 へ鳥邊山に在り宗祖見真大師の墓所なり慶長年中の創建にして堂宇壯麗城内も
 亦清淨なり常に參拜の人多し

阿彌陀峯 是豐天開の遺教を葬る處にして大佛の地内後方の高阜に在り
大佛殿方廣寺 是後陽成帝の天正六年豊公の創建する處にして本尊は盧舍那佛の座像を
安置す其丈六丈三尺佛殿は東西廿七間南北四十五間にして甚だ壯觀を極めたりしも慶長七
年火災に罹り悉く焼失せり其後慶長十五年豊臣秀頼これを再建し寛文二年本尊佛銅像を改
めて木像とすと云

豊國神社 は大佛の境内にあり別格官幣社にして豊臣秀吉公を祭る本社は明治十三年の
建立にして甚だ壯麗なり初め慶長四年豊臣大明神の號を賜はる然るを徳川の初代これを破
却し爾來久しく祀を絶ちしも明治維新後今日の盛典あるを致す

耳塚 是同所に在り文祿元年朝鮮征伐の時敵兵數萬の耳及び鼻を斬り持歸りて此地に埋
め以て塚を築けりと

三十三間堂 同所の南方に在り蓮花王院と號す天台宗にして一に頭痛山平念寺とも稱
すと 後白河帝の勅願に依り備前守平忠盛之を奉行して建立す本堂は東面にして南北六十
六間あり毎二間に一柱を立つ故に三十三間堂と稱す本尊は千手觀音の座像にして丈八尺康
慶の作なり又一千體の觀音を堂内左右に安置す運慶湛慶兩人の作なりと云ふ堂前に夜泣泉
あり其側に小池あり燕子花の名所なり此地射的の遺蹟は新熊野觀音の別當坊なる者射術
を好み八坂青塚の射的場へ通ふの途次堂堂の後堂に休息し射初めしより起因して爾來諸侯

の家臣等射術の藝を競争するを例とすと云ふ

泉涌寺 は大佛の南今熊村にありて大和大路一の橋の東に方る東山と號す 四條帝以來
皇室の寺院たり當寺は初め弘法大師の開基にして其後文德帝の齊衡三年左大臣緒嗣これを
再建し天台宗に改め仙遊寺と稱す爾來天台、真言、禪律の四宗を兼ね會々山中靈泉湧出す由
て號を泉涌寺と改む佛殿の本尊は彌勒釋迦阿彌陀の三佛を安置す先帝の御陵は即ち當山の
嶺に在り其他境内殿堂多し

東福寺 是五山の一にして伏見街道十五町目即ち大和大路一の橋の南にあり開山は聖一
國師にして寛元元年關白九條道家公の創建なり釋迦佛法堂潮音堂と號し無準の書額を掲ぐ
山門妙雲閣には足利將軍義持の横額あり方丈の額は張即之選佛場の額は徑山、無準の書を
りと云ふ成就宮は當山の鎮守にして十三重塔と共に道家公の建つる處にして其他信樂院、
祖堂、傳衣閣通天橋及び其各所に掲ぐる額并に佛像等の見るべきもの甚だ多し洗玉瀨は通
天橋下の溪をいひ此邊樹多し晚秋の風光愛すべし

開山聖一國師の略傳

聖一國師諱は辨圓と稱す駿州美科の人をり年甫めて十歳天台宗に入り十五歳にして三大
部を畢はり十八歳の時圓城寺にて落飾す東大寺三井等を遊歴して野州長樂寺に於て榮朝
和尚に隨ひ別傳の道を學び猶其奥義を究はめんとし四條帝の嘉禎元年宗國へ渡り徑山寺

に寓し居ると六年仁治二年に歸朝せり寛元元年上洛し關白九條道家公より東福寺を賜はりて住職す後弘安三年十月寂す年七十九其後 花園帝の正和年間聖一國師の號を賜ふ國師號此に始まる矣

兆殿司の略傳 兆殿司は大道和尚の徒弟にして諱は明兆字は吉山と稱す繪畫を善くし其畫く所の圖に於ける奇聞傳説甚だ多し東福寺の涅槃像は應永十五年殿司五十七歳の筆にして世に絶品と稱せらる殿司の畫多く當寺に藏せり今稻荷山の北方繪具谷と稱する地は殿司の常に用ひたる染料を得し處なりと云ふ

稻荷神社 は東福寺の南十町餘の處にあり俗にいふ伏見の稻荷にして官幣大社なり本社は由緒多し又山中松茸を生ず此地の名産なり今社前に停車場あり京都の次驛にして稻荷停車場と云ふ記事は其部に委はしく出だせり就いて見るべし

相國寺 は上京區今出川烏丸東に在り神宗五山の一にして萬年山相國承天禪寺と號す後小松帝の明德三年將軍足利義滿の建立にして開基は夢窓國師なり本堂には釋迦佛を本尊とまて阿難迦葉大元達磨の諸佛像を安置す祖師堂は 後水尾帝の再建にまて同帝の神牌及び夢窓國師の像を安置す三重塔は大日如來を本尊とま是亦 後水尾帝の再建なり山門を圓通閣と稱す境内に功德の池あり池に架するを天界橋と云ふ又黃門定家の墓塔頃普光院の竹林の中に在りて法然水同松鷗軒にあり此地は法然上人の住せし處にまて百萬遍の舊地なり

一條辰橋 は同區一條通堀川に架す橋邊古跡多し

傳云往古三善清行の子淨藏なる者父清行の死をまて逢見んために熊野葛城を出で上洛まて此橋を過きんとま父の葬儀に遇ふ即ち其棺を止め橋上に置き大小の神祇を祈る然るに其功德著るま父忽ち蘇生せり淨藏觀喜措く能はず涙を揮つて父を抱き終に家に歸れりと爾來世人此橋を辰橋と名づくとなん

和泉式部

いつくにも歸るさまのみ渡ればや辰橋と人のいふらん 其古跡と稱するは小町雙紙洗の水(一に清和水)小町の塔、晴明水、下り松等にまて晴明水は安倍晴明密法修行の時神に祈りて湧出せしものなりと又下り松は所謂一條の下り松と稱するものにまて古より世に名高ま

西陣 は同區堀川の西一條より北方の一區域を總稱す

往時足利氏の執權山名細川相執り堀川を挾んで東西に分れ對陣九年争闘せり是れ應仁の亂にまて蓋ま今の西陣は其西軍の陣營地なり

此地は世に西陣織と稱する精巧なる種々の織物を産出ま其名内外に遍ねし 聚樂第の舊地 は同區内一條二條の間にまて東は大宮を限り西は朱雀通を堺とす此地は 天正の昔豊臣大問宏壯華麗の邸第を築きし處にして當時屢ば 天皇陛下の臨幸を仰ぎ文武の百官悉く供奉ま盛んに泰平を祈りし事あり後關白秀次の居館となりまが文祿年間秀次滅

ひ此第も終に廢額せり

神泉苑の舊蹟 是同區御池通大宮の西に在り往時は封境廣大にまて 至尊御遊樂の處たり境内に池あり法成就と稱す其中央の島中に善女龍王の社あり池邊に闌あり乾臨と稱す庭内には巨勢金岡石を疊みて風光を蓄ふ守敏は諸龍を咒まて瓶中に入れ空海は天竺無熱池の善女龍神を請ふ天下早魅の怨ひを除きて 叙感を蒙り小野小町は和歌を詠まて雨をふらま驚は宣言を受けて羽を伏せ隠れは官人易く是れを捕ふ 帝御感のあまり五位の爵を賜はりまも皆此處の來歴なり又 白河帝御遊の時綱を使はまて御覽あるに鶴池の中に入つて金盃輪の太刀を喫へ上りけり仍て此劍を鶴丸と名つけ 崇徳帝に傳はりて六條判官爲護に賜ふ亦祗園會も此に始まり弘仁年中 嵯峨天皇此苑中に行幸あり花の御宴の御儀ありこれ花宴のはじめなり

源順本朝に云神泉苑は禁苑の其一なり紅林地廣くまて楚夢を胸中に呑み緑池水高うして 吳江を眼中に縮む云々

如此の勝地なるも星霜漸く重なりて建保の頃より荒廢承久の亂後には一度修造ありまのみにて舊觀を留めざりまが元和の頃筑紫の僧覺雅官に申請去再興まて眞言の靈場となす北野右近馬場及び此地の如き其痕跡僅なり是れ大内裏の遺跡とまて永く記すべき處なり 千早振神の泉のみのみみや花をみゆきの初めなりけり

宗 時

本能寺 是同區寺町御池下る處に在り日蓮宗にまて開基は日隆上人なり初め六角の南油小路の東にあり今の本能寺町の地なりと云方丈の前にある門は聚樂第より茲に移せまものにて彫刻精美左甚五郎の作なりと又寺内三十番神の祠は愛宕權現の古社にまて類ひ稀なるものなりと寺寶題目曼陀羅は日蓮上人の筆にまて其表装紺地緞子に唐草の地紋あり世に本能寺切れと稱する者即ちこれなり織田信長公の墓本堂の東方にあり

千時天正十年六月織田信長師を中國に出さんとて此寺に陣す會ま其臣明智光秀大逆を企て手兵を率ひて本能寺を圍む信長拒戰終に勝たず自刃まて茲に死す

常盤ホテル 是同區河原町二條下る處に在り京都第一の大旅館にして洋風宏壯の建築なり

基督禮拜堂 同區同町三條上る處に在り即ち耶穌教の説教場にして毎日曜日講演を

開く

六角堂 下京區六角鳥丸通の東に在り頂法寺と號す天台宗にして聖德太子の開基なり如意輪觀音を安置す本佛は金像一寸八分にして西國十八番の巡礼所とす抑も此像は淡路國岩屋浦漁人の網に罹りたるを大内裏に獻したるに太子これを尊崇し精舎を建立して此に安置すと云傳ふ池の坊の立花は昔時當寺の専慶法師立花を愛して専心其法を究はめしより爾來代々其傳を繼ぎ中興専好法師に至り其風を改め家元となる毎年七月七日二星の手向とし

て立花の式ありと云ふ

佛光寺 是同區佛光寺通高倉に在り初め興正寺と號す眞宗佛光寺派の本山にして親鸞上人の開基なり上人四十歳の時山科郷東野村に建立し興正寺と號し其高弟眞佛上人をして寺住たらしむ其後 後醍醐帝の元應年中今の大佛を東澁谷に移し寺號を佛光寺と改め勅額を賜ふ又宸筆を以て上人の繪詞傳を書し專修念佛の棟梁たる繪旨を賜はる尋て足利尊氏所として佛供田を寄附し是より宗門繁昌し尊僧の僧侶各國に充滿し塔頭四十八坊に及べり降つて豊臣大開の時大佛殿建立に依り今の地に移さると云本堂には親鸞上人自作の像阿彌陀堂には阿彌陀佛を本尊とす傳云此阿彌陀佛は慈覺大師の作にして靈驗甚だ著るしく種々奇蹟ありしとて寺號をも改めたりと

因幡藥師 是同區松原島丸通に在り平等寺と號す眞言宗にして本尊藥師如來は本朝三如來の一にして天竺祖國精舎の本尊と同じ天徳三年橘行平因幡國の近海にて感得せしものなりと云ふ長保五年光朝禪師堂宇を創建し中興足利義詮の再建なり當寺の額は 高倉帝の宸筆にして寺内中納言行平の像を安置す元治元年兵火に罹り焼失し當今新築落成せり
五條天神 是同區松原通西洞院の西に在り一に天使社と稱す祭神は少彦名命にして天照太神大己貴命を合祀す 桓武帝遷都の初め平安城鎮護の爲め勸請ありし所なり又醫道の祖神とす往古は神農藥々として東西四町南北五町の神領たり神殿の周圍は樹林森々として自

から神威尊とし傳云傳教弘法兩大師とも入唐の時歸朝安全の祈願を籠め承安年中文覺上人の配法せらるるや同じく祈願して難風を免れたりと至徳元年將軍足利義滿社殿を再建す例祭は九月十日にして節分には白米小餅賣船等を熱氣に上つるの故ありしと云ふ

本國寺 是同區堀川大宮通松原の南に在り大光山と號す日蓮宗の總本山にして開基は宗祖日蓮上人なり初め相州鎌倉松葉谷に建立し法華宗と名つけ一宗最初の精舎とす貞和元年光明帝の勅に依りて此地に移す本堂には法華經を以て本尊となし立像堂には釋迦佛を安置し祖師堂には日蓮日期日印日靜日像等の各上人の影像を懸く其他祠堂には鬼子母神羅刹女を安置せり方丈は妙法華院と稱し院内狩野永惠の畫水戸黃門光圀畫の額あり又當寺の什寶として鶯鷲曼陀羅あり日蓮上人の筆にして表装は花色に一寸許の鶯鷲の地紋あり傳云楊貴妃の袍なりしと世人これを本國寺切と稱す境内に入宮社あり其東に阜踏石ありて一名を祈願石と名づく

宗祖日蓮上人の略傳

上人姓は三國氏父は遠州の刺史眞名重實の次男重忠にして母は清原氏なり貞應元年二月房州小湊の浦に生る資性穎悟なり年甫めて十二歳同國の清澄寺に入り眞言を學び十八歳にして落飾し名を是性と號し後自から日蓮と改む爾後各宗を兼學し其奧義を究はめ亦神道を修む建長五年三月年三十二歳めて南無妙法蓮華經を唱へ清澄寺の南面にして一山の

僧徒及び時の守護職東條左金吾景信等を集め法華經を演説し且つ論文を著はし遂に一派を創す是一宗流布の濫觴なり此に於て評論頻りに絶り毀譽交々至る弘長元年五月鎌倉執權北條重時之を聞き伊豆の伊東に流し又鎌倉龍口に斬らんとせしむ辛く其難を免れて其後文永八年に佐渡國に配せらる如此艱難其極に至るも屈撓せず終に赦されて鎌倉に歸り是より信徒海内に遍わく漸く素志を達するを得文永十一年五月鎌倉法華堂を高弟日朗に委ね身は飄然去つて甲州身延山に入り草庵を結びて春の朝に花をありて佛に供し秋の夕は月を待つて經書を照らさる夜雨窓のものとて心から邪にふる雨はあらじ風はそ夜の窓はうつらめ

日 蓮

後弘安五年十月武藏國荏原郷池上左衛門の家寂す今の東京の近傍池上本門寺の地これなり

西本願寺 是同區堀川西六條に在り眞宗の總本山にして龜山帝の文永九年親鸞上人の女覺信尼勅を蒙り今の東山大谷に始めて堂宇を建立し宗祖を以て開山となす子時上人の滅後十一年なり 帝勅願所として龍谷山本願寺の號を賜ふ第二代は如信上人にして開山の嫡孫に當る生父は善鸞上人なり第三世を覺如上人と稱し覺信尼の子覺惠法師の子なり 後伏見帝の正安元年勅願寺たるの繪目を賜はる降つて第八世蓮如上人の時に至り宗勢大に繁榮し開山在世の時に凌駕す此に於て山門の衆徒これを嫉み寛正六年寺院を毀却す蓮如上人寺

門三井の衆徒の荷擔を得て近松寺に開山の佛像を移し夫より北陸を遍歴し越前國吉崎に堂宇を營み北陸七州を教化して其勢益々熾なり後文明十一年山科郷に影堂を建て第十世證如上人の時堂を大坂石山に移し十一世顯如上人の時に至り門跡の號を勅許されまた堂を紀州鷲の森に移し終に天正十九年八月今の地に定むと云本堂には開山見眞大師自作の像を安置す此像は上人の滅後其遺骨を粉末となじ漆に和して潤色したるものにして世に骨肉の御影と稱す坐像にして長二尺五寸餘ありと云阿彌陀堂には阿彌陀を本尊とし轉輪藏には一切經を藏むと云其他興會所、大教授、鐘堂、鼓樓、唐門、虎間、浪間、大廣間、黑白書院、關膳殿、持春館、永安館、桃仙館等殿堂高閣甚だ多く庭園を滿翠園といひ園中に高樓あり飛雲閣と稱す聚樂第より此に移し額に圓白尙寶の書にして閣上の書は霞の宮士中閣の書は三十六歌仙共に古法眼元値の筆なり閣下を詔賢殿と云ひ池は滄浪池と稱す高閣を廻りて常に船を浮ぶ池堤を嘯月坡と稱し池に架するを龍背橋といふ橋を渡れば踏花場あり此邊櫻樹數十株蜘蛛亭の傍に夜光石あり醒眼泉は一名古醒井と稱し浴陽七井の其一なり艶雪林は梅花多し青蓮樹は茶亭にして一名澆花亭と云黃鶴臺は湯殿にして高閣の西に在り已上園中の名勝なり

宗祖見眞大師の略傳

見眞大師姓は藤原九條有範の子にして母は源義親の女なり承安九年四月朔日を以て生る幼名を若松丸と稱し後醍醐丸と改む幼にして孤とせり伯父綱範に養はる年甫めて九歳自

から出でて青蓮院慈願和尚の徒弟となり落飾して眞宴と改め天台の教義を修む苦學廿餘年禪觀の道奥を究はめ廿九歳にして轉じて淨土專念宗に歸じ黒谷の源空上人を師とし名を賴空と改む此時に當り諸宗勃興し道宋の僧等種を接して來朝し天下先きを争ふておれに歸依し佛法の盛極まれり然れども諸宗みを理教高遠にして容易く入る能はず是に於て師源空專修念佛を唱へ且つ圓頓菩薩の戒法を説き世俗に解し易からしめじより天下靡然として僧俗のこれに嚮向するもの多く賴空も亦専らこれを學び後竟に一向宗を開始して佛界に一大革新を唱へ大に世論を惹起せり蓋し佛家の五戒に僧侶の肉食妻帯を禁ず然れども陽に是れを奉ずるのみにて陰にこれを破るもの多し賴空思へらく此禁元來人情に悖戻す寧ろ公然此禁を解き破戒の人をからしむるに如かずと自から先づ其所思を實踐す此に於て物議囂然として起り或は官に訴へ或は直ちに詰責し讒謗罵詈至らざるなく遂に承久元年越後に疏さる居ること五年後赦されて歸る歸途東北諸州を遍歴し教化する事廿五年名を親鸞と改め貞元元年京都に歸り弘長二年十一月廿八日享齡九十にして寂せり實に上人は佛法旺盛の時ふ生れ破天荒の二宗を創じ佛家千古の風を一洗す嗚呼偉なる哉維新の後證號を賜はり見眞大師と宣下せらる

東本願寺 是同區烏丸六條の南に在り今大谷派本願寺と稱し東派の本山なり當寺は宗祖より十一世顯如上人の嫡子教如上人の創建にして慶長七年徳川家康寺地を賜ふて茲に新たに建立せしむ東本願寺を門跡と稱す本尊は宗祖自作の像を安置す元治元年兵火に罹り寺院悉く燒失し爾來盛んに再建中なり阿彌陀堂には安阿彌作の彌陀佛を安置す當寺所屬の枳穀殿は上珠敷屋町東洞院東詣に在り建築最も壯麗なり又文學寮は松原大宮西に入所なり護國寺 は東寺又左寺とも號す同區大宮の西八條の南に在りて眞言宗の本山なり開山は宗祖弘法大師とす此地舊大内裏の鴻臚館にして來朝の賓客を禮應する處たり昔漢朝の鴻臚館を不空三藏に給ひて精舎を營みし例により弘安四年左寺を空海に給ひ右寺を守敏に賜ふと云ふ金堂には藥師如來講堂には大日如來を安置す食堂には千手千眼の觀世音を本尊とし五重塔に四佛を安んず灌頂院は秘密灌頂の處にして八幡社は當寺の鎮守なり又八島社は當寺建立以前の勧請にして奉じて地主の神と崇む寶藏には大師の法器を藏し其南に瓢壺堀あり寺門は南、慶賀、蓮華の諸門にして猫瓦は築地の上にあり西院には開祖大師の像を安置し大黒天は西院の側に愛染明王は寶持坊に在り其他境内に五寶石三鈷松子房松等あり

宗祖弘法大師の略傳

大師は讚州多度郡屏風浦の産にして光仁帝の寶龜五年を以て誕生す年十八歳にて初めで大學に入り常に佛教に志す延暦十四年出家して東大寺の戒壇に上り具足戒を受け名を空海と改む後靈夢に依り和州高市郡久米道場の下にて大毘盧遮那神變加持經を得たり然れども其意趣を解する能はず延暦廿三年五月入唐して唐僧慧果阿闍梨を師とし該

經の興義眞言秘密の法を修め歸朝の後傳來の密法を弘む一日 醍醐帝詔して諸宗の名僧を集め空海と宗義を論せしむ空海の議論宏大明瞭にして且つ密法を行ひ各僧をして復た争ふ事能はざらしむ是より宗風大に流布す弘仁七年紀州高野山を賜はりて金剛峯寺を建立し承和二年三月高野山に入定せり于時齡六十有二延喜廿二年論議を賜はり弘法大師と宣下せらる大師書を著くすると普く世人の知る所にして亦假名のいろはハ大師の案に成るものなりと

羅城門の舊趾 是護國寺の門外四塚に在り此門は 桓武天皇平安城御造營の時初めて建てらる大内裏の南面に方り外廓の總門をり門の樓上に毘沙門天を安置せり此傳教大師の作にして今は東寺の觀音堂に安置す此地は古來種々の傳説あれども今茲に是を略せり
島原 是同區朱雀野千本通東松原の南にあり上古鴻臚館の所在地にして中世觀喜壽院の封境に屬し後將軍義政遊苑となす其後天正十七年浪人原某林某相謀り官に請ひて遊廓を開き新屋敷と名け又柳の双樹あるを以て柳町とも稱せりとそれより後斷らく他に轉じて中絶せしが寛永十八年再ひ今の地に移し著名なる遊廓なりしも現今大に衰微して舊時の盛況をじと云ふ右の外尙觀るべきもの左に其大略を掲載す

上御靈社 是上京區
護王神社 是同區鳥丸下長者町に在り別格官幣社にして和氣清盛公を祭る

下御靈社 是同區寺町通丸太町南に在り府社にして數神を祭る
梨木神社 是同區同町廣小路に在り別格官幣社にして三條公を祭る
専修寺別院 是同區河原町二條上る處に在り有名なる勝地なり

壬生寺 是下京區佛光寺通南千本通東に在り本尊は地藏尊にして毎年四月大念佛會と稱し一種奇異の狂言ありと

興正寺 是同區堀川七條にあり興宗興正寺派の本山をり開山は親鸞上人にして一たび佛光寺と改め文明年中兩派に分る

六孫王廟 是同區西八條橋筋に在り此地は六孫王基經御殿の舊跡にして同王を祀る處とす元祿年間創建なり境内大に風致に富みり
三條大橋より北西南の三方に在る名勝の部

鞍馬寺 是松尾山と號す愛宕郡鞍馬山に在り 桓武帝の延暦十六年中大夫藤原伊勢人の草創にして本尊は毘沙門天を安置す蓋し大中大夫菅山中に獲る所の佛像なり又大夫の僧に尊信せし觀世音は別に一字を蓋をみて安置す西の觀音院即是なり御明神は菅山の鎮守にして木門の内に入り大己貴命を祭る 朱雀清天慶年中の勸請をり僧正谷は山中に在りて往古源牛若丸の兵法武術鍛練の處なり抑も此山を鞍馬と稱せしは 天武帝の白鳳十一年大友皇子反を謀り皇居を變ふ 常陸を此地に遷け鞍馬を築き玉ひしはり由來せしものなりと云

石炭鑛本等此山の名産にして、
月執行す

是やこの音にきこつて、
貴船神社

貴船神社は同郡貴船村に在り、
建勳神社

建勳神社は同郡船岡山に在り、
祭る維新後の創建にして

祭る維新後の創建にして、
紫野

紫野は今宮大徳寺の邊り、
大徳寺

大徳寺は同地に在りて、
正中五年の創建にして

正中五年の創建にして、
大徳寺

壯なり創建の當時赤松圓心同則、
花園、後醍醐、後土御門、諸帝の

花園、後醍醐、後土御門、諸帝の
高尾山神護寺

高尾山神護寺は葛野郡中島村に在り、
初め神願寺と號せり

初め神願寺と號せり、
北野神社

北野神社は今出川の西北野の森に在り、
後ら天徳三年右大臣輔公

後ら天徳三年右大臣輔公、
藏せり境内は廣爽明雅にして

藏せり境内は廣爽明雅にして、
五日には茶種

時參拜の人多し

北野の宮にてよみて奉る

くもるへきうき世の末をてらしてやあら人神は天降けん

慈 圓

白河帝の御宇あらさるほかの事によりて御きそく心よからす侍りける時唐鏡を北野の宮に奉るとて鏡のうらに書ける

身をつみて照したさめよます鏡たが偽りもくもりあらすは

顯 輔

平野神社 是葛野郡小北山村に在り北野社より西北方三丁許官幣大社にして祭神は今木、久度、古閉、姫の諸神とす神殿壯麗にして境内櫻樹多く花時殊に美麗にして諸人遊遊す毎年四月二日官祭典を執行す社東に小河あり紙屋川と稱す納涼の地に適す夏時都人の來遊するもの多し

金剛寺 是同郡大北山村に在り平野社より西北に方る八丁禪宗にして一名鹿苑寺と號す應永四年將軍足利義滿の造營する處にして初め其別荘たり其構造は三層の高閣にして華美を盡す即金箔を以て一面に塗粧し屋上には金鶏を置く而して第一層を法水院と云ひ彌陀の三尊夢慈國師鹿苑院殿の像を安置す第二層は潮音洞と云ひ自然木の觀音及四天王を安んず第三は究頂竟頂と稱し後小松帝の勅額あり板の間方三間の處一枚板にして四壁の板は盡く金箔を塗り間前に奇石あり九山八海と名づけ閣の周圍は池を以てこれを廻らし庭中四季

の花木を栽む其風色甚だ佳なり衣笠山は西方に在り對峙して光景殊に勝絶なり等持院は衣笠山の麓に在り金剛寺と共に夢慈國師の開基にして當寺は足利家累代の木像を安置せり等持院の西に龍安寺あり此寺は細川勝元の居館たりし處にして堂内天井の畫は兆殿司の筆なりと又境内の池は鶯鷺の名所なり龍安寺の南に妙心寺あり此寺は花園帝の創建にして藤原藤房公の通世されし古跡なり

仁和寺 是同郡御室に在り大内山と號す世に御室御所と稱せしは即ち此地なり眞言宗にして仁和四年八月 光孝帝勅願所として創建し尋ねて 宇多帝讓位の後此地に宮殿を營みて密教を修し給ひしと云ふ御門跡の稱號ここに始まる其後應仁の亂に兵火にかゝり爾後久しく荒廢せしが寛永年間これを再建し堂宇甚だ壯麗にして金堂の本尊は阿彌陀佛を安置し觀音堂には千手觀音祖師堂には弘法大師自作の像及び 寛平法皇の御影を安置す其他五重塔、九軒明神、十二社權現、經藏堂等あり又山上には四國八十八ヶ所の寫しあり此地は古來櫻花の名所にして彌生の候は遊覽の人群をなす

九重にたつまら雲と見へつるは大内山の櫻なりけり

出 雲

愛宕山 是高く都の西方に聳へ葛野郡隱岐村に屬せり山中に愛宕神社あり山腹には月輪寺あり試の峠清瀧川渡橋橋火燈權現等は又山中の名區にして乾の峯を南星峯と名づけ北の麓を霞が原と云ふ

時雨つゞ日敷ふれとも愛宕山麓が原の色はかわらす

愛宕神社は 光仁帝の天應元年帝都の守護神として慶俊法師此山を開き奉祀すと祭神は伊弉册尊外三神を合祀せり例祭は四月中の亥日なり世人火災の守護神と稱し参詣する者常に多く又六月廿四日には千日参と稱して参拜殊に雑沓す境内日暮の瀧あり月輪寺は鎌倉山と號し開基は慶俊法師なり其後關白九條道實公これを中興せりと云本尊は十一面觀音を安置し祖師堂には月輪殿空也親鸞兩上人の三像を安置せり寺内龍女水時雨櫻等の名勝あり清瀧川は山麓にある清流にして小野より來り大堰川に入る此處より登山するなり川の兩側に茶店旅人宿等あり都人の出遊する勝地なり

降つみし高ねのみ雪解にけり清瀧川の水の白波

岩根をそ清瀧川の早ければ波おりかくる岸の山吹

小倉山 是愛宕の南に在り古來有名の勝地にして山中寺あり二尊院と號す本尊は釋迦阿彌陀の二佛にして念佛堂には法然上人足叟の影像を懸く中門には 後柏原帝宸筆の額を掲

げ本堂の額は 後奈良帝の宸筆なり一は小倉山と書し一は二尊教院とあり

小倉山すそのとりの夕霧に宿ころ見へぬ衣うつなり

夕月夜小倉の山に鳴鹿の聲の内にや秋はくるらん

小倉山麓の寺へ入相にあらぬ音をがらまがふかりかね

順徳院 賈之 俊成

夕されは霧立をれし小倉山やまのと陰に鹿が啼なる

小倉山麓の里に木の葉ちれば梢にはるる月をみる哉

當院の後の山腹に黃門定家山莊の舊地あり厭離庵と稱せしと云ふ定家卿この山莊にてよめる

小倉山まぐれの頃の朝をくさきのふはうすき四方のみち葉

露霜の小倉の里に家おしてほさても袖の朽ゆへき哉

忍はれむ物とはなしに小倉山軒端の松になれて久しき

又此庵の前の畑中に爲家の墓あり其古跡なるへし

小倉山陰の庵はむすべどもせく谷水のすまれやはする

住そめし跡なかりせば小倉山いつくに老の身を隠さまし

また當院大門の南方に西行法師庵の舊跡あり

我ものと秋の梢を思ふか小倉の里に家おせしより

嵯峨野 是同郡上下嵯峨村の舊稱にして往時北下の兩部に分ち清涼寺大覺寺の邊を北麓

峨といひ天龍寺法輪寺のほとりを下嵯峨と稱し其中央に方りて野々宮あり舊は田圃の地

にして 嵯峨帝始めて御遊獵ありしより 文徳清和陽成光孝の四帝も亦續めて行幸あり

或は官人を遣はして松虫鈴虫等を捕へしめ玉ふ事をどありき又 嵯峨帝は御讓位の後ち離

宮を此地に建て給へりと古來閑靜の勝地なるゆゑ故人多く此處に隱栖せり古詠あふし

かり人の草分衣ほしもあへず秋のさが野の四方のしら露

順徳帝

絶せしを後のさかの末とたくとみの緒河の流るはたに

龜山帝

名にめてゝおれるはかりそ女郎花我落れきと人に語るな

通照

うちまねくけしきことなる花すくき行過かたく見ゆる野へ哉

菅綱

うかりける此世のさかの秋の暮露も時雨も身にやそふらん

讀人しらす

清涼寺 是上嵯峨村にあり一名釋迦堂と稱す本尊は釋迦牟尼佛にして此像は釋尊在世の時撰刻したる三國無雙の靈佛なりとて世俗篤く敬す伽藍は 一條帝の永延元年建立す西方大寺の一なり境内には阿彌陀堂、五大堂、三石塔、八宗論地、棺掛櫻、四ッ足門等ありて毎年三月大念佛及び如來の御身拭等の事あり

鷲の山ふたゝひ影のうつりきてさかの露に有明の月

寂蓮

大澤の池 へ清涼寺の良にあり池中に小島あり菊が島と稱す島中天神の祠あり又池中に庭湖石あり巨勢金剛これを建つと

一本と思ひし菊を大澤の池の底にも誰か植けん

友則

大澤の池のけしきはふりゆけとかはらすめる秋の夜の月

俊成

大澤の池の玉のみかくれに蛙鳴なり五月雨の頃

康光

大覺寺 是同所に在り眞言宗にして佛殿には五大尊を本尊とす開基は恒寂法師(淳和帝第三の皇子なり)にして爾來代々法親王任職し給ふと云當寺も亦西方大寺の其一なり菖蒲谷、八角堂、僧正遍照の舊趾、及び廣澤の池、長刀坂等あり

夕暮は秋のさかの鹿の音に山もと深き露そこほる

忠定

廣澤の池 は大澤の池の異にあり寛朝僧正此池を造ると此池は觀月の名所にして中秋の頃都下の雅人杖を曳くものあふじと云ふ

爲家

廣澤の池の堤の柳かけみどりもふかく春雨そふる

願政

いにしへの人は汀に影たへて月のみ澄める廣澤の池

範永

住人もなき山里の秋の夜は月の光りもさひしかりける

同

山の端にかくれなはてそ秋の月此世をたにも聞にまとはし

野々宮

野々宮 是上下嵯峨の中央にあり悠記、土基、の兩宮ありて神明を祭る黒木の鳥居に柴垣は上代の遺風にして古雅なり上古伊勢太神宮に齋宮に立たせ給ふ内親王此地に三とせばかり住給ひて禊瀦し給ひし古跡なり

齋宮女王

琴の音に峰の松風がよふらじつれのためよりしらをめけん

同

松風の音に亂るゝ琴のぬをひは子の日の心地さうすれ

讀人しらす

柳さす葉のかきはのがすくゝに猶かけりふる雪の白ゆふ

同

すたか河八十瀬の波はわけもせて渡らぬ袖のゆるく頭かな
 契子内親王
 天龍寺 下懸磯村に在り龜龜山と號す五山の一にして開基は夢窓國師とす 後醍醐帝
 追福の爲め足利尊氏曆應三年の建立せしものありと佛殿の本尊は釋迦佛脇士には文殊普賢
 を安置す昭堂は勝芳と稱し開山と尊氏の兩像及び地藏尊を安置す又堂内に開山七朝國師號
 の勅書七通を彫刻せり塔頭多寶院には 後醍醐帝の御廟あり境内の池を曹源池といひ方丈
 の庭園は開山國師の方案に成り大に風趣ありと云往時は龜頂塔と名つくる九重の高塔あり
 しも今や其礎石を存するのみなり

開山夢窓國師の略傳

國師諱は智隱又疎石と稱し或は木納史ともいへりと勢州の人なり其母觀音に祈り金色の
 光西より來るを呑むと夢みて妊娠し十三ヶ月にして而して生ると幼時孤となり年甫めて
 九歳平鹽教院に至り出家す十八歳にして慈觀律師に就き具足戒を受け顯密の教を修むる
 と三年尙大道の發明に足らすとなし道場を建てて二百日間練念す滿期の日夢裡に一長老
 の教を受け且つ達摩牛身の畫像を得たり爾來志を決して禪觀に歸し名を疎石と改め字を
 夢窓と號す觀應二年九月寂す享齡七十有七死後國師號を賜はる
 龜山 天龍寺の西に在り 後醍醐帝龜山帝の離宮ありし舊蹟なり
 春よとに思ひやられてみよしの花はけふこそ宿に咲けれ
 太上皇

かめのをの瀧つ川波玉ちりて千代の數みる秋の夜の月
 通 成
 子の日するいつくはあれと龜のをの岩根の松をため志にそひく
 爲 家
 嵐山 同村に在り西山第一の勝地にまで大堰川の南岸に臨めり 龜山帝の御宇吉野の
 櫻樹を移さ植へ爾來櫻花の名所として吉野に亞ぐ花時一望すれば恰も白雲の巖くが如く青
 楓翠松其間に參はり更に一段の風致を添ふ世人謂ふ京都の春は嵐山に在りと眞に過稱にあ
 らざるなり加之のみならず夏は納涼に適ま秋は觀月と紅葉を兼ね冬は雪景亦絶佳なり又山
 麓榎谷の西に戸無瀬の瀧あり流れて大堰川に落つ
 後宇多帝
 嵐山これも吉野やうつすらん櫻にかゝる瀧の志ら糸
 爲 氏
 あらし山麓の花の梢までひとへにかゝる岑の志ら雲
 清 賢
 思ひいつる人も嵐の山のはにひとりそいり志有明の月
 爲 成
 となせ川玉ちる瀬の月をみて心ぞ秋にけつりはてぬる
 爲 定
 又山中に坐禪石あり夢窓國師修行の古跡なりまた古城址あり其の城は永正年間細川政元の
 臣香西某謀叛してここに築きまものなりと其の西に藏王谷あり吉野に擬志藏王權現を安置
 す
 法輪寺 山麓にあり智福山と號す眞言宗にまで天平年中の建立なり往古葛井寺と稱せ

り中興の開祖道昌僧都自ら虚空藏菩薩の像を刻志其師弘法大師を招きて開眼供養志奉じて以て本尊となし貞觀十六年法輪寺と改稱す境内に落星井轟橋參籠堂等あり

又たくひあらしの山のふもと寺杉の庵りに有明の月

俊成

更行は鐘のひびきもあらし山空に聞へてすめる月かな

高道

大堰川　ハ丹波より來りて水尾清瀧の諸川と合志猿飛龍門瀧大瀧等の稱ありて嵐山の麓をめぐり渡月橋を過ぎ桂川となりて遂に宇治川に會す常に行舟の利あり嵐山と相待つて共に都西の勝地たり

かけさへに今はと菊のうつろをは波の底にも霜やねくらん

是則

大堰川河邊の松にこととはんかゝる御幸やありまむかしも

貫之

色々の木の葉流るゝ大堰川志もはかつらの紅葉とや見ん

忠岑

渡月橋は大堰川に架え法輪寺へ渡る橋なり一名を御幸橋又法輪寺橋とも云ふ

大堰川はるかに見ゆる橋の上に行人すこし雨の夕暮

爲業

其他河の北西に小督櫻千島瀧西行櫻等の名跡多志

大秦廣隆寺　は二條通の西大秦村に在り初め推古帝の十二年聖德太子大和國班鳩宮に於て近臣秦川勝を召志靈夢を告げ此に來りて假堂を造り峰岡寺と名けて川勝に命志百濟より奉る佛像を安置せしむ後ち寺號を廣隆寺と改む蓋志廣隆は川勝の通稱なり當寺は京都最

古の巨剎にまで其建築太だ古雅なり本堂の本尊は藥師如來を安置す 清和帝の勅命に依る

なり太子堂には聖德太子の像を安置せり其他境内地藏堂、鎮守社、關御井、辨天社、石燈籠、

土用塚、大酒明神、桂宮院、祖師堂等あり例年九月十三日大秦牛祭と稱し祭禮ありこれ聖德

太子の創始にして現今傳ふる祭文は後世弘法大師の作なりと云ふ

梅宮神社　は太秦の東西梅津村に在り官幣中社にして祭神は酒解神大若子神其他三神を

合祀す傳云往昔檀林皇后の 仁明帝を御産あるとき本社をの砂を取りて床下に布き以て御安

産ありしとて今尙は安産の神として信仰する者甚だ多しと

松尾神社　は四條通の西上山田村にあり梅宮より西に方る本社の後山を別當山と稱す

本社祭神の降臨ありし處と云ふ祭神は大山昨神市杵島姫命にして大寶元年秦都理社殿を建

立して分土山より遷すと云ひ或は 元明帝の和銅二年初めて加茂より遷すと云ふ官幣大

社にして祭禮は五月上旬の日に執行す此日御幸あり神興七基西七條の御旅所より桂川を舟

渡すあれ 仁明帝承和四年に始まり爾來定例となる舍利殿は本社南に在り往時此地に巨

杉あり樹中舍利を納れたる銅塔を得三層塔を建て、是を安置す當社は世に酒造の神として

釀酒家の最も尊信する所なり

誰しかを松の尾山のあふひ草かつらに近く契り初けん 順德帝

一條帝の御宇始めて松尾行幸侍けるにうたふへき歌つかふまじるに

千早振松の尾山の陰みればけふそ千とせのはじめなりける
松尾祭に使に立て侍けるに内侍は誰ぞと上卿の尋侍りけるありしも郭公の啼きければ後
深草帝内侍少將

郭公じめのあたりには啼聲をきく我さへに名のりせよとや
長岡の都趾 は七條通の西に方り檜原の南山崎の北に亘り長き岡陵の地にして宇を御所
屋敷と稱す即ち桓武帝の延暦三年帝都を南都より移し給ひし初めの地なり地勢に因みて
長岡と稱へ此地に行宮し玉ふこと九年間同十三年に平安城に遷り給へりと云ふ其後在原業
平朝臣の母この地に住みたるよし古今集に左の一節あり

なりひらの朝臣のはとのみこ長岡にすみ侍ける時になりひら宮つかへすとて時をわき
いりとふらはす侍ければしはすばかりにはとのみこのもとよりとみの事とてふみをもて
まうてきたりあげてみればさとははなくて有けるうた

老ぬればさらぬ別もありといへはいよく見まほほじき君哉
返じ

世の中にさらぬ別のなくもかなちよもとなげく人のこのため
鳥羽の里 は四ッ塚の南に在り上下に分ちて南北に凡そ一里許民家多し加茂川此に來り
て桂川と合す

京 都 案 内

露しけき鳥羽田の面の秋風に玉ゆうやとる宵の稻妻

あやめ引人もなし山城の鳥羽に波こそ五月雨のころ
露をからもりくる月をかたしきて鳥羽田の庵にいよとねぬらん

右の外西南部には大社、巨利、名勝、舊蹟數多あれども西は向日町南は稻荷、山科の各停車場
の部に屬するを以て茲に省けり

京 都

- 也阿彌 浴東圓山町
- 常磐樓 河原町通二條下ル
- 中村樓 八阪祇園前
- 倭屋 麴屋町通姉小路上ル
- 終屋 同上
- 萬屋 三條通小橋西へ入ル
- 鍵屋 三條通大橋東へ入ル
- あだち 同上
- 釘拔亭 三條小橋西北詰
- 日光屋 三條通り小橋

後鳥羽帝

經 緯

四 條

- 茶屋 三條通大橋東へ入ル
- 砂糖茂 油小路御前通下ル
- 河内屋 中珠數屋町通り
- もち屋 六角通東洞院西
- 榊屋 五條大橋東詰
- さげ文 麴屋町通押小路
- 田中屋 西六條西中筋
- 井筒屋 東洞院中珠數屋町
- 藤屋 醒ヶ井通花屋町
- 松屋 御幸町三條上ル

京 都 案 内

近江屋 醒ヶ井通花屋町
八尾宗 高倉通松原下ル
八幡屋 宮小通松原下ル
丸 萬 東洞院三條下ル

近江屋 六角通高倉東へ入ル
わた屋 柳馬場通六角下ル
平野屋 蛸薬師東洞院東へ入ル
富田屋 同東洞院西へ入ル

京都は産物甚だ多し就中西陣の織物を以て第一とせし諸染物類殊に友仙染、扇子、色紙、紅、白粉、金、銀、銅、錫の諸器物類清水燒植物には稻荷山の松葉及び京茶等尤も著名なるものとなす



大阪案内

大阪市 是我邦第二の大都會にして攝津國東成、西成の兩郡に跨がり東西直徑凡二里南北一里十餘町分つて東西南北の四區となし又其四區を小別して町數五百十有八、戶數凡十萬にして人口四十八萬餘なり
地勢は大率平坦にして只東方の一部のみ長岡一帶南北に亘り東成郡部と接し西は一面海に瀕せり而して南北の平坦なる地は西成郡の町村と連續し殆んど境界を分ち難し
淀川は一に大川と呼び市の北部を貫流し天満、天神、難波の三大橋を架し難波橋より中の島を抱きて兩派となり北を堂島川と稱し南を土佐堀川と云ひ其下流の合する處へ再び分流する處にして直ちに安治、木津の兩川となり安治川は九條島に沿ふて西流し木津川は江の子島を夾んで南に流れ尻無川を分岐して遂に共に海に入る而して此大川より市街の間を南方に二條の溝渠を疏通して一を東横堀といひ一を西横堀と云ふ東横堀は復た西方に長堀、道頓堀の兩溝を分ち西横堀も亦江戸堀、京町堀、阿波座堀、立賣堀、西長堀、堀江、西道頓堀等の數條となり下流は悉く木津川に入る如斯にして水利の便最も善く従つて橋梁の多きを實に二百餘を以て數ふべし
抑も當市は古く難波津又御津の濱とも稱へ 人皇第十六代仁德帝の都址にして且つ古來三

韓來貢の時其舟泊地たりしと云ふ然とも當時は尙ほ寂寥たる村里に過ぎず今の西區の地の如きは一面の砂濱にして邊海蘆葦生茂り葎の苦屋の散在せしのみ又淀川の北岸なる今の天満其他の地も菟餓野また關鷄野と稱し茫々たる薄の原にて鹿の啼音を聞きしと云ふ

心あらん人のためとや霞むらんにはの三津の春の明朝
後鳥羽院
松塞き御津の濱邊の小夜千鳥ひかたの霜に跡や付つる
土御門院
波かるく難波の里のあし枕月見むとてや結びあきけん
藤原門院少將
浦風や猶寒からし東には折たくこやのあまのまのひに
爲川氏
霜枯の難波の葦のほのくを明る湊に千鳥啼なり
成保
押照や難波のみ津に燒鹽のからくも我は老にけるかな
讀人老らず
春の色はけふこそみつのうらつかみあじの若葉をあらふ白波
定家
難波津をけふこそみつの浦毎にされや此世をうみ渡る船
業平
津の國のなにはの春は夢なれや蘆の枯葉に風渡るなり
西行
夜を残すねさめに聞そ哀なる菅野の鹿もかくや鳴らん
同
月かけをおく霜かとや思ふらんつけのく鹿の聲そうらむる
師光
この國のなにはの里の夕すくみあじのまのひに秋風そ吹
信實
この國の難波の里の浦ちかくまかきを出る海士の釣船
同

い子ともはや日本へ大伴のみつの濱松まちこひぬらん

信 實

秋の夜はたれ待こひて大伴のみつの泊そ衣うつらん
頼 良
爾來幾多の星霜を経て世の進化と移行行き天正年中豊臣氏の居城を此に築きしより形勢頓
一變し人烟繁殖して一都市を成し六十餘州の列侯も亦此地に邸第を建て富商家軒を並
べ商業交通の昌盛なる殆んど比肩の地なきに至り尋いて徳川氏の世となるも愈々繁榮を加
へつゝ維新後三府の一となる殊に地は關西の咽喉に當り中國、四國、西國より亦北國の運漕
も多く此地を根據とし且つ東國には漁車の便あり海陸四通八達にて全州の産物悉く集り百
般事業の發達して商業の隆盛なる恐らく東京にも譲らざるべし

管市は各區の境界整然として街衢も亦端正なれば遊覽の便最もよろし今市街の繁榮なる地
と且つ勝區とを毎區に分記し尙郡部の諸勝地も便宜上その接近する各區の部に併記すべし
看客請ふこれを諒せよ

◎東區 是四區中尤も樞要の地にして東は大坂城より南方に一帶の長岡を成し東成郡部
と相接し西は西横堀を以て西區との界とし南を順慶町の通筋にて南區に隣北は淀川土佐堀
に限らる其間大厩櫛比して中央に東横堀を通じ堀以東は高地をなべて上町といひ淀川に瀕
する邊りを八軒屋と通稱し東西兩横堀の間を總稱して船場と云即ち大阪の中心にして巨商
豪家此に集まり銀行會社も亦多く此一區域内に在り而して區内通筋の繁榮なる所を舉ぐれ

大阪案内

は東西に高麗橋平野町本町等の通り今橋北濱これに次ぎ又北より南には堺筋心齋橋淀屋橋御堂筋以上尤も盛んなり其他天神橋谷町筋並いて往來の人しげし
高麗橋 是區内東横堀に架す此橋は東京の日本橋京都の三條大橋と同じく大阪の根基として諸方里程の起算地といひ殊に我邦鐵橋の最初にして明治二年に修築し其製甚だ壯麗ならざるも世人の熟知する處なり南北の二橋は平野橋及び今橋なりとす
高麗橋より諸方への路程

- 大坂城 凡十三町餘 練兵場 全七丁 玉造 全十丁
- 八軒屋 全四丁 博物場 全五丁餘 株式取引所 全三丁
- 御堂社 全八丁 西本願寺 全十丁 東本願寺 全十三丁
- 座摩神社 全十三丁 (以上東區に屬す)
- 雜魚場魚市 全二十三丁 新町 全十七丁 四ッ橋 全十九丁
- 阿彌陀池 全三十丁 水津川 全二里半 松島 全一里
- 尻無川 全一里半 大坂府廳 全二十五丁餘 居留地 全二十六丁
- 安治川 全二十七丁 天保山 全二里餘 (以上西區に屬す)
- 心齋橋 全十五丁 島の内 全十七丁 日本橋 全二十丁
- 高津神社 全廿五丁 桃山 全三十丁餘 生魂神社 全三十丁

大阪案内

- 清水 凡一里 安井神社 全
- 茶白山 全 雲水寺 全 天王寺 全二里餘
- 一心寺 全一里 商業俱樂部 全一里餘 阿部野神社 全
- 今宮戎社 全 難波停車場 全二十五丁 廣田神社 全
- 道頓堀芝居 全 難波新地 全 千日前 全
- (以上南區及郡部に屬す) 湊町停車場 全三十丁

- 天満橋 全六丁 網島 全十丁 櫻宮 全三十丁
- 造幣局 全十三丁 長柄 全三里餘 天満天神社 全八丁
- 天満青物市 全四丁 天神橋 全二丁 難波橋 全六丁
- 中の島公園 全八丁 大阪控訴院 全五丁 堂島米市場 全十丁
- 富島波止場 全二十八丁 北の新地 全十丁 露の天神 全十五丁
- 北野 全廿五丁 梅田停車場 全二十丁 野田の玉川 全一里餘
- 福島 全廿五丁 (以上北區及西成郡に屬す)

大阪城 市の東隅に位し東成郡に屬す天正十年豊臣秀吉公の築く處にして石山城また金城とも稱せり西門を大手とし(大手通二丁目の正東に方る)其他東に青屋口北に京橋南方に玉造口の諸門を設け其周圍凡そ一里餘規模宏壯にして城壁高く匝らすに數重の深濠を以

てし實に天下の名城たりしが慶長十九年の冬徳川家康と隙ありて和成るの日に外縁を埋め其翌明和元年に至り再び家康と戦ひて遂に敗れて城陥り又戊辰の役兵火に罹り今僅かに本丸のみを存在す維新後新たに鎮臺を置き現今第四師團の本營たり城内青屋口に砲兵工廠あり常に銃砲を製造す又城内に借行社あり陸軍士官の俱樂部なり又城外に陸軍病院中學校陸軍兵營等並列し建築何れも壯大なり

練兵場 是城南に在り此地も東成郡に屬し廣漠たる平原にして邊境は松樹林を成し眺望最も快豁あり

玉造 是舊城の南門に方る一部落にして練兵場の東北位にあり同郡に屬す此地上古は玉を造るもの棲みたりとて此村名ありといふ又四天王寺建立の時は此地にて瓦を燒きしと村内に稻荷の祠あり豊津稻生大明神と稱し即ち此地の産土神なり其他眞田山の月舍利寺等の古勝地あり杖を曳くも亦可なり

八軒屋 是區内の東北に位し淀川に沿ふて京橋三丁目間の通稱にして上古大江の岸と稱せし即ち此邊りなりと云ふ此地は伏見通ひの小蒸氣船三十石舟の發着所にして常に繁華なる處とす東は古への京街道なり

船よばふ聲もれよはす成にけり大江の岸の五月雨の頃
わたのへや大江の岸にやどりて雲井に見ゆる生駒山哉

長俊
夏一遷

玉藻かゝる大江の浦のうら風につまじの花は散ぬへらなり

讀人しらす

さみたれば日敷ふれともわたのへの大江の岸はひたらさりけり

隆源

博物場 是區内の中央本町橋東詰に在り門を入りて正面に美術館あり館内古今の書畫及び諸器物を陳列し常に庶人の縦覽を許す本館の左右に販賣店ありあらゆる物産を販賣す場内庭園の設けあり雅美にして又珍禽奇獸を飼養せり入場者は門口にて二錢の見料を支拂ふべし

大阪株式取引所 是北濱二丁目にあり諸會社株式の賣買をなす處にして其賣買出來高は毎年平均四五千萬圓に上ると云ふ

御靈社 是區内の西方平野町五丁目に在り祭神は天照太神應神帝及び源正靈神の三坐にして府社の一なり社前の通りを御靈筋とす境内に文樂座あり操り人形の興行場にして即ち義太夫と共に我邦の本場たり此座舊と西區松島にあり後此地に轉すと云近年稻荷には彦六座と稱し同一の興行場あり常に此座と相競ふ現今斯道の名人を擧ぐれば義太夫には越路、柳道、大隅、駒太夫三絃には團平、廣助、吉兵衛等其著名なるものにして人形遣ひは玉造紋十郎を巨擘とす

西本願寺別院 是御靈の南數丁にして所謂御堂筋に在り本派本願寺の別院なり一に津村御堂と稱し又方位に依り北の御堂とも云ふ堂宇宏壯境内亦廣濶にして二丁四方ありと云ふ

東本願寺別院 是同所の南敷丁にあり一に難波別院又南御堂と稱し大谷派本願寺の別院にして結構前者と匹敵す
座摩神社 是難波別院の西に隣り西横堀筋六丁目にあり府社にして五座生井神福井神綱長井神外二神を祭る神殿壯麗市中屈指の社なり

◎西區 是西横堀以西川口に至るの區域にして南は櫻川を界として西成郡と相對し北は土佐堀を夾みて北區と隣る區内を概稱して土佐堀、江戸堀、京町堀、靱、阿波座、立賣堀、薩摩堀、新町、西口、西長堀、堀江、西道頓堀、松島、江の子島、本田、川口等をなす此區は運酒業者の商店諸會社多くして市街雜沓繁華の狀稍他區と異なれり其街衢の主なるものは常安橋、京町堀、新町、西長堀間屋橋等の通筋及び堀江松島川口等なり

雜魚場魚市 是京町堀川筋に在る市場にして三四丁の其間鮮魚問屋軒を並へ毎朝魚類の競賣をなす其雜沓喧嘩なる殆んど名狀すべからず抑も當市内魚市は尙ほ諸方に數ヶ所あれども當場は其根本にて紀泉舞淡等各州の津々浦々の漁師等は或は漁船或は和船に八方より集ひ來て以て販賣するを常となす全市中の料理店肴商等は皆毎朝此處にて買出しをなす對岸上下通に乾魚市あり主に鹽魚干魚肥料等を販賣す共に繁盛を極めたり

新町 是新町橋の西詰にあり著名なる遊里にして全然一廓を構成し其通りに櫻樹を植へ高樓軒を列らべて相對し常に狂歌の聲を絶たす

四ッ橋 是西横堀長堀の交流する四方に架する橋にして北を上槲橋南を下槲橋と云ひ南區に屬するもの吉野橋本區に在るを炭屋橋と云ふ此四橋恰も正方形をなして其狀甚だ奇觀なり此地に烟管の名物あり古來源藏張と稱して世に名高し
涼しさに四ッ橋を四ッわたりけり

四ッ橋の角立けるよ冬の月
來山
乙州

阿彌陀池 是北堀江四丁目にあり寺を蓮池山和光寺と號す本尊は阿彌陀如來にして元祿年中僧智善の建立なり抑も人皇第廿九代欽明帝の御宇百濟國より佛像を獻す大臣物部守屋等 帝を諫めて佛像を難波の堀江に投せし是舊史の記する處にして即ち此阿彌陀池其舊跡なりと云ふ後世その佛像は本田善光なる者あるを拾ひ信州に之き一字を建て善光寺と稱し茲ふ安置す今の信州善光寺これなり當寺も其舊縁に因り建立し寺内の常夜燈は建立當時の物なりと云常に參詣人群集す

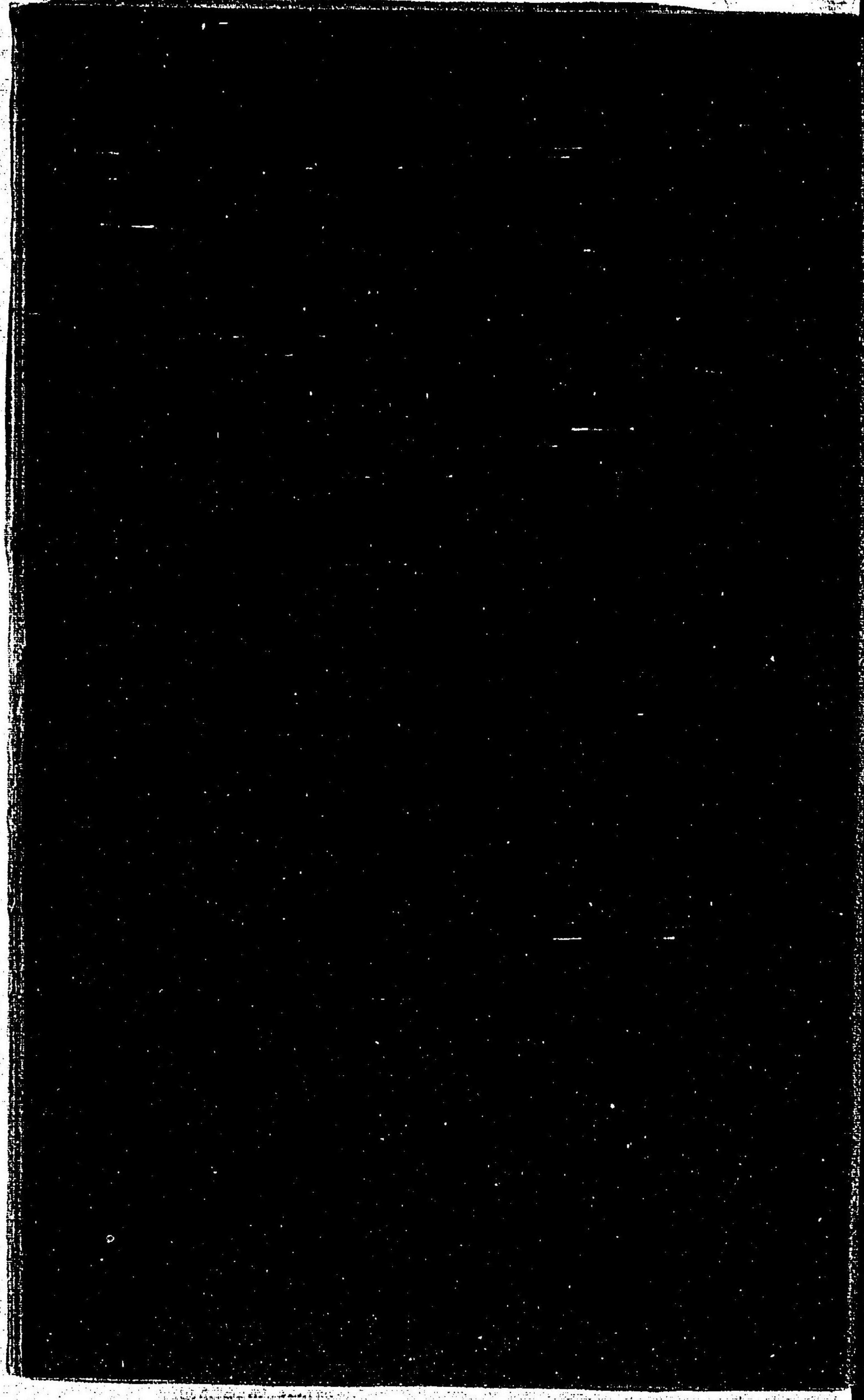
堀江こくたなふじ小舟行かへりねをし人にや懸渡りなん
命あらし今かへりるん津の國の難波堀江の芦のうらはに
小夜更てほり江こくたる松浦船かち音高しみをはやみかも
寺に寐て賦願なる月見哉
河原左大臣
嘉言
人磨
はせを

木津川 是淀川の下流にして中の島の極西より南に分流するを云ふ區内各堀川の下流を

大阪案内

受けて中道より一小流を分岐して遂に大阪湾に入る河邊は觀月紅葉の名所たり
 松島は區内の西部に一小岨を成し此地も有名なる遊里にして其他劇場あり又近年遊苑
 を開らき繁盛なる樂土なり
 尻無川は木津川の支流にして松島本田の間を流れ下流は大阪湾に注ぐ河邊風光絶佳に
 して堤上には數十株の榎を植へ盛夏の納涼晩秋の紅葉共に良節の客多し
 大阪府廳は江の子島中の町にあり建築甚だ壯麗にして巍然島中に聳へたり市俗呼んで
 政府と云ふ笑止々々警察本部其南に隣り下の町にありて亦建築壯大なり府會議事堂等も亦
 同所にあり
 外國人居留地は本田一番町に在り北部は歐米人の居館多く高樓巨厦整然として街衢尤
 も清潔に南部は支那人の住宅多く矮小にして街頭亦不潔なり
 安治川は淀川の末流木津川と分れて西流するものをいふ往時川村安治なる者此河道を
 治めたりとて此名ありと言傳ふ河口より天保山沖に至るまで和洋船舶の碇泊するもの數千
 を以て數ふべく出入亦繼るが如く此光景を一見して大阪商業の繁盛なる一斑を卜するに足
 る

河口に泊れる船をみよしのやたつ帆柱の二百千本
 三萬里波にゆられて船玉の神酒をいたく味ひあぢ川



受けて中道より一小流を分岐して遂に大阪湾に入る河邊は觀月紅葉の名所なり
松島 是區内の西部に一小嶼を成し此地も有名なる遊里にして其他劇場あり又近年遊苑
を開らき繁盛なる樂土なり

尻無川 是木津川の支流にして松島本田の間を流れ下流は大阪湾に注ぐ河邊風光絶佳に
して堤上には數十株の櫛を植へ盛夏の納涼晩秋の紅葉共に曳筥の客多し

大阪府廳 是江の子島中の町にあり建築甚だ壯麗にして巍然島中に聳へたり市俗呼んで
政府と云ふ笑止々々警察本部其南に隣り下の町にありて亦建築壯大なり府會議事堂等も亦
同所にあり

外國人居留地 是本田一番町に在り北部は歐米人の居館多く高樓巨厦整然として街衢尤
も清潔に南部は支那人の住宅多く矮小にして街頭亦不潔なり

安治川 是淀川の末流木津川と分れて西流するものをいふ往時川村安治なる者此河道を
治めたりとて此名ありと言傳ふ河口より天保山沖に至るまで和洋船舶の碇泊するもの數千
を以て數ふべく出入亦織るが如く此光景を一見して大阪商業の繁盛なる一斑を卜するに足
る

河口に泊れる船をみよしのやたつ帆柱の一目千本
三萬里波にゆられて船玉の神酒をいたゞく味ひあぢ川

春朝齋
菱 九

●軍人必讀之良書●

東宮武官長
陸軍中將男爵

黒川通軌公題辭

顧山

藤原懋先生編著

勳軍人名譽文獻

菊判大形全壹册
紙數三百八十頁
正價金參拾錢
郵税金拾錢

●附楠公軍教之卷

維新革命の變亂は我邦開闢以來未だ曾てあらざる所なり此間身を掲て國難に
當り遂に文明の世と爲せしは英雄豪傑の王なり本書は維新革命肥後の騷亂西
南の戦争等に英雄傑士が千軍萬馬の間に奔走しつゝ相ひ往復し或は時事を建
白せし所の書を輯志士の小傳を掲げ當時に身を併せし編尾に楠公の軍教
あり更に上欄に此等志士の下に感奮興氣せしむ謂ふ速に一讀せられよ

發兌元

大坂市東區淡路町
二丁目卅八番屋敷

文陽堂金川書店

● 天 眼 鈴 木 力 君 著 述 ●

增訂 三版 獨 尊 子

菊判大形全
壹册正價金
參拾錢郵稅金
六錢

再版 丈夫之本領

菊判大形全
壹册正價金
四拾錢郵稅金
六錢

活 文 字

菊判大形全
壹册正價金
廿五錢郵稅金
四錢

再版 活 青 年

菊判大形全
壹册正價金
拾五錢郵稅金
四錢

訂正 三版 立身問答

菊判大形全
壹册正價金
拾錢郵稅金
貳錢

國民の眞精神

菊判大形全
壹册正價金
廿五錢郵稅金
四錢

中西牛郎君著 佛教大難論

菊判大形全壹册
正價金四拾錢
郵稅金六錢

宗教 衝突斷案

菊判大形全壹册
正價金廿五錢
郵稅金四錢

小池民次君著 尾崎行雄君著 三版 教授及訓練

中形美本全壹册
正價金廿五錢
郵稅金四錢

訂正 七版 少年論

中形美本全壹册
正價金八錢
郵稅金貳錢

三版 尚 武 論

中形美本全壹册
正價金拾五錢
郵稅金不申受

谷口政徳君著 諸官立學校 及 第 一 受驗用新書

大形全貳册
正價金八錢
郵稅金八錢

發兌元 東京市神田西目博 文 堂

發賣元 大阪市東區淡 路町三丁目 金川書店

大勳位久邇宮朝彦親王殿下題辭
正五位男爵津守國美公序文
大久保初雄先生著

古 語 拾 遺 講 義

中形美本紙數二百五十頁全壹册
● 正價金參拾錢郵稅金八錢

本書は齋部廣成大人のものせられたるを基としてその義を講ぜるものなり此類の講義書多くありつれども簡略に過ぎたるあり煩雜に流れたるありて彼に短きは此に長き所ありとこれと一をて心より満す書なし本書ハ他と異なり語源より説きて古今の變遷を述べ今人に解し易き様に作れる好書也一讀して其益を知り玉へ

發兌元 大阪市東區淡 路町三丁目 金川書店

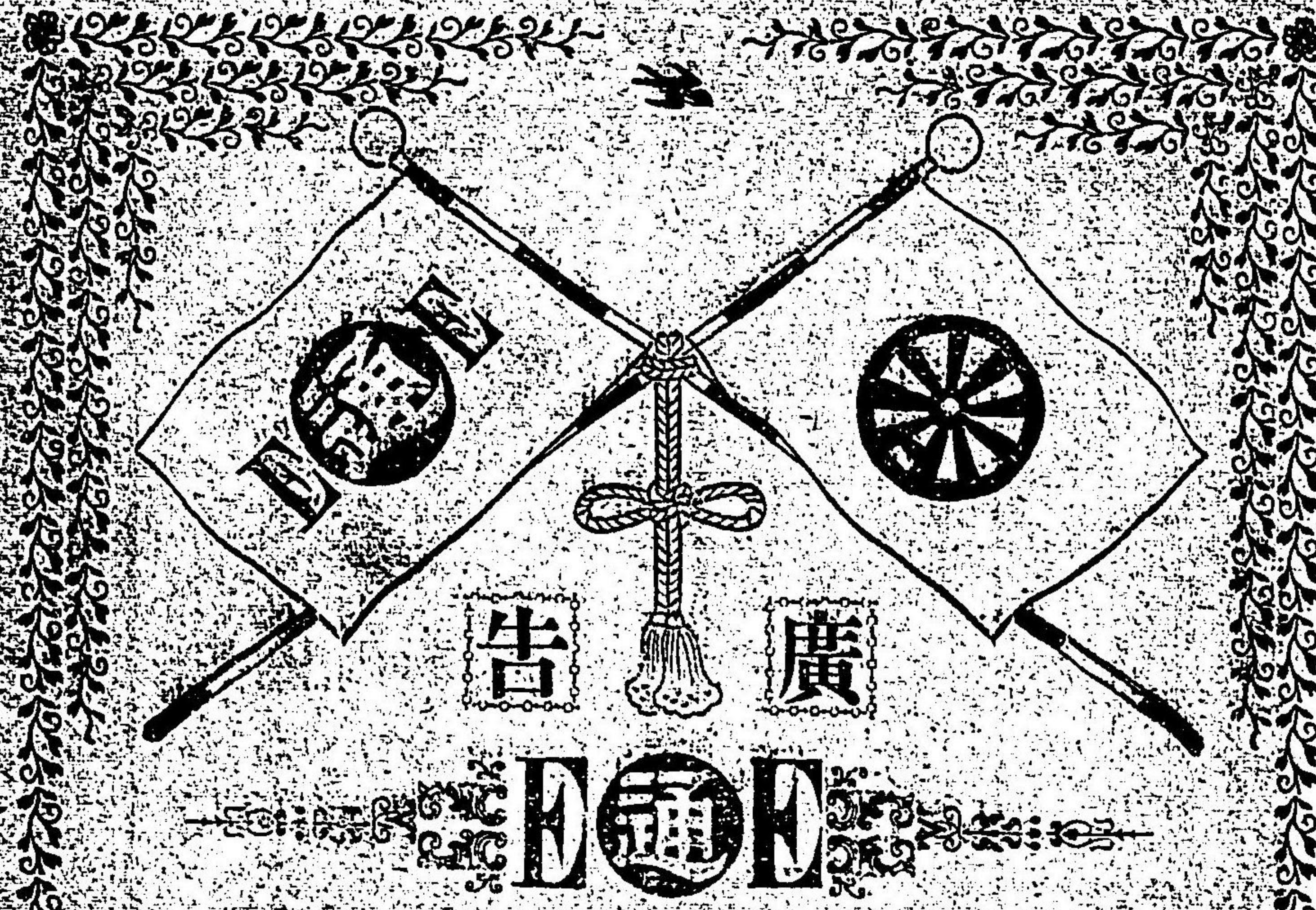
訂正再版發行 ● 梅 崖 山 本 憲 先生 著

圖 解 文 法 解 剖

中形美本紙數二百五十頁全壹册
● 正價金貳拾錢郵稅金六錢

夫れ文章は經國の大業不朽の盛事古より重きを天下に爲す亦宜なる梅崖山 先生著 一種新案なる 本先生著 一種新案なる 圖解 文法解剖 之 秘訣 之 解剖的 之 蘊奧 文章 之 奧義 之 指南 車 然氷解自ら 志す者一本を購ふて 究極するを得

發兌元 大阪市東區淡 路町三丁目 金川書店



運賃ハ荷物の種類と其數量及距離の遠近季節の如何とにより御引合に相成候様精々御相談可仕候尙小荷物ハ兩社共現行割引賃を以て速達の取扱可仕候

電話 六百三十三番
神田支店
電話 八十三番
上野出張所
電話 六百廿九番
池田出張所

岡本可亭先生著 高等新體婦人作文

中形美本紙數四百三十頁全登册
●正價金廿五錢郵税金八錢

從來婦人用文章の著多しと雖も唯だ其一端を記したるのみにして未だ完全なる書を見ず本書は岡本可亭先生時日と腕力を費し其學ぶべき順序楷法を盡く浸きより深きに入るの法に編し先生得意の筆を以て其文章の巧妙なる文明世界の婦人に適當し加ふるに範圍に○和語略解○冠辭略解○假名遣○送り假名○百人一首○近世才媛○女大學其他凡て婦女文學に必要なるものを掲げ實に婦女たる者座右に備へざるべからざる書也

發兌元 大阪市東區淡路町三丁目 金川書店

神保孝慶先生著 家庭教育 日本地理旅行談

中形美本紙數三百十頁全登册
●正價金貳拾錢郵税金四錢

本書は日本全國の旅行を五畿八道の順序を逐ひ最も平易なる紀行文を以て著述せしむるものにして少年學生をして興味ある旅行談を説く申は不識不知の創意なり加ふるに古今名家の勝記遊を補みたりは特り地理學のみならず紀行文を作る一助となるを以て本書が奈何に有益なるかを購給へ

發兌元 大阪市東區淡路町三丁目 金川書店



製 造

- 强硫酸 (六十五度以上)
- 晒粉
- 苛性曹達
- 曹達灰
- 鹽素酸加里
- 硫酸 (六十度)
- 鹽酸
- 硫酸 (五十五度)
- 鹽酸
- 硫酸



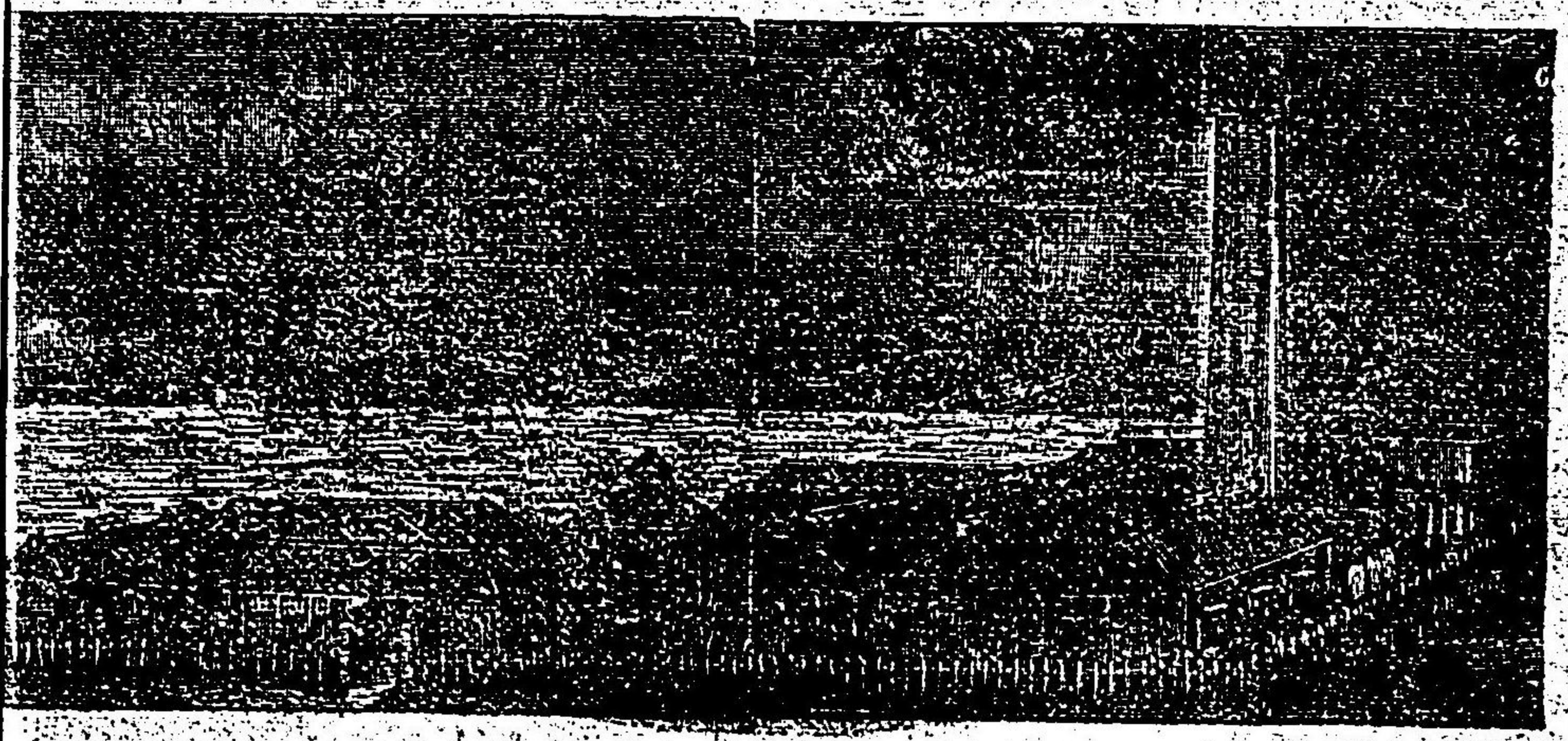
日本合密製造株式會社廣告

販 賣

山口縣赤間關市阿彌陀寺町
 東京市日本橋區小網町三丁目
 電話番號第千六拾八番
 大坂市東區京橋三丁目
 電話番號第拾三番
 山口縣厚狹郡小野田

馬關本支店
 東京支店
 大阪支店
 小野田工場

小野田工場



大 阪 案 内

天保山 は安治川の河口にあり初め安治、木津の兩川を浚濬したる土砂を積み後これを増堆して遂に一の山を成せり事天保年間在り因て以て此名あり往時此に砲臺を築き以て非常に備へたり維新後燈臺を建設す其高さ五丈二尺燈光は白色にして十二海里を照らすといふ公苑地あり又海水浴場あり旅館亦二三の料理店あり來遊する者跡を絶たず

◎南區 は東方に長岡相連り上町高津を限として東成郡部に接し西方は北半部西横堀を隔て西區に對し南半部は難波の入江を界とし南方と共に西成郡の町村と隣る東横堀は區の中央を横きり長堀道頓堀の兩溝となり東より西に並行して區の大躰を三分す兩溝の間中央部を長堀、島の内と概稱し長堀以北を南船場と稱東區の船場に連る而して道頓堀以南の地は即ち道頓堀難波新地等にして市街の尤繁盛なるは心齋橋日本橋松屋町順慶町の通筋とす心齋橋 は長堀に架す半月形の鐵橋にして明治五年の改築なり該橋の南北は即ち心齋橋筋にして北方は東區を貫通し市中第一の繁昌地たり其間殆んど一里にして通筋の兩側には諸の商店櫛比して吳服太物書籍類和洋雜貨に至るまで凡そ口常必要の品求めて是を得ざるなし

島の内 は南地五花街の一にして賑かなる街衢なり城内に御津八幡の社あり古代の建立なりと云
 日本橋 は道頓堀に架す橋北東區に貫通して般賑なる通街なり一に堺筋といひ南は今宮

天保山 是安治川の河口にあり初め安治、木津の兩川を浚渫したる土砂を積み後これを増堆して遂に一の山を成せり事天保年間在り因て以て此名あり往時此に砲臺を築き以て非常に備へたり維新後燈臺を建設す其高さ五丈二尺燈光は白色にして十二海里を照らすといふ公苑地あり又海水浴場あり旅館亦二三の料理店あり來遊する者跡を絶たず

◎南區 是東方に長岡相連り上町高津を限として東成郡部に接し西方は北半部西横堀を隔て西區に對し南半部は難波の入江を界とし南方と共に西成郡の町村と隣る東横堀は區の中央を横きり長堀道頓堀の兩溝となり東より西に並行して區の大躰を三分す兩溝の間中央部を長堀、島の内と概稱し長堀以北を南船場と稱東區の船場に連る而して道頓堀以南の地

は即ち道頓堀難波新地等にして市街の尤繁盛なるは心齋橋日本橋松屋町順慶町の通筋とす心齋橋 是長堀に架す半月形の鐵橋にして明治五年の改築なり該橋の南北は即ち心齋橋筋にして北方は東區を貫通し市中第一の繁昌地たり其間殆んど一里にして通筋の兩側には諸の商店櫛比して吳服太物書籍類和洋雜貨に至るまで凡そ日常必要の品求めて是を得ざるなし

島の内 是南地五花街の一にして賑がなる街衢なり城内に御津八幡の社あり古代の建立なりと云
日本橋 是道頓堀に架す橋北東區に貫通して般賑なる通街なり一に堀筋といひ南は今宮

村に通ず

高津神社 是高津一番町に在り府社にして 仁徳天皇を祭る本社は古へ大阪城の邊りに在りしを天正十一年此地に遷座す社地は 天皇の御座にして一堆の丘陵を成じ古松鬱蒼として天日を蔽ひ神殿南面して自ら神威の嚴肅なるを覺ふ社側に神樂堂あり亦高倉稻荷神社あり靈驗ありとて都人參詣絶へず此處より西面すれば全市を一瞥の下に瞰み雪の且の眺望は殊に爽快極り古來湯豆腐を以て此地の名物となせりと云本社東數町にして梅ヶ辻と稱する地に有名なる菊園あり又社西の市街二ツ井は繁盛なる處にして岩とことの名物あり今もなを民のかまとの烟まで守りやすらん我國のため

後宇多院 知家

大宮の御笠の蔭のひろければ天か下にはたれたかのまら
いにしへの難波のことを思ひいでて高津の宮に月の澄むらん
春の夜の月に昔や思ひいづる高津の宮に匂ふ梅か枝
ふりにける跡に心のとままるは高津の宮の雪のゆけほの

家千戸梅も千本の匂ひ哉
豊こそ若葉や越て西の海

班竹

傳云 人皇第十六代仁徳帝難波の高津に都を給ふ一日高臺に上らせ給ひ民家炊烟の稀疎

千代音

なるを見りなはれ其疾苦を 觀察ありて三年の課役を免じ宮殿頽壞雨露を漏らし星光御座を照らすに至るも取て之れを修め玉はす百事節約を守らせ給ひ如斯と數年にして五穀大に豊熟し百姓漸く殷富なり後年再び高臺に上らせ給ひて炊烟の熾んなるを觀察あり皇後に宣はく朕既に富めりと御詠あり

高き屋に上りて見れば烟立つ民の籠も眠ひにけり
蓋し民は國の本たりとの教慮を示し給ひしなり是に於て百姓大に感泣し貢を奉りて宮殿を修めんとを請ふて止まず工事起るに及び忽にして成れりと 帝寶算一百十歳にして崩御心玉ひ御治世八十有七年常に教慮を民事に盡し給ひし故百姓業に樂み天下泰平にして末年刑罰を用ひさると二十餘年なりと云山陽翁詩あり

烟未浮 天皇愁 烟已起 天皇喜 漏屋散衣富赤子

子富父貧無此理 八州糶々百萬烟 簇擁皇統長接天

桃山 梅ヶ辻の東二二町の處にあり桃花の名所にして其園林の廣袤數町歩花時大だ嬌艶にして遊覽の人羣集す二三の料理店及び市人の別荘等あり

生魂神社 是高津の南三四町東成郡生玉に在り官幣大社にして生魂命大國主命大物主命を合祀す本社は往時難波崎に創建し後天正十一年現今の地に遷せりと神殿壯麗にして境内廣く數十株の櫻樹を植へ花時の光景最も佳美なり近年夜櫻の名所として市人の嘖々する

處たり又蓮池あり額堂あり四時常に參詣遊覽の人絶へず社前には茶亭あり又料理店等ありて曳杖の人を待つ

清水 是生魂の南に方り東成郡天王寺村に在り新清水寺と稱す觀世音を安置す境内開雅にして最も眺望に富めり

安井神社 是同村に在り清水の東南に當る祭神は菅公にして俗に安井天神と云境内清爽幽靜にして此地も亦眺望に富めり

天王寺 是同村にして安井天神の東數町にあり荒陵山敬田院と號す當寺は 人皇第三十三代推古帝の御宇(去今二千三百年餘)聖德太子の創建にして我邦佛法最初の寺とす舊と西

玉造村に在りしを後此地に移せるなりと天正元和の交兵火に罹り焼失す尋めて慶長年間徳川幕府再興せり堂宇甚だ莊嚴にして境内廣潤觀るべきもの甚だ多し五重塔は一に雲水の塔と稱す高く寺内に聳へて登臨一望能く數里外の光景を收む此地も近年公苑地となし爾來

一層盛觀を培せり遊覽者此寺に詣るときは特に案内者を求むるを可とす聴く可きの由緒甚だ多ければなり

茶臼山 是同村天王寺の西にあり大阪陣の時徳川家康の陣營を置きし處にもて尤も勝景の地なり今陸軍省の用地となる

雲水寺 是茶臼山の東南隅の禪刹にして院内に精進料理を調進す市人の常に来遊する處

とす

阿部野神社 是雲水寺の南に方り安倍野に在り南朝の忠臣北畠顯家卿を祭る此地は卿が戦死の舊蹟にして古來大名塚と稱し苔蒸したる古墳ありしも世人のこれを訪ふもの稀なりしが維新後歴代の功臣を録し神殿を茲に創建され爾來大に世に顯はる又此地に吉田兼行の舊跡ありと今其處定かならず

なまき人のかたみの野邊の草枕夢もむかひの袖の志ら露 顯家の北の方

一心寺 是安倍野の東に方り茶臼山の西にあり淨土宗に於て圓光大師の舊蹟なり元和年中大阪陣の戦死者を此寺内に埋葬す此地も高臺に在るを以て寺内俗塵を絶つて風景も亦絶佳なり世に所謂合邦ヶ辻とは此寺の西邊をいふ

商業俱樂部 是同郡今宮村にあり五層の高樓にして市中有志共立なり最頂は眺望に住く以下各層茶店あり又雜貨の販賣店あり庭内には假山を築き池を造り花木を栽へ亭を建て閑靜且つ雅美にして最も消閑の地に適す又商品陳列所あり諸種の物品を販賣す

今宮戎社 是同村に在り廣田社の西に方る祭神は天照大神大己貴命素盞鳴命月讀命の四神にして毎年一月十日を以て祭典を執行す此日は市人群集し大に雜沓股賑を極はむ又同所に廣田神社あり

難波停車場 是難波に在り坂界鐵道の起點にして乗客の昇降頻繁なり當市より泉州紀州

に行く人は此瀛車に據るべきなり停車場前にパノラマ館あり観覧を許す
 千日前 是區内道頓堀の南部にあり此地は舊時仕置場にして寂寥たる荒原なりしと今は
 市中第一の熱鬧地にして恰も東京の淺草公園京都の新京極と一殿其繁榮は優るも又劣る
 べくも見へず鐘鼓絃柝人聲と和し喧々囂々晝夜絶へず一たび城内に入れば耳聾し魂飛ぶか
 と疑はる編者は一筆に此地を評し遊藝博覽會場といわんのみ南隅に眺望閣あり九層樓にし
 て登覽者常に多し

道頓堀劇場 是道頓堀の南岸に在り市中芝居の本場所にして角、中、浪華の三大座及朝
 日、辨天の二中劇場軒を並べ四時興行絶ゆる時なく此境に在るものは世の不景氣を知らず
 と云ふも亦過言にあらざるべき般賑なる樂境なり今此地の名優として噴々たるものを擧ぐ
 れば嵐璃寛を始めとして市川右團治中村雀右衛門中村福助片岡我童嵐橋三郎中村時藏等の
 先輩ありて花形賣出にて儲々たるは中村雁次郎片岡我當其名聲優劣なし
 難波新地 是區内西南隅の一區域にして一に南の新地とも云市中尤も有名なる遊里にし
 て料理店貸席等到る處に角燈を懸じ晝夜絃歌の聲を絶すと
 湊町停車場 是大阪鐵道の發端にして西區湊町に在りて市の西南隅に方る道頓堀の南岸
 を西に下り「なみよき」橋を渡れば即ち停車場前に至る此鐵道は河内大和に通ずるものにて
 天王寺村に次驛あり是に依り單に四天王寺近傍の諸名勝を探くるには此瀛車に乗り次驛に

て下車するを至便とす

◎北區 是東南に淀川を控へ西北は西成郡の町村と接し細長なる一區域にして區内を網
 島、川崎、天満、曾根崎新地、堂島、中の島、富島等に大別したり此區は他區に比較すれば
 稍閑靜なる傾きあり然れども遊覽の地は殆んど専有するものゝ如し而して市街の繁華なる
 部は濱通市の側、天神橋筋、北の新地、堂島等とす

天満橋 是淀川三大橋中の上流にある鐵橋にして其長さ百十五間明治廿二年の改築なり
 其結構甚だ堅牢壯麗にして橋上最も眺望に富めり此橋は將葦島の隄防を挾はさみて兩橋と
 なり東北兩區を連絡す

網島 是淀川猫間川の合流する其中間に突出する堤の東方一體の地の總稱なり脫塵の勝
 地にして幽靜閑雅殊に淀川沿岸の地は其眺望大に佳なり城内に市紳の別業又大長寺内に小
 春治兵衛の墳墓等あり

櫻宮 是網島の東北に方り淀川の東岸にあり東成郡都島村に屬す太神宮を祭る社地は老
 松鬱蒼として社邊櫻樹林を成し即ち大阪にて櫻花の名所なり花時は遊覽の老若男女或は陸
 或は船に群集して雜踏を極はむ河岸源八の渡しあり直ちに造幣局に至るべし

造幣局 是區の東端新川崎町に在り建築廣壯にして敷基の烟突屋上に聳へ黒煙常に天を
 蔽ふこれ我邦に流通する金銀銅貨の鑄造所なり

長柄 是造幣局の西北に方る西成郡の一部落にして河邊の長堤大に風致あり村内豊崎宮は 人皇第三十六代孝德帝の行宮ありし舊蹟にして南長柄の鶴瀨寺は天台律宗の古刹にして雲松山慈濟院と號し幽靜閑雅の淨地たり長柄橋の事種々の舊記あれども茲に略す

扱もけになからの橋のなからへて世を渡る身を苦しかりける

いにしへにあらすなからの橋柱ふりにし跡を忍はすもなし

さもあらはあれ名のみ長柄の橋柱朽すは今の人も志のはし

朽ねたうき身なからはし柱世を渡るへきたつきたになし

春の日のなからの濱に舟とめていつれか橋をとへと答へぬ

難波なるなからの橋もつくる也今ハ我身を何にたとへん

天満天神社

天満天神社 是天満に在り府社にして曾公を祭る神殿壯麗にして境内廣く梅樹多し末社には蛭子、猿田彦、手力雄、及び野見宿禰等を祀り參詣群集晝夜絶へず社邊常に露店を張り其般賑雜沓をふるも市中の各神社中本社を以て第一とす例祭は毎月廿五日にして毎年七月廿五日大祭を執行す之を天神祭と稱し市中第一の盛觀なり

傳に云本社は天曆の昔此地の北方に小山あり其叢林の中に靈光を發す里人あれを見て奇異とをし其地に一祠を創建し後寛文中に今の地に遷座すと

本社之裏門に出づれば一區の遊樂境にして女義太夫講談落語其他各伎の定席あり又劇場あり

龜山院

順徳院

定家

慈慶

おなし人

伊勢

り揚月店あり寫眞屋あり群集雜踏喧噪を極はむ表門を南に行けば即大川河岸に出るなり
夫滿青物市場 是淀川の北岸即ち濱通市の側と稱し茶蔬菓物の市場にして其繁昌雜沓を
る雜魚場魚市と一對の壯觀なり

天神橋 是淀川に架す三大橋中第一の長橋にして其長さ百廿二間餘構造最も堅牢にして其宏壯美麗なる實に人目を驚かす此橋も明治廿二年天満橋と同時の改築にして鐵製なり橋上眺望絶佳にして夏時の納涼尤もよろし

難波橋 是同じく三大橋の一にして其長さ百十四間餘中の島を挾はさみ土佐堀堂島兩川の分岐する處に在り此橋も亦鐵製にして美麗なり

中の島 是土佐堀堂島兩川の間在る細長なる一區域なり島中の東部を劃して公園地となす園内廣潤特に見るべきの風致なきも盛夏の候難波橋の橋上橋下納涼の客群集し數百艘の小舟は流れに泛べ涼風を迎ふ其景恰も人界に銀河を現出せしやと思はれこれ此地の美觀なり豊國神社あり豊臣秀吉公を祭る社側に明治紀念碑あり西南戦死の軍士のため建設せしものにして石材は御影石なり又能樂堂あり其他自由亭洗心館等有名なる料理店あり又有名なる大阪朝日新聞社あり而して漸々西方に下れば師範學校、醫學校、府立病院、郵便電信局、製紙、製紙、兩會社等何れも建築壯大にして見るべきの價あり
大阪控訴院 是地方裁判所と共に若松町に在り何れも建築壯麗にして市坊の間に巍然た

堂島 は中の島の北に并び同じく細長なる處にして有名なる米市場は此地一丁目の河岸に在り今大阪米穀取引所と稱し我邦第一の相場所にて東京取引所の如きも日々當所の電報に依り其高下を左右せり抑も當所の起原を尋ねるに今を距ること三百年前天正年中豊臣氏の時豪商淀屋辰五郎なる者(今の淀屋橋の南詰に住宅ありし)諸國の米穀を買収して店前に市をなし諸人に販賣せしに始まり其遺業を傳へ後ち今の地に開市して連綿今日に至ると云ふ其賣買の出來高は毎年の平均大凡三百萬石内外にしてこれを代價に概算すれば一千八百萬圓の巨額に上ると實に盛んなりと謂つべし此より西下して三、四丁目に至れば商法會議所及商品陳列所五代某の製藍所及測候所紡績所等ありて共に廣大なる建物なり

富島 は北區の西方にあり其波止場は船客の昇降貨物の上下最も頻繁なる所にして常に繁榮雜沓の地なり

北の新地 は曾根崎新地の別稱にして堂島より東北に方る難波新地と南北相對し市中屈指の遊里にして貸席を以て數町の間を充たす

露の天神 は新地の西曾根崎村に在り菅公を祭る此地は菅公左遷の時福島に舟泊ありて大融寺詣での道すがら露いと多く裳を沾ふしければ「露と散る涙に袖は汚にけり都のこと」を思ひ出れば「と詠じ玉ひしより後世祠を建てて祀ると云

露とてもまたには見る長月の菊の千とせを過と思へは 實之

北野 は市北郊野の概稱にして春秋の候散策に適す域内に古刹あり桂木山大融寺と稱す弘法大師の創建にして千手觀音を本尊と崇む後世左大臣融公當寺造營の事ありしと又高樓あり後醍醐天皇と云ふ

梅田停車場 は市外曾根崎村に在り

野田の玉川 は西成郡野田村に在り藤花の名所にして花時遊覽の人おほく又村内社寺の訪ふべきもの二三あり

福島 は西成郡の一部落にして曾根崎村の西方に連り野田村の南に位す村内に遊櫓の松、夫婦藤、五百羅漢等の名勝あり

右の外尙は觀るべきの名勝舊跡數多きも一々枚舉するに遑あらず仍つて茲に省略せり然るに當市銀行會社の多きを實に驚くべき數にして其資本金一萬圓以上の者本支店を合せて一百四十有餘あり今其主要なるもの二三と且つ學校病院及旅舍物産等の案内を附記す

銀行 本支店

- | | | | |
|--------|----------|-----------|-----------|
| 日本銀行支店 | 東區大川町 | 第卅四國立銀行 | 東區高麗橋筋四丁目 |
| 三井銀行支店 | 全區高麗橋二丁目 | 第十九國立銀行支店 | 西區西長堀四丁目 |

第十三國立銀行 東區今橋二丁目
 第一國立銀行支店 全區高麗橋筋三丁目
 第三國立銀行 東區本町四丁目
 大阪共立銀行 北區中の島三丁目

諸株式會社

大阪 案 内

澱川瀨船會社 東區京橋三丁目
 共榮社 全區全町
 日本火災保險會社 全區今橋通二丁目
 共立砂糖會社 全區唐物町三丁目
 内外綿會社 全區源藏町
 大阪織物會社 西區花園町
 大阪電燈會社 全區西道頓堀二丁目
 大阪商船會社 北區富島町
 大阪紡績會社 西成郡三軒屋村
 難波紡績會社 全郡傳法村

日本生命保險會社 東區北濱町四丁目
 大阪酒造研究所 西區南堀江通三丁目
 大阪砂糖賣捌會社 北區玉江町二丁目
 大阪染物會社 東區京橋三丁目
 洋傘會社 東區平野町四丁目
 大阪活版製造所 東區北久太郎町二丁目
 國文社 全區本町一丁目
 天滿紡績會社 全郡川崎村
 硫酸製造會社 全郡川南村

各學校

大阪 案 内

師範學校 前出丁
 市立高等女學校 全上
 大阪尋常中學校 西區江戶堀北通二丁目
 公私病院

大阪府立病院 前出丁
 緒方病院 東區今橋筋
 華岡病院 南區鹽町四丁目

大阪市內旅舍一覽

紫雲樓 東區今橋四丁目
 き九川 全大川町
 竹式 全北濱一丁目
 山鶴 全島町一丁目
 加納屋 全伏見町三丁目
 柏屋 全本町一丁目

醫學校 全上
 商船學校分校 全區富島町
 大阪商業學校 全區全堀南通三丁目

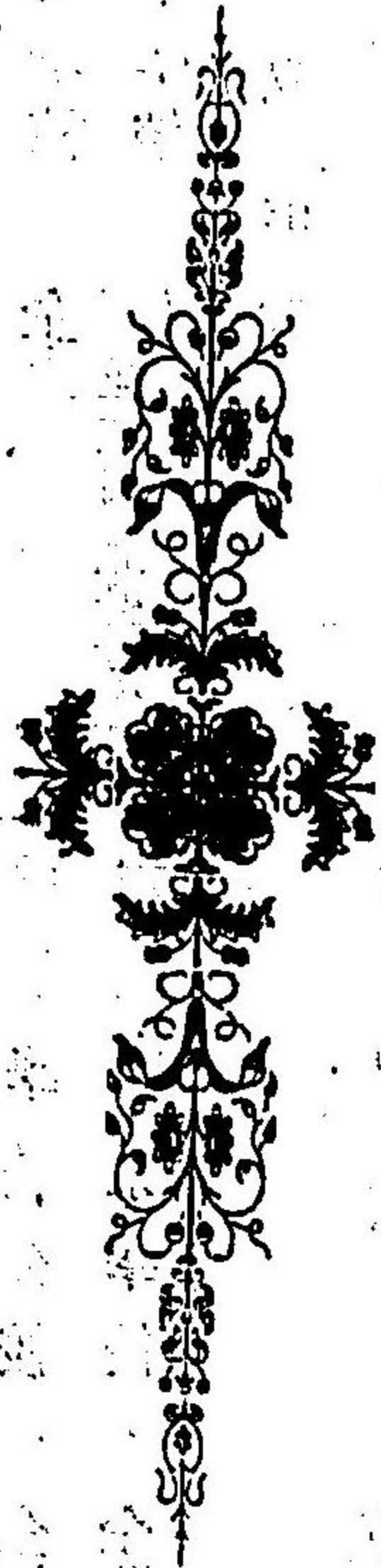
吉田病院 東區高麗橋筋
 高橋病院 北區中の島一丁目
 吉益病院 西區江戶堀三丁目

備忠 東區大川町
 鈴木屋 全備後町二丁目
 大八 全本町一丁目
 松卯 全大川町
 駒井屋 全安土町二丁目
 柳屋 全北久太郎町一丁目

大阪案内

宮もと 西區長堀橋北川岸
 岸澤屋 南區大和町
 丸萬 全區齋橋筋一丁目
 松屋 全區頓堀大和橋
 榭屋 全區日本橋筋一丁目
 自由亭 北區中之島一丁目
 産物 は酒、醬油、生綿、紡績糸、木綿類、半苧り類、花替、煙草入、煙管、藤細工、
 弓絃、石礮、細工昆布、各種漬物、天王寺蕪、鯛味噌、池田炭、有馬筆等最も著名なるも
 のとす

花屋 北區中之島三丁目
 せん崎 全北濱三丁目
 環龍館 全中之島五丁目
 花外樓 全北濱二丁目
 錦波樓 全北濱四丁目
 竹田屋 全種上町



明治廿七年六月二十日印刷
 明治廿七年六月廿四日發行

定價金五拾錢

編輯者 林 莊 太郎

大阪市東區淡路町貳丁目
 卅八番屋敷寄留

印刷者 東京製紙分社 星野 諤 二郎

東京市日本橋區兜町貳番地

印刷所 東京製紙分社

東京市日本橋區兜町貳番地



版權所有

發賣所

大阪市東區淡路町
 貳丁目卅八番屋敷

金川書店

(電話架設中)

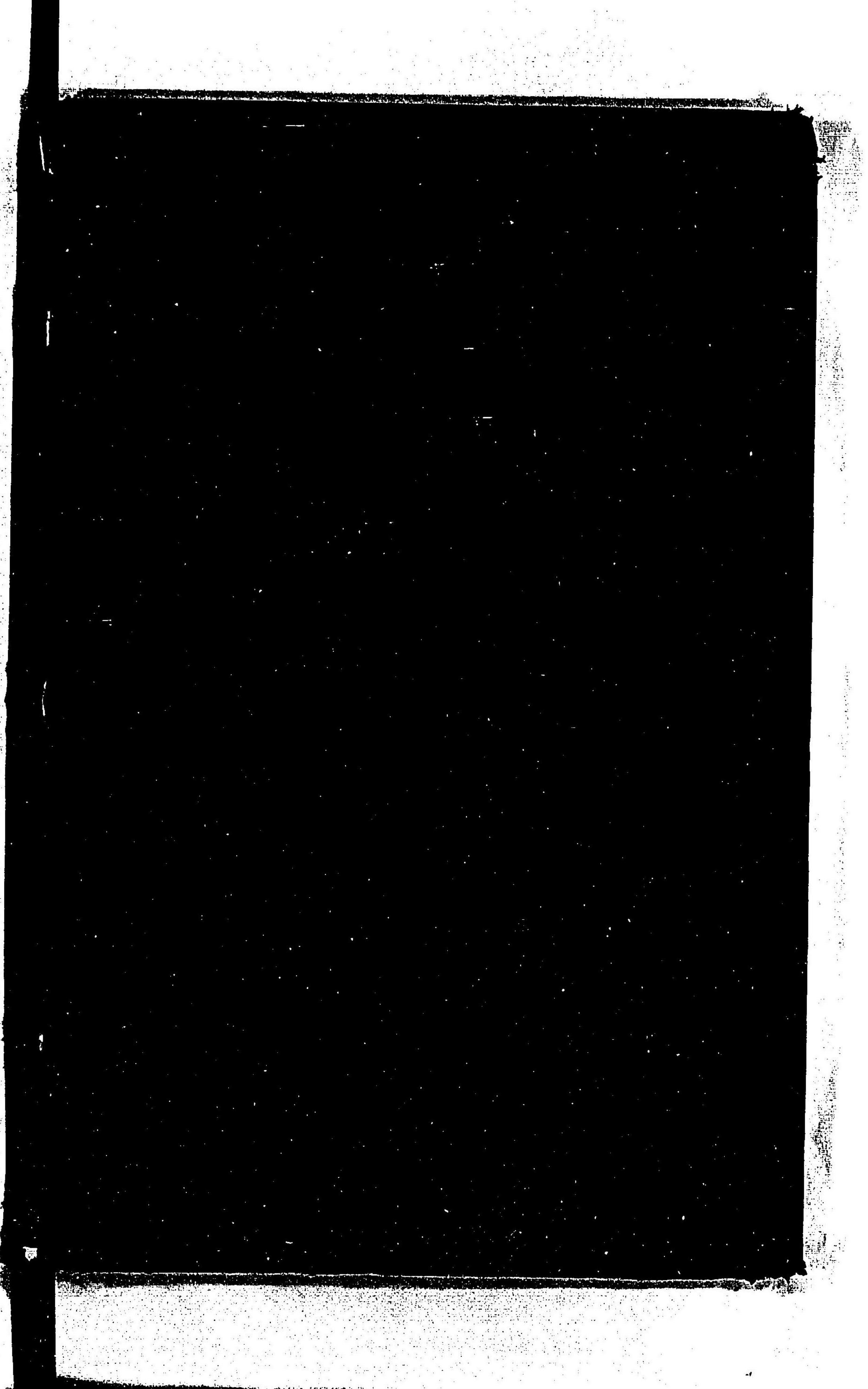
卷之四

...

...

...

1114
564



022578-000-6

44-264

全国鉄道賃金名所旧跡案内

林 莊太郎/編

M27

ADB-0276

